

三方岩岳馬場ルートより野谷岳司山 (奥美濃) 金谷 昭

世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

<p>紅葉前のような風景、連なる大岩壁</p> <p>秋のドロミテとオーストリアハイキング 9日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京</p> <p>●9/18発……………¥520,000 ●10/1発……………¥448,000 ●10/9発……………¥438,000</p> <p>ロッキーのハイライト部分をハイキング三昧!</p>	<p>地球の歴史が刻まれたキャニオンとロッキー山脈</p> <p>グランドサークルとアメリカンロッキーハイキング 12日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京</p> <p>●9/24発……………¥576,000</p> <p>空気に舞く神祕のカーテン。秋のカナダの魅力に魅</p>	<p>秋色に染まる乾期のベストシーズン!</p> <p>錦秋の四姑娘山ハイキングと九寨溝、黄龙 9日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京・福岡</p> <p>●10/7●10/11●10/18発……………¥318,000</p> <p>中国の辺境、雲南最北の山脈</p>
<p>世界最高峰をデブットから登る</p> <p>秋のカナディアン・ロッキー満喫ハイキング 8日間</p> <p>日程 大阪・東京</p> <p>●9/13●9/20●9/27発……………¥398,000 ●9/18発……………¥418,000</p> <p>静寂なるデブット文化の息遣へ</p>	<p>秋のイエローナイフ・オーロラウォッチングとロッキー縦断 8日間</p> <p>日程 大阪・東京</p> <p>●9/18●9/25●9/30発……………¥448,000</p> <p>先達KLMオランダ航空副団長でアフリカ遠征隊に参</p>	<p>中国の辺境、雲南最北の山脈</p> <p>聖山・梅里雪山アイスフォール展望ハイキング 7日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京</p> <p>●10/28●10/29発……………¥308,000</p>
<p>チョモランマB.C.と8,000m峰5座展望 13日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京・福岡</p> <p>●10/10●10/31発……………¥548,000</p> <p>台湾の最高峰と第2峰に登頂!</p>	<p>聖山カイルス一周トレッキングとチベット高原大走破 25日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京・福岡</p> <p>●9/29発……………¥798,000</p> <p>台湾の最高峰と第2峰に登頂!</p>	<p>先達KLMオランダ航空副団長でアフリカ遠征隊に参</p> <p>キリマンジャロゆったり登頂とサファリ 11日間</p> <p>日程 大阪・東京</p> <p>●9/29発……………¥576,000</p> <p>大高所山岳遭難60周年記念・特別企画</p>
<p>台湾の最高峰と第2峰に登頂!</p> <p>玉山と雪山 台湾の2座登頂 7日間</p> <p>日程 大阪・名古屋・東京・福岡</p> <p>●9/20発……………¥210,000 ●10/4発……………¥204,000</p> <p>●9/24発……………¥244,000 ●10/8発……………¥256,000</p>	<p>大高所山岳遭難60周年記念・特別企画</p> <p>ネイチャーパラダイスinボルネオ、Mt.キナバル登頂 5日間</p> <p>日程 大阪</p> <p>●9/24発……………¥183,000</p>	

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>



アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(263)4611(転送)
 (※りんゆう観光) 広島/☎082(542)3990(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でもオリジナルツアーを企画してみませんか?
 山岳会、ハイキングクラブで企画
 ツアーリーダーも同行し、安心の山脈
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
 キングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩き
 をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
 らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
 ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスタイルを上映します



ススキ (葛城山)

今日から9月
 すすきの原っぱに足を踏み入れる
 風が吹くたびしなやかに揺れる穂
 すすきの波の中を歩き
 夕日に輝いた銀波の美しさに感動
 根本にナンバンギセルが
 ひっそり蕾をつけていた
 秋は間違もなく近づいている
 道の^{そば}の尾花が下の思ひ草
 今さらさらに何をか思はむ
 万葉集に残る恋の歌
 道のほとりの尾花の元に咲いてい
 る思ひ草、思い悩むようにうつむ
 いて咲いている。いまさら私は、
 何を思い悩んだりしようか。

ススキ (奈良・東大寺裏)



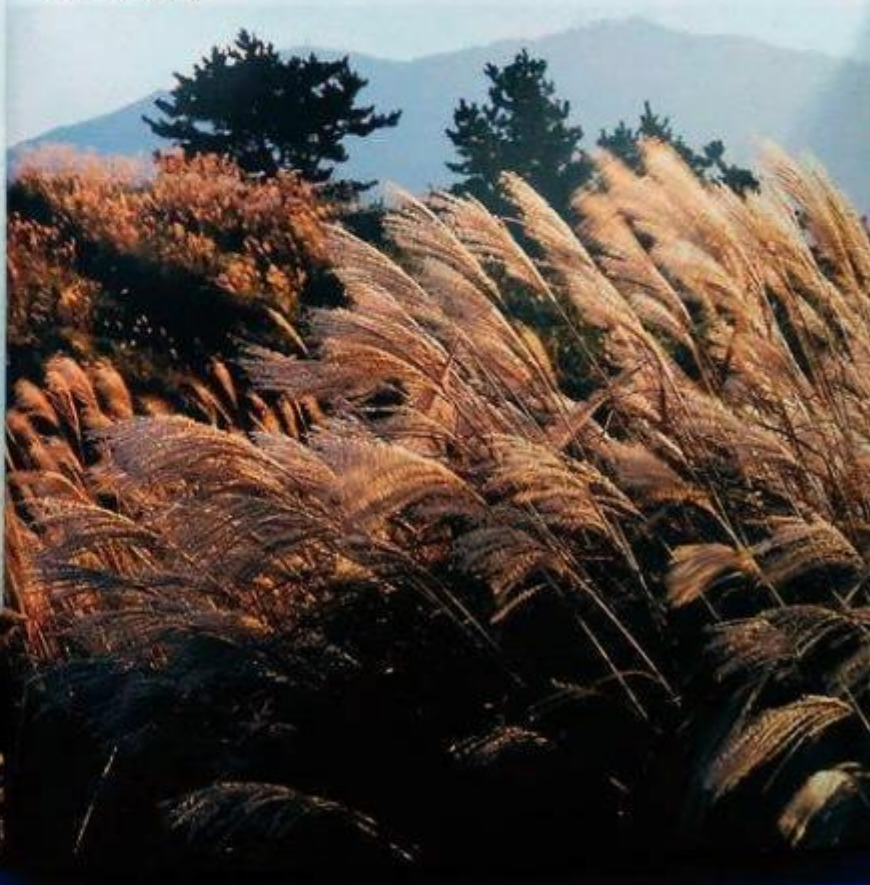
Photo essay

長月



題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

ススキ (葛城高原)





岩船寺

笑い仏

季節の



無人吊り店

実景

加茂（当尾の里）

初秋

撮影 武市通治



木津川朝景

カラスの壺石仏





別山から白山へ（白山山系） 一芝 義雄

錦秋の装い（鈴鹿・御在所岳中道より） 武田 誠司



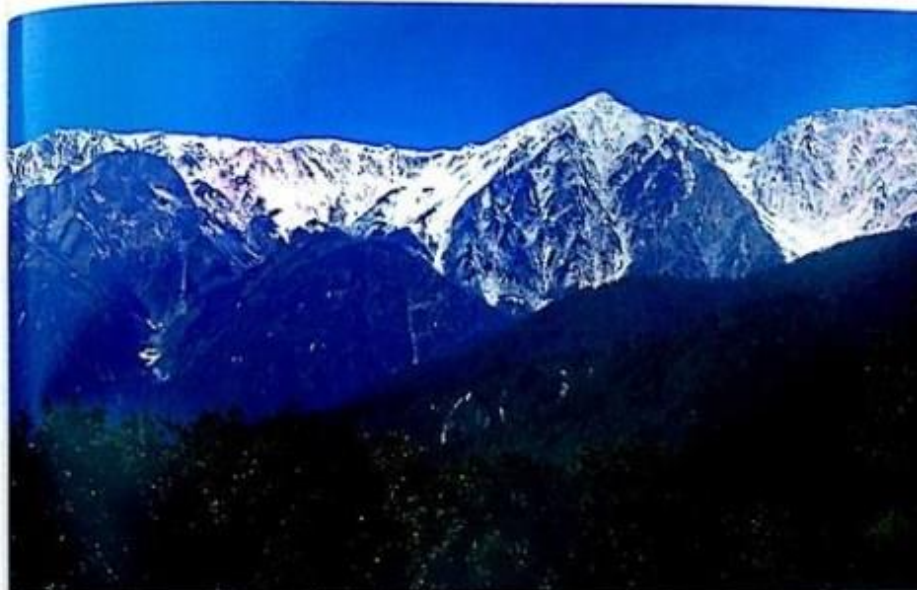
下栗の里より聖岳遠望（南アルプス） 稲垣 勝義

美ヶ原より浅間山（東信） 中川 光郎

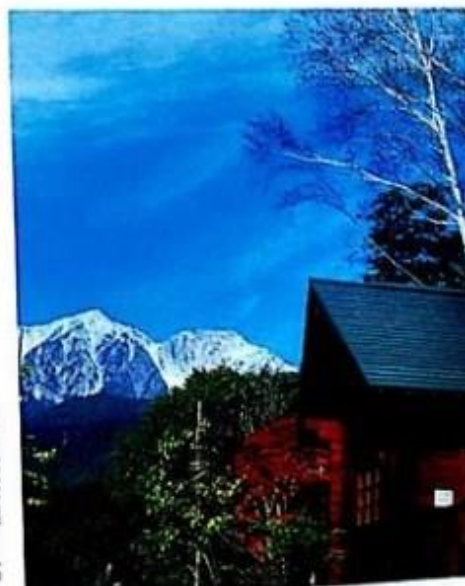


秋は山から下りてくる -北安曇野-

奥田 英一郎



天狗尾根に初冠雪



秋の気配が漂う(中編遊)

別荘も閉じられて(どんぐり村)



新小伴ダ 別冊 関西の山

06 9・10月 初秋 第90号

●目次

表紙：松田敏男「塩見岳肩より夕焼けの白峰三山を望む」(南アルプス)

●本書プロフ。ー 1949年、京都生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳探検、登山地の調査などに従事。(京都府立芸術大学、南アルプス山岳研究会、東京トウワリー一白、他) 山の探検家「光る山」刊行(東京探検隊発行)。京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア

長月……………撮影 由井 収 文 松永 恵一	季節の実景(初秋)「加茂(尾の里)」…………… 武市 通治	(口絵) 金谷 昭 稲垣勝義 中川光郎 一芝義雄 武田誠司 奥田英一郎	理想(山のエッセイ)	春の双葉…………… 鷺見 守康	茶ヶ岳のこと…………… 山形 明	安曇川流域の思古淵神(霊神)…………… 綱本 逸雄
------------------------	-------------------------------	-------------------------------------	------------	-----------------	------------------	---------------------------

紀行

横ヶ山と星山(元作)…………… 鷺見 守康	新ヶ山 池木屋山(台)…………… 島田清一郎	ヤケオ山東方尾根登高(北原)…………… 小山 誠次	運載 標高による山の紹介シリーズ 30 △△90以上の山…………… 松田 敏男	旭岳・花房山・カクレクラ…………… 長谷川 雅俊	孫太尾根を歩く(鈴鹿)…………… 鷺見 守康	奇岩怪峰の妙義山(上州)…………… 田中 明	那須岳(前山連峰)…………… 山形 明	栗原山・無反山・手掛岩山・新原山・尾城山・松尾山(前山)…………… 高島 伸浩	釜山・金井山(南)…………… 生駒 盛峰	日本の東・西・南・北端…………… 磯部 純	運載 三角点を訪ねて…………… 磯部 純	木地山峠から駒ヶ岳・池原山へ(湖西)…………… 磯部 純
-----------------------	------------------------	---------------------------	---	--------------------------	------------------------	------------------------	---------------------	---	----------------------	-----------------------	----------------------	------------------------------

●エリヤ別巻研究 伊能フョーク I-Nやまと

①長谷寺駅、三本松駅…………… 上田 倅弘	②室生口大野駅、近鉄名張駅(谷)…………… 松永 恵一	③琵琶湖に浮かぶ竹生島を訪ねて(湖北)…………… 西尾 寿一	④「山のレポート」山の地名を歩く②「アマゴセ山」…………… 長宗 清司	⑤「行者山から駒ヶ岳へ」(湖北・湖西)…………… 長宗 清司	⑥金比羅山(のべふり山)と小牧山(美濃・尾張)…………… 長宗 清司	⑦飯盛山から外津及山(奥美濃)…………… 金谷 昭
-----------------------	-----------------------------	--------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------	---------------------------

沿線ハイキングガイド…………… 76	せせらぎ…………… 79	新ハイサービステーション…………… 82
--------------------	--------------	----------------------

新ハイ関西山行計画…………… 112	新ハイ関西山行報告…………… 121	編集後記・広告案内…………… 188
--------------------	--------------------	--------------------

巻頭言

情報誌は、新聞紙面と同様に事実を正確に伝える媒体であり、小説などの虚構の世界ではない。とくに本誌は、不正確な記述や間違った情報を掲載することは厳に慎んでいる。登山者の遺棄や生死にかかわるからである。編集時点で私の唯一の頼りは寄稿者からの生原稿であり、それに手持ちの資料、従弟私が発った経験、地形図などから裏付けをとっている。無論、掲載する全ての山へ登って再調査する余裕は無い。この点、いまままでに大きなミスをおぼし、皆さんにご迷惑をかけたことは幸いである。

ただし、皆さんと山へ一緒に晴したときなど、思わぬ話を耳にすることがある。「ほんまかいな？」と疑うこともある。山を歩かれるとき、いろいろな人と話題は尽きないが、事実で正確な山の情報なら問題ないのだが、人からの又聞き話も多いように思う。最後に「……らしいよ」と、尾ひれがつくのはいたいていこれである。他人の噂話も多く、誤解ならその人を傷つけることになる。

山のなかではいったん世間を忘れ、自然を楽しむにつつ静かに歩きたいものです。

新ハイキング関西(代表) 村田 賢俊



春の双葉

鷺見 守康

4月22日、例会山行で妙義山の中間道を歩いたときのことである。

広葉樹の林内は、4月下旬とはいえず木々は芽吹き季節を迎えたばかりで、林床の道には深々と落ち葉が続いていた。そんな静かな時間が流れる林内に、わがパーティのざわめきを誘う双葉があった。

形は高山性の花、フタバランに似て、何とも愛敬のある双葉の間からピンク色をまがした芽をのぼしている。どこかで出会ったような記憶があり、記憶の糸を手繰ろうとするが思い出せなかった。

山旅から帰毛し、自然観察会の仲間（実は「師匠」）に電話してわかった。林床一面に並んだ

愛らしい双葉は、イヌブナの芽生えであった。今年、イヌブナは各地で活発に芽を出したそうだが、ブナにも劣らず、昨秋の実りが大豊作だったからだろう。

5月20日の個人山行。美濃の湧谷山では、ブナ林に入るとブナの芽生えがすばらしかった。

イヌブナよりわずかに小さな双葉だが、種子から芽をのぼしたばかりの殻を付けたままのものや、双葉の上に本葉を展開しているものまで成長段階の様々な姿を見せていた。双葉は、ブナからは想像もできない形だが、本葉はまさしくブナの「顔」をしていた。

ブナの種子は、地上に落ちた後、ほとんどのものがネズミなどの動物に食べられてしまうけれど、おおよそ6年に一回ほど動物が食べ尽くせないほど大量の種子を散らす「豊作年」があり、この年に子孫を残すのだ

という。

植物には、子孫を残すための様々な戦略がある。動物の食害から逃れるため毒性を身につけたものさき多いというのには、ブナは食べられることをいとわず、林内の生物に恵みを与えながら子孫を残す戦略を用いている。

しかし、食べられずに残ったこれらの双葉も、やがて死滅していくはかない命である。ブナの親木が葉を全開し、地上に太陽の光が届かなくなると、「ブナの子供たち」は成長できず、次々と姿を消していく。

なぜ、ブナはそんな子供たちをこの世に送り出すのか。これをブナの「掛け捨て保険」だという考え方があろう。もし、親木が倒れたら林の中に光が届く空間ができる。その空間に、ブナの新しい世代が育つのだ。ブナはこうして種をつなぎ、森を守っていく。



随想 (山のエッセイ)

5月27日の例会山行。富士五湖・西湖の北に位置する玉岳にもイヌブナのおびただしい芽生えが見られた。ところが、さらに登ってブナ林になると、ブナの芽生えはほとんど見られなかった。太平洋側のブナは昨秋不作だったようだ。

いつからか、太平洋側のブナと日本海側のブナの実りの周期は異なってきたようだ。もともとブナは日本海側の多雪地の樹木で、太平洋側のブナは氷河時代に進出したものの遺存種ではないか、という説もある。

遺存種であればやがて滅びてしまうのだろうか。それとも、新しい遺伝子を得て、独自の歴史を刻んでいくのであろうか。

ブナの林には独特の空気が流れている。清々しく気温高く、そして穏やかな空気だ。そんなブナの林に、この春久方ぶりに芽生えたブナの双葉たちは、ブ

ナのエッセイ

双葉のこと

山形 明

石川・高山・岐阜三県境に双葉ヶ岳がある。初めてこの山を知った時、私はこの山名が読めなかった。隣には人気が大笠山があり、この山はただのやぶ山だろうと思っていた。周辺の山を登り始めて、山オヤジから話を聞くにつけ、全国から注目を集めている山であることがわかった。二百名山に名が載り、日本百名山の著者の記述もあるのだ。

遠方からの人は、山オヤジに山の様子を聞いて双葉ヶ岳に登る。ある人は二度の登頂を試みたが失敗した。あきらめきれず、ついにヘリをチャーターして双葉ヶ岳の上をぐるぐる廻ったそう、山オヤジも同乗させられて案内

したそう。

この双葉ヶ岳に突き上げる清水谷をとり巻く山腰上には数々にくい山名が多い。後高山はシリタカ山、岩底谷の頭はカマッコ谷の頭、冬山山はカモウリ山、大籠山はオオフクベ山。山毛髯尾山は髯尾山でよいのではないかとも思える。清水谷はシロウズ谷だ。

私が清水谷へ様子を見に入った後、「せせせ」種で誰かいるしよに行く人はいませんかと書いたところ、昨年10月山田明男さんからお誘いを受けた。しかし予定した当日は天候が悪く、今年の5月に行くことにした。

その直後、鈴鹿のひとりしずかムトウ女史から「次週末が今年最後のチャンスだが、いっしょに行かないか」と連絡が入った。白山はすでに真っ白である。

女史はムトウ鳥の異名を持つが一人の時は意外に静かなのだ。「週末には仕事があって行けな



寛



随想 (山のエッセイ)

寛

い」と言うと、一人で山に入ってしまった。
当日水島谷に入っていた友人に夕刻会って聞いてみると、「最初の谷の出合で行ったり来たりしている女性がいたのでルートを教えたが、すでに正体は違った」と言い、また、ブナオ山観察会の話では、その前すでに林道で迷っていて、翌日には雨になりそうなので、「川の中を歩くのは危ない」と言ったが、気にも留めていなかったらしい。
皆が大丈夫かなと心配しているのも私も心配になってきた。
翌日、迎えに行ってみると、地に足を着けないやぶを歩くわざをもつ女史は、いともあっさり頂を踏んで帰ってきたのだ。雨がポツポツ降り始めた頃だった。

山とアルペンのなまなま岳が並んで見える。大笠山の南西面カーンル状に大きな千丈平が見える。きれいなブナ林で50ヘクタールあるそうだ。
バブルの時期、大手建設会社と大手ホテルが共同でこの千丈平にゴルフ場をつくる計画が持ち上がった。客はヘリで運ぶというものだ。この計画は頓挫したのだが、もし実現していたらバブルがはじけた今、残った施設建物が醜い姿を晒すことになっただろう。
大笠山から西へのびる稜線上に大笠山・中笠山があり、徐々に高度を下げて手取川に没する長い尾根がある。
明治27年、当時の陸軍がこの稜線上に三角点標石を設置するため、牛が歩ける幅三尺の道を付けたそうだ。

この道は、ブナオ峠から奈良岳、大笠山、茨ヶ岳の県境稜線を三方岩岳の先まで付けたそうだ。
大笠山へはフカバラの尾根に登山道が出来、ブナオ峠から大笠山までは登山道として残ったが、大笠山を通過この長い尾根道は誰も歩かなくなり今はやぶなのだ。
年が交わり、4月に入って茨ヶ岳登山の日が近づき、山田さんから連絡が入った。28日深夜に岩間山荘に集結。飯後、翌早朝、快晴のなかを出発。ところがシリタカ山を越えたあたりで私の体調が思わしくなくなってきたのだ。前夜の深酒と睡眠不足によるもので、私一人が皆さんを見送ることになった。
そこからは、山頂までの皆の行動がよく見えるので、悔しいやら惜けないやらで深酒の反省しきり、皆の山頂到着は11時30分だったそうだ。
通常このコースをガイド付き6〜7人パーティで往復する場合、山中2泊なのだが、山田さんはそれ以上の人を引き連れて

日知りでやっってしまうのだからすこい。計画と実行がすっかりしているからで、実行がおぼつかない私は反省ばかりする。
この困難で魅力的な茨ヶ岳の下に15のトンネルを通し、金沢方面から白川インターへつなげるそうだ。北陸自動車道も出来、能登への自動車道も出来、能登空港も完成、新幹線も工事中となれば、あとはこのトンネルを掘るしかないそうだ。これは地元大物議員の最後の仕事になるので必ず実現するだろうとの話だ。そうならばあのきれいな瀬波川の清流は無くなるのだろうか。

安曇川流域の 思古淵神(夜神)

綱本 逸雄

滋賀県高島市・大津市と京都府左京区の府県境沿いを流れる安曇川筋には、古くから、シコブツツアンと呼ばれた思古淵神をまつる所が七ヶ所あり、七思古淵といわれてきた。所によっては志子淵、信開淵とも表記する。思古淵信仰は古い夜神の民間信仰を伝えたものといわれる。本流筋の大津市葛川坂下町、同葛川坊村町、同葛川梅ノ木町、高島市朽木岩瀬、同市安曇川町中野、支流の針畑川の同市朽木小川、左京区久多町に思古淵社がある。これに左京区大原大見町、同百井町を合わせると九ヶ所となる。

かつては、この川筋の夜師仲間が旧暦10月7日を祭日として

盛大な思古淵講を営んだ。
思古淵神信仰には民俗学者・橋本鉄男氏によると次のような夜神伝説がある。

昔、思古淵は、遅越の続ヶ原(大津市葛川梅ノ木町の奥山のおかい野付近)で夜を積み、息子をその後方に乗せ下流に流していた。ところが急な川の中で停まったので、振り返ってみると、深い金山淵の岩に衝突したことがわかった。しかも今までのはずの息子の姿が見えないので、驚いて、柳で川の中をかき回して捜した。すると一匹の大きな河童が息子を抱きかかえて川の底に沈んでいた。思古淵は河童をいさめて、息子を救いさらに夜を流して行った。そして中野の赤壁の大淵という所まで来ると、河童が再び夜を引き留めた。思古淵は度重なるいたずらに腹を立て、河童を水の中から引き出して縛り上げ、この川筋では今後、どんなことがあるうとも、



随想 (山のエッセイ)

スゲの葎笠をまとい、ガマのハバネ(御神)を脚につけ、コブシの棒を手にした者に害を加えないことを誓わせた。それはこの川筋の筏師の装束を指した。このシコフチ(思古瀬)の語源について、橋本氏は、シコを醜(こ)こつこつしていかつい、転じて凶悪・醜悪の意味、フチは瀧(水の深く流んだところ)、つまり「気味の悪い、恐ろしい瀧」を示すという。地名研究家の池田末則氏(日本地名学研究所所長)は、シコフチは「地獄瀧」の転訛とし、「京都北山を歩く」(ナカニシヤ出版)の著者・沢深氏は、シコフチの正体は河童で、シコは河童の別称「水虎」がスイコーシコと転訛、(フチは瀧に住む意)とする。ただし、河童が文献に表れるのは近世以降のことである。また、「水虎」も近世中頃に登場する(『日本史大事典』)。従って、筏神伝説の成立もそれ以前に成立を求める

のは無理だろう。思古瀬神信仰がいつ頃発生したのかは不詳である。ただ、この川筋は東大寺の創建時代から高島山作所の送符(夜流し)の歴史があり、思古瀬神はその水を制した地主の筏神として、危険な瀧の多い諸所に祀られたものに違いない。奈良時代、東大寺や石山寺の造営に関連して、所用の木材を取る目的で、畿内にいくつかの柚の開発が行われた。柚はそうした用材を取ること可能な山を意味した。柚山には伐採、造材、柚山からの木材の河川運送(夜流し)に従事する柚人がおり、現地には寺院の造営に応じて山作所(今の製材所)が設けられた。

近江では甲賀、田上、高島に山作所があった。安曇川流域一帯には大きな柚山の存在が推定されている。高島市朽木生杉の朽木の柚や、JR湖西線近江高島駅付近から北にかけて地下3

出会って託宣を受けた。すなわち、相応は不動明王の後身だから仏法修行の聖地として領地を譲ろう、今後は明神は仏法守護を誓うと言って姿を消した。相応はなおも三ノ滝で修行し、不動明王を感得し、明王院を建て、志古瀬明神は明王院の鎮守神となった。『日本の神々』、『高川縁』

立庄の五百年にわたる山論で高川側が寺領の境界を示すため作製したもののひとつである。また、安曇川上流の高川の板商人達は、下流の高島郡まで商売に出かけていた。しかし、途中で他領の朽木地下人(在地の人)からたびたび通行妨害に遭い、幕府から朽木領主(植正)宛の室町幕府の裁許状が出されている。

河童が妨害する筏神伝説は、このような朽木・高川両庄の地下人達の争いを背景に後に成立したのである。

村山修一氏によると、志古瀬明神は安曇川流域全体の土着の水神であり地神で、村人の信仰は平安以前に遡るといふ。志古瀬明神の託宣は、流域村民の既存の山林所有権を相応の行場開拓によって天台側が奪取したことを暗示するといふ(『比叡山史』)。

一例を挙げると(『永正十二年十一月三日、幕府、延暦寺無動寺領近江高島川在寺務無量野院の訴により、同国朽木植広の知行分朽木郷地下人等の、同荘板商人の通略を妨げ、荷物を押取するを停止(ちよじ)せしむ』(『明王院文書』、以下同)、逆に「高川地下人等、朽木地下人の夜の通路を止めんとし、度々のことで成敗(同十三年七月二日)」、「幕府、重ねて、近江朽木植広と無動寺領同国高川在地下人との、高島郡中に於ける板

旭川流域の二座を歩く

櫃ヶ山と星山

木村 太郎

美作

大山や蒜山登山で米子道を行った時、樽鉢山トンネルを抜けると西方に錐形の美しい山を目にする。岡山県ふるさと富士の櫃ヶ山である。その櫃ヶ山から西南にかけての尾根上に、一等三角点の星山がそびえている。

かねてより気になっていた櫃ヶ山と星山に登るため、夜明け前に大阪を出て、まずは湯原町の櫃ヶ山登山口を目指した。湯原の高速道では山岳地帯特有の霧に包まれたが、旭川沿いの国道に降りると朝日が差してきた。

櫃ヶ山と星山の水を集める大庭皿川や神庭川は、蒜山高原を源にする旭川へ流入する。旭川は出雲街道沿いに蛇行し、

瀬戸内海へ流れる。

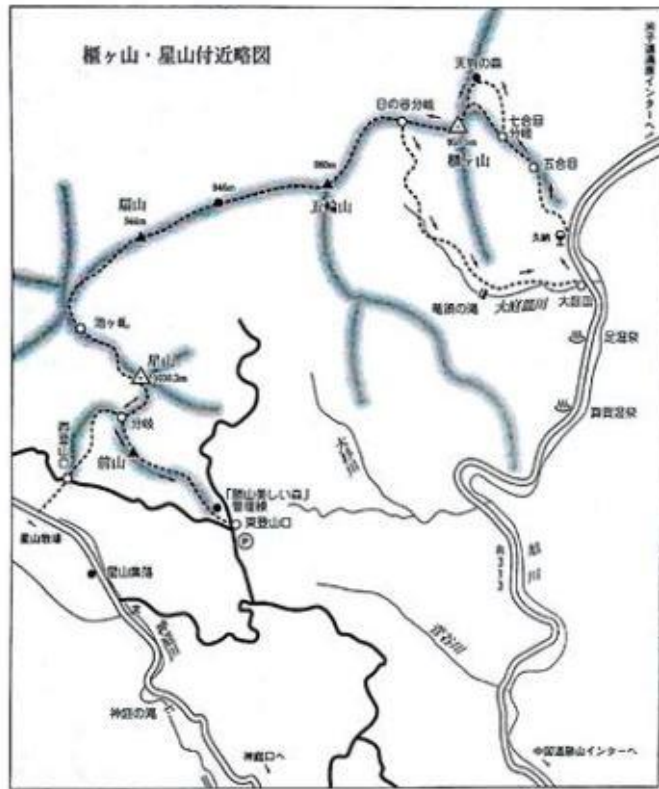
久納バス停の空地に車を置き、北へ舗装路に登る。ほどなく山道に入り、峠谷川の堰堤を通り過ぎる。沢側にツリフネソウの花が群れている。下草でズボンの裾が濡れる。水場を過ぎて樹林帯に入る。朝日が差し込んでいのように見えたが、正体は蜘蛛の糸で、その糸が顔にまとりつく。

湯原富士の名がある櫃ヶ山だが、夏場には登山者が少ないようだ。木々を結ぶ蜘蛛の糸をストックで払いながら歩く。尾根道に出て樹林帯を抜ければ、丘陵状の五合目で展望が広がる。葎うものは何もなく爽やかな気分が坂を登った。振り

櫃ヶ山を望む



返れば湯原と奥津方面の山々、前方には目的の櫃ヶ山が見えている。
下草が生い繁り踏み跡を隠す急坂をゆっくり登る。登山道の両側にはスキが揺れ、可憐なヤマハギが咲いている。季節は秋に向かっていっているのだろう。六合目の丘の上に着いてひと息つく。丘の隅には秋の七草のキキョウやナデシコを見る。街では夏の残像がまだ見られるが、山は



すっかり秋の装いである。
銀嶺水のある七合目まで登り、櫃ヶ山への直登道と天狗ノ森への分岐に着く。ケヤキやブナ類が鬱蒼と繁る原生林の天

狗ノ森に迂回する。冷気が深い、からす天狗をまつる祠には、大きな高下駄が奉納されている。歌八がかりでないと抱え切れないカフラの太木を見て、行ち果て

た老木を乗り越越える。

直登の尾根道に出合った所が八合目。再び急坂になり、九合目からは階段道が頂上へいざなう。3等三角点埋まる展望の櫃ヶ山(953.5m)に腰を下ろし、まわりの山々を眺め、好物のドーナツを頬張る。もう一歩目指すので長居はできない。休憩もそこそこに、星山への縦走路に歩き出す。

櫃ヶ山から星山へは5分、3時間で到達できる。五輪山や扇山などのピークをたどる快適な稜線歩きである。しかし、マイカーに戻ると、元の登山口へ帰るしかない。分岐点から日の谷への下山路をとった。

灌木帯をどんどんどくんだり、沢音が聞こえ谷川に出る。始めは徒渉できた谷川もくだるにつれて水量が増え、丸太を組んだ木橋を渡る。林道を跨いでさらにくだれば、古びた屋敷跡の石垣が現れる。廃村となった大庭皿旧集落をくんだり、東屋にザックを預けて名瀑・竜頭ノ滝と対面する。

大庭皿川沿いにくだり、国道の大庭皿口に出て、車を止めた久納登山口に帰り着く。再び車を走らせ、足温泉と真賀温



星山頂上

ムシソウの花を見つけた。
星山への登山道で見た多くの花は樺ヶ山でも見かけた花だった。二山の花は、お互い負けまいと競っているようだった。マツムシソウだけはこの日の初見だった。標高の違いなのかと思いつつ、マツムシソウが群れている道を星山へ登って行く。

謡曲「松虫」には、松虫（鈴虫）の唄

き声にひかれ、草むらで死に絶える若者が劇化されている。その悲劇の若者がマツムシソウとなり、松虫の美しい声を聞き届けているのだろうか。空想を呼び起こす薄紫色の花に見とれつつ、星山（1030・3）の一等三角点の頂に着いた。星山は草原状に広がり、日暮れにはまだ時間があるのに心なしか薄暗い。静かな山頂に秋めいた涼風が吹き抜け、気持ち安らいでくる。マツムシソウだけでなく、山頂のあちこちにナデシコやフシグロセンノウの花を見る。星の形に見える花々は、星夜を通し星山を飾っているのだ。

かつて歌人の九條武子は、随筆「六甲山上の夏」に、「薄葉の可憐な松虫草は、大空の星が落した花のように、塵にもまみれず、高原のそこそこに咲いていた」と書いている。山上で見たマツムシソウに、星を連想するのも万人共通の思いなのだろうか。

時計の短針があと半回転すれば、すっかり山頂は暗くなり、星の瞬く宇宙に同化するだろう。1人用テントと寝袋を担いで来たなら、十分に野宿ができる山頂の広さがあった。しかし、きょうの夜空

△コースタイム▽
久納登山口(40分) 水場(35分) 六合目(35分) 天狗ノ森祠(35分) 樺ヶ山(50分) 林道出合(30分) 竜頭ノ滝(20分) 登山口(車で移動) 「勝山美しい森」駐車場(10分) 東登山口(50分) 西登山口分岐(30分) 星山(20分) 西登山口分岐(30分) 東登山口(10分) 「勝山美しい森」駐車場
2万5千〱横部・勝山

泉を通り過ぎ勝山町に入った。旭川の向う岸に勝山城跡がある。神庭ノ滝の標識を見て神庭口で国道と分かれ、星山登山口を目指した。

名勝神庭ノ滝を訪れた著名人に、「冬柏」時代の与謝野晶子がいる。昭和8年夏、夫と謝野寛と共に、1週間の日程で岡山方面へ旅をしている。講演や揮毫を主にした旅だったが、旅先で歌を残している。伊里村（備前市）や鷺羽山を廻った後に、星山溪谷の神庭ノ滝に遊んでいる。

音高く神庭の川のゆく方を
轟きし示す星山の上

この星山の空気に与謝野晶子も触れていたのだ。星山という山名に、私は童話の香りを感じた。浪漫派の旗手であった晶子は、私以上に神庭川源流の星山にロマンを感じたことであろう。

その時の晶子に、「しら波におぼれがちなる美作の神庭の川の奥の岩橋」の歌もある。先年の嵐で、神庭ノ滝の奥まった道が崩落した。奥の岩橋には渡れず、前の広場から滝を見るしかないという。山歩きが私の目的なので滝見物は後回し、「勝山美しい森」への道標にしたがう。

キャンプ場への道路に入り、広い駐車場に車を置く。東登山口のビジターセンターへ廻る。「勝山美しい森」の案内板を見て山道に入る。「勝山美しい森」は、平成11年頃から森づくりが始まり、ヤマザクラの植栽は3300本に達したという。

星山へは従来、星山牧場手前の星山集落側から道があったが、南東中腹の「勝山美しい森」にも登山道が付けられ、ビジターセンター前の登山口から登れるようになった。星山集落側の西登山口からは谷間の道だが、「勝山美しい森」の東登山口からは尾根道である。

勝山の学校を卒業した生徒たちや、なかには誕生記念や還暦記念など個人の植樹もある。星山の山裾を美しい森にするため、コナラ・ミズナラ・ナラガシワ・アベマキ・ブナなどが植樹されている。新緑や紅葉の美しい森の姿を想像し、星山の高みへ登って行く。

「美しい森」の「植樹のつどい」で書かれたメッセージに出会う。「千年生きてね」「花が好きです」「早く大きくなって実をつけてね」とか、自然との共生を願う言葉が記されている。植樹した若者

たちは、森を友達のように感じたのだろう。

標高6300以上の登山口から30分程で標高8000以上の地点に着く。国有林の山域に入ったようで、マツを主体とした針葉樹と雑木林の道になる。ツリガネニンジンやヤマハトトギスが、星屑のように星山登山道を彩る。前山の天狗山直下の道標で、星山へは西向きから真北に進路を転じる。

前山から星山を眺めるが、その名の通りの美しい山だ。朝登った樺ヶ山へも挨拶を送った。前山から一気にくだった鞍部で星山集落側からの登山道が合流する。星山への最短コースで、西登山口から合流点まで30分程という。スギとヒノキが主体の植林帯の道らしく、暗色系の雰囲気を感じずような道が鞍部まで上がってきた。

明るいくマザサの尾根道に、可愛いカラナデシコやフシグロセンノウが咲いている。ピンクとオレンジ色をした花は、夜には星に昇華するのだろうか。「がんばって頂上はもうすぐ」というメッセージが書かれた、標高10000以上の地点に着く。その木標の下に、この日初めてマツ

の透明度には疑問が残るようだった。

水蒸気が少ない秋の空は澄み渡るはずなのに、遠望はかすんでいる。山名方位板にあるのに、大山や群山方面が見えない。下山して聞いたビジターセンターの話で、星山から池ヶ嵐へ少し進んだ地点に、大山の眺めが良い場所があったと後で知った。

なぜか秋の空には寂しさが漂う。その寂しい空も星がきらめき出せば、華やかな別世界に変わる。白鳥座の十字架が姿を見せるまで、山上に留まれないのを惜しみつつ、夕暮れ前の星山を後にした。

(平成17年9月2日歩く)

明神平から奥香肌峽へ縦走

薊岳・池木屋山

島田浩一郎

台高

4月の末から台高山脈中部を2泊3日で歩いた。初日は肌寒くてまだ3月のようだったが、2日目からは初夏の陽気で、3日間雨に降られず、冷や汗をかいた所もあったが、まずは快適な山行であった。

初日、近鉄榛原駅9時15分発の大又行きバスに乗り込む。幕末の天誅組の史跡が窓外を過ぎていく。ここらあたりが、日本狼が最後に射殺された地であるらしい。終点の大又まで乗っていたのは、我々のみであった。

薊岳へは、バス停向かいの笹野神社の脇から登る。神社の境内にはエドヒガンザクラが今を盛り咲いており、すばら

しい山脈を約束してくれているようだ。大鏡池までは、杉林のなかを黙々と登る。

途中休憩をはさみ、約2時間30分かかって大鏡池に到着。直径15m程の池が登山道の下に樹間から見える。すぐそばにある小突起が大鏡山(1182m)だ。頂上は踏まずそのまま道なりに薊岳へと向かう。杉林がまばらとなり、パイケイソウが現れ始める。今年は寒かったせい、葉が短い。まわりの草はまだ茶色のなかに、黄緑色が鮮やかだ。

やがて、小さいコブを乗り越えたあたりから幅3m程のやせ尾根となり、慎重に歩く。薊岳は雌岳と雄岳の双耳峰であ



明神平 (後方は「あしび山荘」)

る。雌岳に至るまでに幾つかの小突起を越える。雌岳から急斜面をくだり、再び登り切った所に雄岳(1406m)がある。雄岳直下をマウンテンバイクを担いで攀じ登っている人がいたのには驚いた。雄岳頂上からの展望は雄大で、台高・大峰両山脈が眼前に現れた。

明神平へは、新葉のび始めたパイケイソウを踏んずけないように歩いた。木々

もまばらな快適な登山道であった。アップダウンもあまりなく、散歩気分です歩ける。しばらく行くと明神平の手前に「前山」があり、少々疲労を感じたが、斜め前方の明神平に、天王寺高校の瀟洒な「あしび山荘」が、樹間に見え隠れしながらだんだん大きくなっていくので、勘

みにして登った。やがて、前山を登り切ると広いササ原の明神平が我々を迎えてくれた。心も軽く斜面を駆け下り、水場付近へと向かった。広い草原には、互いに50分離れて三張のテントが張られており、傾きかけてきた春の陽のなかで、皆さん夕食の準備を



いそいそと始めている。我々もテントを張り終わると、ゆったりとした気持ちでササ原に寝そべり、30年ぶりに訪れた明神平で思い出話にふけた。我々のすることは昔と変わらないいと、笑いながら話す。

30年前は、すでに閉鎖されていたスキー小屋があり、雨のためその中にもぐり込んで快適に眠らせていただいた。その小屋も焼けてしまった。その跡地はササ原になっており、焼死された方がいたというのを知ってか知らずか、単独行者がテントを張っている。

翌朝4時40分起床、6時に出発。良い天気だ。ササ原の中の一本道をゆっくり歩き、やがて明神岳(1443m)に到着。松塚峠への道が頂上から分岐しており、道を示すテープが枝に巻かれている。コブを二つほど越し、しばらく登り続けるとササ原の広い山頂の笹ヶ峰(1367m)に着いた。微かに聞こえる風の音と小鳥のさえずりのみの静寂。しばし、寝転んで休息をとる。

千石山にいたる途中には一部やせ尾根があり、しかも風雨で崩壊している所もあり、注意が必要。いくつかのコブを乗



池木屋山山頂

り越え、千石山(1380m)には8時20分に到着した。直前は急登であった。千石山を越えてしばらく急斜面をくだった所に小さい沢が流れ、絶好のキャンプサイトがある。明神平から池木屋山を往復する計画を立てた場合に利用できそうだし、しばらくして千石山方面を振り返ると、山の格好が頂上付近に千石山をのせているように見えた。山名の由来かな。

ここから赤倉山(コクマタ山)にいたる道は今回の山行で一帯体力を消耗した。コブまたコブ、アップダウンの繰り返し。我々はコクマタ山をコブマタ山と改名した。機つかの急坂を登り終えては現れるコブ。サラサドウグンが可憐な花を咲か

せているが鑑賞する余裕はあまりない。最後はシクタクグの密林の枝をかき分けて赤倉山頂上へ。10時20分であった。展望は無い。さっさとくだる。

さあ、今回の最終目的地である池木屋山を目指そう。小さいコブを幾つか経て奥ノ平峰へ着いた。展望が開け、遠方から白倉山。そして池木屋山への稜線もはっきり見える。また、運ダムの水をたたえた奥香肌湖が陽光に反射している。ここで昼食にし、持参のレモン・プレス・クッキーを食べながらゆっくりした。休憩中、北股林道に車を置いて日帰り池木屋山を往復するという人と言葉を交わした。後日調べてみたが、北股林道からの道は地図には載っていない。おそらく林道終点から沢筋を遡ってきたものと思われる。

霧降山を経てやがて池木屋山北のブナ林に囲まれた池のある湿地を通過。このあたりに昔小屋があったとのこと、池木屋山の山名の由来らしい。

12時50分、池木屋山(1399m)頂上着。明るく開けた山頂で、沢木の下は、ヒメザサが覆っている。まだ早春の模様で木の芽はようやく膨らみつつある気配。

分だったので、テントを張り、夕食の準備もしてから、沢で水浴びした。杉村ゲリラ仙人と私は1人用テントを使用しているが、昨日は隣接して張ったので、互いのいびきがうるさかった。この日はテント間の距離を8畳ほどとった。小さい羽虫が飛んでいたが、焚き火を始め酒を飲んでいるうちにどこかへ行ってしまった。このあたりは小鳥の楽園、時々小鳥が小石をテントの裏の斜面から転がす。大きな石を落とすことはあるまいと気にせずに就寝。

明けて3日目。宮ノ谷をくだる。最初にドッサリ滝を軽く捲く。名前のとおり捲くあたりから絶壁の上を横切るようになる。崩れ落ちそうな斜面を、フィックスロープを頼りに下降する。猫滝が見える場所まで降りてきてホッとひと息つけ、滝の写真などを撮ったが、本格的に怖いのはここから高滝を捲く所だった。高滝は落差70mを誇る名瀑だが、高滝道もスケールが大きい。下を見ると100m程度に感じられる絶壁のすぐ上の急斜面に付けられた幅30cm程度の道を通る。一番危険を感じるあたりにはフィックスロープ

も張られていない。立ち止まったら足がすくみ、ニッチもナッチも行かなくなると思ひ、大きなザックのバランスを崩さないよう細心の注意を払いながら、一気に進む。ホールドもほとんど無いので、強風や大雨の時は非常に危険である。ふと足元を見ると奈落の底が見える。あわてて斜面側に目をやると、真新しい地蔵が鎮座している。前を行く杉村仙人よ、落ちないでくれ。冷や汗をかきながら、何とか高滝の滝壺あたりまで下降して来た。今降りてきた斜面を見ると、「危険、多数転落死者あり」という看板が立っている。

後日調べてみると、2004年に3人が滑落死するなど多くの犠牲者が出ている地点であった。宮ノ谷から池木屋山は多くの登山ガイドブックに紹介されているが、この谷は上級者以外は足を踏み入れてはならないであろう。特に大きな荷物を担いでは無理だ。池木屋山はいずれのルートから行くにせよ、時間・体力・技術を要求され、難しい山である。

高滝を通過すると、特に危険な所も無く、宮ノ谷沿いに、整備された鉄梯子・橋を歩いて行く。やがて林道終点の駐車

誰もいないピクでしばらく休んでから、宮ノ谷へくだることにした。馬ノ鞍峰を経て、三ノ川方面へ行くことも考えたが、気温が上がり暑くなったので沢でキャンプしたいと思ったためだ。馬ノ鞍峰方面だと、途中の尾根上でキャンプしなければならぬ。

奥香肌峽宮ノ谷の源頭、奥ノ二股出合を今夜のキャンプ地と定め、池木屋山北東尾根をくだることにしたが、この尾根の取り付きがわかりにくい。山頂に表示板もなく、はっきりした道がわからない。コンパスで方角の見当をつけ、池木屋山の東尾根から北西尾根の間の斜面を行ったりきたりして、ようやくササ原のなかに一筋の小道を発見した。やせ尾根にまっすぐ通っている急斜面の登山道を駆けずり降りた。木の根つ子だらけの道を赤テープを目印にしてくだる。標高が下がるにつれ、だんだんと谷の水音が聞こえてきた。鮮やかなヤマツツジの小さい花、新緑の息吹が心地よい風のなかにそよいでいる。やがて、二つの谷の合流地点に到着した。合流点の右岸が小高い台地になっており、そこにテント四張りくらいに平らなキャンプ適地があった。まだ、15時30

場に着いた。そこから、舗装された道を延々2時間30分かけてスミール(奥香肌峠温泉)まで歩く。途中でヒッチハイクをしようと思っただが、何と一台の車も我々を追い越さず、無事?スミールのバス停へ13時頃に到着した。松坂へのバスは17時15分まで無いとのことなので、鉄分の含まれた赤茶色の天然温泉にゆっくりつかって、無事の帰還をビールで乾杯した。(平成18年4月29日〜5月1日歩く)

▲コースタイム▼

近鉄榛原駅(バス1時間10分) 大又バス停(2時間) 大鏡池(1時間) 崩岳(1時間20分) 明神平(泊) (30分) 明神岳(1時間10分) 千石山(1時間40分) 赤倉山(1時間20分) 池木屋山(1時間30分) 奥ノ二股出合(2時間30分) 宮ノ谷出合(2時間20分) 奥香肌峽温泉「スミール」

▲地形図▼

2万5千:大豆生・大和柏木・宮川貯水池・七日市

(問い合わせ先)

奈良交通バス ☎0742(20)3100

ヤケオ山東方尾根登高

比良

小山 誠次

京都駅からJR湖西線に乗り、北小松駅近くになってヤケオ山方面を望むと、ピーク761から直線状の下降斜面がスカイラインとなっている。さらには、この斜面に連なって、小さな尾根がまっすぐ湖西線に向かって迫り出している。この小さなタンヤマ谷南方尾根は滝川と高橋川の間位置し、尾根上には二本の送電線の鉄塔が湖西線からもよく眺められる。

今回はこの小さな尾根をたどり、ピーク761からの直線状の下降斜面を逆にまっすぐ登って中井新道に達し、そこからヤケオ山に到る計画である。
平成17年11月13日、天気予報は近畿地

方全域が晴れ、降水確率も全域で0%と絶好の登山日和である。京都駅8時14分発の湖西レジャー号を待つ間、いつものようにストレッチをして汗ばんでくるくらいであった。

電車が比良山系に近づくと、堂溝岳の中腹あたりから層雲が断片状に浮かんでいるが、間もなく消散してしまうものと思う。この時期は落葉樹の茶色、常緑樹の緑色と、茶色のなかには紅色も点在している。

8時48分北小松駅に到着した。準備を整えて、8分後皆とは反対の方向に足をつける。線路の南側に沿って近江舞子駅方面に向かう。高架下を潜って間もなく

踏み跡はウラジロがわずかに途切れている程度、右手のストックで蜘蛛の巣を払いながら進む。途中、「境界見出標 大阪営林局」と書いた札が掛かっている。左手から同様な踏み跡が何本か合流した後、一本の明確な山道と出合った。

この道はともなう鉄塔への遠視路のようで、間もなく急登となって最初の送電線の鉄塔下に達した。9時31分着。標高は200mなので、湖西線とは100m程度の高度差しかない。しかし、なかなか眺望がいい。いつの間にか湖面上には厚い

層雲がかかっている。太陽の輪郭もわからないくらいである。さすがに天気予報も局所的な層雲までは予報できないのであろう。

7分間景色を楽しんだ後、二番目の鉄塔までは3分間の登高だった。ここからは北小松駅から楊梅ノ滝に到るアスファルト道が一部同定できる。そういうえば、楊梅ノ滝から下りて来るとき、右手にこの二番目の鉄塔がチラホラと木々の切れ間から見えていた。

さて、これからは尾根上をたどることになり、進行方向は磁北の西34度である。当初はやぶ漕ぎを覚悟していたが、二つの鉄塔を踏ぶ山道がそのまま導いてくれる。マーキングははっきりしないが、尾根を外さなければ当分の間は問題なさそうである。二番目の鉄塔から7分後、標高270mで、右からのより大きい山道に

(写真1) 二本の鉄塔が立つタンヤマ谷南方尾根



滝川を渡り、タンヤマ谷南方尾根を正面に見据える(写真1)。そのまま田圃の畦道を進み、9時11分山裾の取付点に達した。ここは山を囲むように鹿の侵入を防ぐ電気柵が張り巡らされているが、現在は通電されていない。

グルッと周囲を見回して取り付きやすそうな箇所を探すと、何となく踏み跡を見つけたので、電気柵の隙間から入った。

合流した。

山道は時に尾根直上から外れてしまうこともあるが、用心深く観察しているとまた元に戻る。針葉樹と落葉樹の混合林のなかで薄暗いが、よく踏まれた道が続いている。時々鮮やかな紅葉に出会うと、思わずシャッターを切ってしまう。ただし、全く展望がきかないのは残念だ。

10時11分標高380mで、右下方より楊梅ノ滝の水音が聞こえてくるようになった。滝を探そうとするが木々が繁り全く不可能である。現在は予定通り磁北の西50度を向いている。

出発して2分後、標高400mで明らかな分岐点に到った(写真2)。樹木に矢印が描かれているが、意味はわからない。しかし、標高400mならば、地図上はそろそろタンヤマ谷南方尾根からピーク761への直線状の斜面への変更点のはずである。迷わず高所を向く道を選んだ。

地図上は、このあたりから西方に向く広い尾根をたどることになるが、実際はさほど広くなく、右下方への落ち込みが鋭い。幸いなことに、時々出会うマーキングと共に、まだ道は続いている。しか



のより大きい山道に



(写真2) 矢印のある分岐点

し、標高560mに達した頃より不明瞭となってきた。また、樹林の間より後方を眺めると、一面の雲海のなかを歩いていることがわかった。時に雲海が迫ってくると、わずかにガスがかかった程度に感じた。

ピーク761までの高度差200m程度は全くのやぶ漕ぎだったが、計算上の斜度は26度なので、今春たどったヤケオ山直登コースの最も険路の斜度30度よりはましである。標高660mに達したとき、まるで石仏のような自然石があった。近づいて表面をよく校べると、苔むしたな

かに何やら線画があるようで、もしかしたら何かの石碑かもしれない。今回のやぶ漕ぎでは、樹幹がスツクと立っているブナ科樹木などはあまり障害にならなかったが、目線の高さで枝葉を張っているアセビに最も手を焼いた。足許のシキミはまだ低いので、あまり気にならない。やぶ漕ぎ登高のときは、前方の高所に樹間よりチラホラと空が見えるようになる。終点間近である。

11時18分、無事にピーク761に到着した。西方を見上げると、ヤケオ山はまだ視界に入らないが、ヤケオ山東方尾根のコブが見えている。5分間の休憩後、中井新道をたどってヤケオ山を目指す。しかしながら、ピーク761までのやぶ漕ぎ登高を本日のメインイベントと考えたので、達成後の中井新道は、足が重い。

季節外れのシハイスマイレの可愛らしい薄紫の花が多少動かしになった。この個体は葉脈に沿っての白斑がよく目立つ。ヤケオ山東方尾根からオトシ方面を眺めると、オトシは一面の雲霧で覆われ、池山山頂と南方に続く尾根だけが雲海の上に顔を出している。ヤケオ山山頂まで高

度差200m程度をえっちらおっちらと、ようやく11時54分に到着した。

蛇谷ヶ峰を正面に見るいつもの場所に陣取り、おにぎりとおっぱらうめん、食後にコーヒーをゆっくり味わった。今朝方からの層積雲がまだ残っていて、蛇谷ヶ峰の山頂は一部隠れたままである。ここからは、蛇谷ヶ峰以南の北稜より、マイトロウエープ反射板に続く植谷峠を通る尾根のほうが高いのがよくわかる。向後の課題になりそう。昼食中も大勢の人がヤケ山方面から、あるいは釈迦岳方面からやって来た。本日は盛況だ。

約50分間の昼食休憩後はヤケ山方面にくることにした。下り道をたどっていて、周囲にマツが何本か生えている地点は、ヤケオ山からも人の通行がよく見える。下山しながら、左手前下方には横谷尾根が徐々に近づいて来るのがよくわかる。いったんくだり着いた鞍部から少し登り返した地点は、横谷尾根への分岐点である。ここはヤケオ山から25分間の距離で、標高680mだ。

ここから横谷尾根をたどり、梨ノ木林道に下りることとした。コンパスを磁北の西40度にセットし、尾根をくだって行

く。昭文社の比良山系地図(2003年版)上は黒い点線路となっているが、踏み跡も不明瞭でマーカーも全く無い。横谷尾根はヤケオ山から眺めると、濃緑色のなかに紅葉と黄葉の色彩が比較的よく目立ったが、実際の尾根上には、目を奪われるような紅葉や黄葉は見かけなかった。



(写真3) 逆光に映えるピーク761と直線状の斜面

尾根道の大きな傾斜を幾つか越えるときにコンパスで方向をよく確認していたつもりだが、地図上の点線路よりも早く横谷に下りたようだ。赤い岩の上を流れる高さ4m程度の滝と青い岩の上を流れるナメ池を左手に眺めながらくだる。すでに落ち葉が堆積しているので、雪靴ならぬ靴底を踏みぬかないように注意を払って谷川に沿い、何回も返り返してくだって行った。

14時2分、梨ノ木林道近くの釣堀店に到着した。標高390mである。15時46分ガリバー旅行村発のバスに乗る予定なので、たっぷり時間がある。この店では調理もしてくれるので、天魚の塩焼きを一匹注文した。さすがに焼くのもんびりしたもので、30分以上待って、ようやく焼き上がった。先程まで元気に泳いでいた20数匹の天魚は、身が引き締まり、なかなかの美味である。900円は安い。思いがけず天魚を味わい気分よく休憩した後、14時47分に出発した。歩き出すとすぐに梨ノ木林道に到り、アスファルト道をくだる。途中、道端の柿の実を一つ取ってガリッと噛んだが、悪い予感通り渋かった。やはり人里離れた柿は熟柿でないとい食べられない。便乗を促す親切な車にも丁寧に断りし、なおもくだって行った。

15時23分、瀬バス停到着。同51分発

の近江高島駅行きの江若バスに乗り、16時10分駅に到着した。同23分発の姫路行き新快速に乗る。北小松駅を過ぎ、逆光に映えるピーク761からの直線状の下り斜面に特別な思いを寄せながら、午前中のやぶ漕ぎの悪戦苦闘を楽しく思い出した(写真3)。

本日のタンヤマ谷南方尾根からピーク761に到る山行は、今年4月16日の「ヤケオ山直登」コースの帰路、ピーク761からの東方尾根を歩いてみたいと思っただけを果したものである。(平成17年11月13日歩く)

Aコースタイム

北小松駅(15分) タンヤマ谷南方尾根取付点(17分) 最初の鉄塔(3分) 二番目の鉄塔(7分) 右からの道と合流(15分) 楊梅ノ滝の水音(2分) 分岐点(22分) やぶ漕ぎ開始(9分) 石仏刻石(18分) ピーク761(28分) ヤケオ山(25分) 横谷尾根分岐点(47分) 釣堀店(36分) 龍ヶ瀬バス停

△地形図・地図

2万5千:北小松・比良山
昭文社「比良山系」(2003年版)

標高による山の紹介シリーズ 30 松田敏男

新ハイ関西90号

標高△△90mの山

旭岳 (2290m) 大雪山

花房山 (1190m) 奥美濃

カクレグラ (990m) 鈴鹿山脈

旭岳

36年前の大学一回生の夏、北海道旅行をした。勇駒別温泉(現在名、旭岳温泉)よりロープウェイも利用して登った旭岳山頂から見た南方面の景色には、度肝を抜かれたという強い印象がある。こんなに広々とした景色が日本にあるのかと驚いたことが、今でも鮮明によみがえる。それから23年を経た夏、二度目の登山を果たした。それは1人用の軽いテントを買った最初の記念的登山だった。愛山溪温泉から入って裏旭岳のテント場に真新しいテントを張った。翌朝早く、

旭岳の山頂を往復した。23年も経てはいたが、二度目だったからか、広大な景色に対する感慨はあまり湧いてこなかった。それよりも、そのあと3日間かけてトムラウシ山へ行く道程をじっくりと見つめた。そしてトムラウシ山の美しい姿を中心に据えた景色にしばし見とれたのだ。 (平成5年8月5日歩く) AコースタイムV

裏旭テント場(2時間10分) 旭岳往復

花房山

東海道本線の大垣あたりから北を眺め



錦織の花房山

られたばかりで、傍若無人に山を荒らしたような光景に面喰らったが、20分程度歩いてモレ谷を渡り、その先にある尾根の末端に取り付いた。かすかな踏み跡を、木の枝を両手でつかみながらの急登を続ける。快晴の青空の下、日差しに射抜かれ目の覚めるような黄葉の枝をつかんでの登高は、実に爽快だった。何もにもかえがたい極上の喜びだった。あこがれの花房山の尾根を、まさに今、枝をつかんでどんどんと登高している喜び。登山道らしくなってきた錦織の花房山の全容が見え、ほどなく久瀬村と藤橋村の境界線に出た(現在はどちらの村も掛兼川町)。眼下には小津権現山から望んだ緑のカール状のササ原が広がっていた。東前の谷の源頭だ。そのカールの周りを半周ほど廻って本峰へひと登りした。秋晴れの山頂は、美しい響きの名前にふさわしかった。 (平成6年10月30日歩く) AコースタイムV

高地谷右岸林道ゲート前(3時間30分) 花房山(2時間30分) ゲート前

カクレグラは水谷岳とも呼ばれ、鈴鹿の主稜線から派生した雨乞岳の少し北の地点で、北へ鏡子ヶ口、北西へカクレグラへと支線をのびし、愛知川に末端を落とししている。カクレグラの尾根の末端は永源寺ダムで、そのダム湖南岸の佐目集落から山の会の4人で登った。若宮神社から南東の方向へ谷をつめて行き、上方の二本の送電線を見送り、少し急になってきて視界が開けてきた所で、上の送電線の鉄塔を目標にして北北西方向に雪の斜面をトラバースした。鉄塔周辺は、晴れていれば見晴らしの良い所だろうが、その日は曇天でそんな楽しみはなかった。しかし積雪の山だからこそ登れる道をラッセルしながらカクレグラの北稜を登った。地味な印象ながら雪山の楽しい登山だった。 (平成7年2月26日歩く) AコースタイムV

佐目(3時間) カクレグラ(1時間40分) 佐目

△地形図V2万5千II日野東部

カクレグラ

た時、どっしりと見える立派な山容が花房山だ。雪で白い季節は一層上質な山に見える。1000m以上の標高にしては、これだけしっかりとした風格を備えている山は稀ではないだろうか。山の会に入っただけで買っただけで買った「奥美濃 ヤブ登山のすすめ」は、日本アルプスか近郊のハイキングの山ぐらいしか知らなかった私にとって、山の魅力の奥深い所へ誘ってくれる危険な本だった。掲載されている口絵写真「早春の花房山」は、崇高な美しさを見せていた。それから何年も行く機会に恵まれません先送りしていたが、南西にある小津権現山に登った時、山頂から見る花房山の姿は、ぜひ早く行ってみたいという気持ちにさせられる魅力的なものだった。カール地形のような形が花房山の山頂部目指して廻り込み、紅葉が始まりかけたなかでそこだけが緑色で、あたかもカール上端のお花畑の草地のように見えた。

1ヶ月後の10月30日、紅葉真っ只中の最高の時季に会のメンバー6人で出かけた。小津川高地谷右岸を上がって行く林道にゲートがあり、そこから歩くことになった。そのあたりの林道は新しくつく

丸山から草木へノンビリと

孫太尾根を歩く

長谷川 雅俊

鈴鹿

何かと所用があつて山へ入れなかったが、3週間ぶりに鈴鹿に行く。

やはりこの時期、ちょっと遅いけれど花の孫太尾根へと、どこから取り付くかを思索する。新町のお墓からはオーソドックスだし、少し北側の溜め池を過ぎた所から202号標高点にある作業小屋から左へ入り、林道終点から右手の尾根に取り付くのは、調はないものの時間が短縮でき、地元の猟師もよく利用しているようだ。それに、時期になるとある花が群生しているのだが、小生には興味の無い花なので最近は入ったことはない。

三番目はもう一つ北にある多志田谷である。ここは昔、鉱山があつた所で今も

採石場があり、発破をかけるので基本的には入山禁止となっている。しかし、ホームページなどを覗くと、日曜日は採石場が休業で、けっこう登山者が入っているようだ。何となくムズムズしてきたので「よっしゃ、ここで決まり!」と、出かける。

自宅を23時29分出発。東藤原を抜けて工場を通り過ぎると、真っ暗闇の林道となり、心細く走る。途中、右手に多志田不動尊がある。何年か前、やはり夜中に来た時、参拝? したことがあつたが、さすがに怖かつたのを思い出す。

気分的にかなりの時間を要して、道が二又に分かれる所に着いたのだが、どち

ミノコバイモ



らにも頑丈な扉があつて入れない。時間は0時40分。プレートが貼つてあり、「この先は危険なので入山する場合は、事務所に届け出てください」とのこと。もちろんこんな夜中では誰もいないし、以前偵察に来た時は、こんな扉は無くても自由に入れた。ふと振り返ると小屋があり、「爆発物が保管してあるので火気厳禁」と書いてある。うーん、ヤッパ帰ろ

う……

こうなると早いもので、漆黒のなかを疾風のごとく走り抜ける。後ろからお化けがボンと肩を叩きそう、バックミラーを覗くこともできない。早く早くとせきたてられるが、事故を起こすわけにもいかず、冷や汗たらたらでようやく工場まで帰着き、ホッとす。

結局、無難にお墓から登ることにした



のだが、さすがにお墓で一人で登る勇気はない。近くの青川キャンプ場まで夜明けまで仮眠する(後日、知つたが、この駐車場が4・5日前に車の中で焼身自殺があつたそう。小生はぐっすり眠り、幽霊は出なかつた)。

朝早く起きてお墓へ5時02分到着。まだ薄暗いなか歩き出す。何となく薄気味悪いので足早にお墓を通り過ぎると新町の浄水場がある。この水がお墓を通つて、各家庭の生活水となる……あまりおいしそうじゃないが……(新町の皆さんごめんさい)。

ただちに左手の尾根にのり、270度へ登り出す。5時37分、高度2853mで日の出を拝む。日頃は神様とは無縁な生活を送っているパチアタリな小生ではあるが、山では何に對しても手を合わせて拝む習性になつてしまつた。やはり、1人で山に入るの小さな痛切に感じて何か頼らうとするからなのだろうか? 身勝手なわたくしである。

305号で右手に炭焼き窯跡があり、左手下方に一晚お世話になつたキャンプ場が見える。青川キャンプ場はファン投票で全国で一位、二位を争うほどの人気で、予約もままならぬらしい。以前、覗いたことがあるが、立派なレストランやネットカフェがあり、風呂やトイレも清潔ですばらしくてビックリした。

5時50分、高度計は3553mであつたが、西尾本でも有名な387号標の神武の小祠にたどり着く。神武天皇の東征伝承と関係が深いらしいが、八風峠といひ、神武さんもあちらこちらと顔を出して、なかなか忙しかつたものと推察する。この祠は以前はもう少し形が残つていたのだが、今ではほとんど原型を留めず、周りの木も倒れてしまつている。祠にあつた御神体は新町の神社に移されて手厚くまつられていると地元の方に聞いている。ここでも真摯にお参りし、再び登り出す。

尾根芯の左手(青川側)を歩くと途中、キジに出会う。キジ自体、別に珍しくもないが今日初めての野生動物との出会いに心ときめく。やせ尾根が続くが、突然鹿? 数頭の足音が聞こえ、左手青川側の急斜面を駆け下りたようだが、残念ながら目視できなかった。

右手、植林帯の方から水音が聞えたので覗くと小沢が見えた。左手は二次林で



ミスマスソウ

急崖に所どころにツツジが咲いている。

6時13分、430円で樹林帯を抜け、尾根が開けて明るくなり、右手313度へ曲がる。530円で345度へ行くが途中アセビが咲いている。このあたりから丸山までは、以前はやぶ漕ぎで大変苦労したが、最近では登山者がよく入るようになったのと、また早春なのでやぶも茂ってなく、とても歩きやすい。

6時52分、尾根を直登して650円の丸山に到着、高度計は680円だった。やぶがひどい時はまっすぐ登れず、南側をトラバースして登るのだが、今回はあっけなくたどり着けた。

ここで初めてザックを降ろす。とりあ



カタクリ

て行くと、560円で尾根が二つに分かれる所に出会う。どちらに行けばよいのか迷ったのと、これ以上くだと登り返すのが大変なので、ここで引き返すことにする。

休憩して地図とにらめっこしながらいろいろ考える。たぶん、右の尾根をくだれば、多志田谷林道の最初の左へ分かれる道に下りられそう。間違っても、最初にも書いた溜め池を過ぎて202円標高点を抜ける谷に降りるだろう。一度出直して、多志田谷側から登ってみよう。あの林道からなら採石場はかなり手前なので、そこから入山しても問題はなさそう。202円標高点からの谷も一度は

登ってみたい。孫太尾根の主尾根に戻り、まだ時間も早かったので、丸山から草木、多志田山へ向けて歩き出す。このあたりの孫太尾根は非常に歩きやすく、山登りというよりも散歩気分の中が空っぽになってくる。所どころでミスミソウやミノコバイモが咲いているが、これといって特徴のない尾根道なので退屈になってアキビが出てくる。途中でなかなか立派な木と出会うが、ひょっとするとこの木が草川啓三氏が「鈴鹿の山を歩く」で書いてあるモミの木かも知れない。そういえば思いついたのだが、何年か前にこの尾根で、老狸師と今日が初めての狐だという若者の2人連れと抜きつ抜かれつで歩いていて、いっしょに休憩したのがこの木の下のこと。およそ30分程、山のこと、狐のことなどで話が弾んだのだが、その中で、多志田山を違う山名で呼んでいた。その時は気にも留めずメモするのを忘れたので、その名を思い出そうとしても思い出せない。全くバカな私である。西尾寿一氏や草川啓三氏は間違ってもこういうオタンチンなことほしきないですよえ……。

えずオニギリ一握を食べてから、おもむろに花を探す。さっと見ただけで、ミヤマカタバミ・ヒロハノアマナ・セツブンソウ・ミスミソウ・ミノコバイモなどが咲いている。もっともセツブンソウは盛りが過ぎていた。このセツブンソウも昨年、自然観察委員とか保護何とかの腕章をつけた、心無い人達によって盗掘されてしまったそう。その場に出会ってしまった、鈴鹿の山のネットに有名な森のところがさんや田中さん。さんはずいぶん怖い思いをされたようである。

小生のまわりでも花が大好きで、しょっちゅう山から花を取ってくる人がいるが、こういう人達は自分だけは研究のために取っても大丈夫と思っている人が多いようで、困ったものである。

ヒロハノアマナは朝早いのか、花が閉じていたのでミスミソウから撮り始める。しかし、朝の上昇気流のせいか風が強くなり、花が揺れてなかなかシャッターが押せない。息を止めて、シャッター半押しで待っているのだが、途中で我慢できずに中止を繰り返す。しかも宗くて手がかじかんでいたので、ゴアテックスのパーカーを着込む。ところで、このミス

ミソウだが、よく似たものにスハマソウというのものもあるらしいのだが、葉の形や花びらの数などで違いがわかるといわれているが、小生には未だにその違いがよくわからない。図鑑で調べても、納得できない……。このあたりがやはり単独行の限界なのだろうか？ 花に詳しい方に御同行願えると、こういう問題は一気に解決できると思うのだが（単に小生がアホなだけだという声が聞こえてきそう……グスン）。

1時間程してから、もう少し暖かくなって風が弱くなるまで写真を詰め、多志田谷側を調べてみることにした。

丸山から少し登り出すとすぐに、右手に道らしきものが現れたので、早速その道をくぐってみた。道幅のある歩きやすい道で、これなら牛馬が荷車を引いても歩けるのではないかと考えるほどに平坦である。コンパスでチェックすると、60度の方向へ独立した尾根となつて下降しているようで、植林されているのでこの道は現在も使用されているようだ。所どころミスミソウが咲いている。結局この尾根では唯一の花であった。

右手に深い谷を見ながら、さらにくだ

さて、この多志田山（965円）は小生の好きな山の一つである。どが良かったのか？ とにかく人の入った形跡が少ないのである。初めて登った時はガスで何も見えないなをコンパスを頼りに、草木から尾根を直登したのだが、平らなピークに山名が入ったプレートが無かったので、ここが本場に多志田山のピークかどうか不安で、そのまままっすぐ下降して治田峠から藤原岳への登山道と出合っただけで間違いないことを確信したのである。そこからは登山道を歩いて治田峠へ行けばよいものを、また登り返してピークに引き返し、コンパスを250度に合わせて、ガスに包まれたやぶの急斜面に飛び込んだのであった。果たしてうまく登山道にたどり着けるのか、それとも右手の蛇谷か左の三笠谷に降りてしまおうか、恐怖心から心臓が高鳴ったのを今でも思い出す。幸い入山禁止のプレートに出会い、登山道に降りられたのでほっとしたのであった。

考え事をしながら草木（834円）に到着。時間は9時45分、高度計は820円だったので835円に修正する。このピークもよくわからないのだが、草木と

入場無料 要予約

お申込は
お気軽に!

秋の開催! 山旅祭

9/6水

■国内説明会 10:30~12:30
■海外説明会 13:00~16:30
■場所 大阪駅前第3ビル12F会議室


錦秋の国内 日本アルプス・東北の説明会

スピーカー 沖本浩一

海外説明会 海外トレッキング&登頂

スライド上映説明会

日本の秋は美しい。感嘆の夏が過ぎると足早に秋の気配が喜び寄ってくる。秋、目も覚めるような青空のもと、新雪に輝く峰々と錦織りなす木々の鮮やかなコントラストが私たちに秋色輝く世界へと導く……。さあ秋山へ行こう。山旅専門アミューストラベルでは今秋のオススメ山旅情報満載の「錦秋の国内スライドセミナー」を開催します。



13:00~14:00 「ネパールトレッキングの魅力と新コース紹介」
スピーカー ベンパ・ツルプ・シェルバ & 牛島 浩

14:15~15:15 「アフリカ ケニアサファリの魅力とキリマンジャロ登山」
スピーカー 現地サファリガイド ガリー氏

15:30~16:30 「アンコールワット遺跡の魅力」
スピーカー 田中智代

お電話
おはがき
FAX・HP
にて!

**ご請求
ください!**

総合カタログ

軽くて丈夫な国内・海外・自然探検の原 5000コース以上を掲載。オールカラー1冊 1000円(税別)送料別

初心者カATALOG

後期(10月スタート)完成!

低学級生! 初心者登山 教習など企画満載

冬期講習

新町のお墓 5・29 | 神武小町 5・50 | 丸山 6・52 | 草木 9・45 | 丸山 10・43 | お祭 13・01

△地形図 2万5千 電ヶ岳

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtsa@amuse-travel.co.jp

06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

書かれたプレートが下に落ちていた。近くの岩にもペンキで草木と書かれている(ついでに落書きした人の名前までも書かれている)。これはまだ最近のものだろう。確かにこういう親切心にはとても助けられるのだが、果たしていかなるものか……。

オニギリを食べながらくつろいでいると、空が見る間に曇ってきて薄暗くなり強風が吹いてきて、ちょっとヤバイかなと思う間もなく雪が降り出した。ここから先へは何となく気のりしなかったの、これ幸いと引き返す。

どんどん下降して行くと天候も回復し、丸山に到着した時には日が差し、風も無くとても暖かくなった。

ヒロハノアマナもようやく花びらを開いていたので写真を撮り始める。いつもピンボケやブレた写真が多いので気を引き締めて……。こんなに風の無い穏やかな日にピンボケを撮ったらまたメゲルだろう。30分程撮ってから、11時18分出発。

斜面が明瞭な尾根になった所(545)で登る時には気づかなかったカタクリを発見! しかも一輪も咲いている。

ザックを降ろしていろいろな角度から撮る。11時49分、5355円で尾根が分かれる。今日は登ってきた右の尾根へ下りる。左の尾根右側斜面を下りれば、溜め池のある202号水源地の方へ行くことになる。

上部はやぶだらけで道も無いが、少しくぐれば袖道が現れる。次の尾根分岐(4355)も左に行きかけたが、すぐに気づき右に変更する。すると下から今頃から登ってくる登山者が小生の名前を呼ぶのでビックリ! よく見ると鈴鹿のホームページを持っているDome.さんではないか。早速、ダベリングタイム。写真やデジカメのことなど、いろいろお聞きしてとても勉強になった。

このDome.さんは地元新町の出身で、子供の頃、治田峠を越えて茨川へ遊びに行ったり、このあたりの登山探検を持っていた政商の五代あいさんと会ったことがある。当時、お小道は1日10円だったとか。当時は大抵、名古屋に住んでいたが、5円が月に一度あるかないかだったから、Dome.さんの生活がどんな風だったかがうかがい知れる。

お別れしてから、脳味噌真っ白状態で歩いていたところ、どうもまわりの景色がおかしい。やぶがひどくなってきて歩くのもままならない、登りに通った、387号独徳の神武の小祠も見かけない。うーん、またやっちゃった! ええい、まよと、とにかく下へ下りて行くと、袖道が現れてだんだん立派になり、軽自動車なら通れそうならいなる。これなら大丈夫と安心してると、何となく見覚えのある朽ち果てた木橋にたどり着いた。

そういえば以前も通ってここに降りたのだった。左手の方は浸地になっており、もう少し時期が早ければ、ショウジョウバカマがたくさん咲いているのに。まっすぐ木橋を飛び越えてひと登りすると、朝、車を置いたお墓の裏手に出て、13時01分、愛車にタッチ。メダクシメダクシ。(平成18年4月9日歩く)

奇岩怪峰の妙義山

鷺見守康

上州

妙義山は岩峰群の総称で、松井田側は表妙義、横川側は裏妙義と呼ばれている。2005年の秋、この表妙義と裏妙義の山行を計画したが、表妙義はしつこく雨のため中止し、翌2006年の春に歩いた。

丁須ノ頭

夜行バスは高速道路をひた走り、上信越道の松井田・妙義インターで降りた。5時前に横川の24時間営業のドライブイン「おぎのや」で朝食休憩をとった。曇り空だが、何とか歩けそう。6時過ぎに国民宿舎「裏妙義」に到着。予定通り丁須ノ頭を目指すことにした。

丁須ノ頭は裏妙義のメインコースである。国民宿舎の建物に向かって左の脇から滝沢に入る。最初はスキの植林地帯である。季節も季節だから花は咲いていない。雑木林に変わって沢筋の道になった頃、「技術と体力のない者は戻れ」という趣旨の看板があった。

やがて行く手に岩壁に挟まれた大岩が出現する。クサリは設置されているものの垂直に近く、足場が乏しい。そのうえ、昨夜の雨で岩が濡れている。

大岩を乗り越えようと、周囲は岩壁が取り巻く、様子が一変したような感じである。標識に「木戸」という案内がある。メンバーの1人のAさんが「引き返した

丁須ノ頭コースの大岩越え (撮影 長尾一令氏)



い」と言う。大岩の登りがままならず、このまま進むのは自分では無理と考えたとのこと。この時点なら単独で戻っても大丈夫と判断してAさんを見送ったが、彼女の決断は正解であったと思う。私自身、この山行は例会としては適当ではなかったのかもしれないという意識に襲われていた。

ペンキのマークに従い、沢に入ると岩

の隙間をぬい、濡れた丸太をくだる。私のように太い体と長くない脚の身には、これがけっこう厄介であり、後には渋滞ができた。まもなく、前方を大岩が遮る。「そうか、これを登るのか……」と垂れているクサリを頼りに足場を探す。岩面にある多少の凹みのような足場はたいへんに心もとない。岩が濡れているからさらに困難で、靴のソールのフリクションを利用して身体を支え、引っ張り上げるしかない。女性にはなかなか難しいらしく、メンバーは苦労している。二俣を右の沢に進むと休憩に適した広場があり、ひと息ついた。

出発してまもなく、稜線直下でルンゼ



状の長いクサリ場を登る。足場もガレており、苦しい登高となるが、登り切って御岳への稜線に出た。左に折れて岩峰を捲くように進むと、またクサリ場だ。最初のクサリ場は少し登ってすぐ岩壁をトラバースするのだが、バランスと足場の確保がかなり難しく、滑り落ちる危険度が高い。そのため、あえて立入禁止の岩壁下に進み、そこからフィックスロープを利用して登った。

フィックスロープがあるにもかかわらず立入禁止となっているのはロープの状態が万全ではないためだろう。上部でロープの一部がほぐれて細くなっているのが見上げてわかる。そのため、何度かひっぱり体重をかけたがりして確認。私の体重に耐えることができれば、きょうのところは大丈夫と判断した。

さらにクサリ場を登ると、足元から切れ落ちた丁須ノ肩のり、360度の展望が開けた。曇り空で見晴らしはあまりきかないが、登り切ったという杜快感がある。この丁須ノ肩で十分達成感を感じたのだが、てっぺんの好きな数人のメンバーは、金桶の形をした丁須ノ頭までよじ登った。

下山時もクサリ場で苦労する。途中から落石が落ち始め、沢筋の道を越えたあたりから本降り雨に叩かれたものの、全員無事であったことに感謝した。

天候が悪いせいか、他の登山者には1人も出会わなかった。2日前には単独行の登山者が事故死したとの話を聞いた。

(2005年10月9日歩く)

▲参考タイム▼

国民宿舎「裏妙義」6・05〜15丁須ノ頭9・05〜25国民宿舎12・00

△地形図▽昭文社「西上州」

表妙義中間道

昨秋と同じく、5時前に横川のドライブイン「おぎのや」で朝食休憩をとった。白み始めた空には雲がない。好天に恵まれそうだし、一般ハイカー向きの中間道を歩くので気分も楽である。バスで妙義神社駐車場に走った。

妙義神社は1500年前の創建といわれている。現在残る本殿などは江戸時代の技術を結集した壮麗な建造物で、彫刻は日光東照宮と同一の彫物師によるものと見られ、国の重要文化財に指定されている。境内には樹齢千年といわれる老杉



第四石門



大砲岩付近の岩場

も稜線上を縦走するのも極めて険しく一般向きではない。今日の中腹を回避する中間道が例登山行にはふさわしいのだが、

名を馳せる妙義山の奇岩怪峰つらなる稜線は、登山者の憧れの一つであるから、メンバーのうち何人かは、奥の院から少し稜線への道を探検してみたようだ。奥の院から中間道に戻ると、歩きやすい道が続く、ハイカーも多い。第一見晴、第二見晴から関東平野を望む。私はこの地方の山はとんと不案内であるが、新ハイメンパーには百戦錬磨の人も多く、はるかな樓名山や筑波山までも教えてもらった。やがて、自然石の「本読みの僧」に出会う。想像とは異なり、路傍の石仏のような小ささで、誰もが拍子抜けした。予定では、第四石門の広場で昼食のつもりだったが、朝食が早かったせいで皆空腹だった。「本読みの僧」近くのあずま屋で昼食とした。出発後、まもなく大砲岩となり、また中間道を離れる。このあたりは「日暮らしの景」と呼ばれ、林立する奇岩怪石が見事な所だ。大砲岩から戻ると、すぐ第四石門となる。広場には観光客や子供の遊ぶ姿も多い。巨大なアーチの第四石門には昨年、雨に煙るなから泰然と現れたので大き

▲参考タイム▼
妙義神社駐車場6・05〜10・妙義神社6・30〜40・大の字7・20〜40・辻7・50・奥の院8・00〜25・第一見晴9・25・第二見晴10・00〜10・本読みの僧10・30・あずま屋11・00(朝食休憩)11・30・大砲岩12・30・第四石門13・00・第二石門14・10・神社駐車場14・40・中ノ岳神社14・10・神社駐車場14・20
△地図▽昭文社『西上州』

な歓声を上げたものだ。その時の荘厳な雰囲気とは違うものの、大砲岩を背景にした大きなアーチ状の余韻は何度見てもすばらしい。広場からは、第二石門、第二石門と石門連りの錯場も歩き、再び広場に戻ってから、中ノ岳神社への道を進んだ。中ノ岳神社の駐車場に到着したのは14時過ぎ。観光客で駐車場は満車状態であり、道路にも順番待ちの車が並んでいた。この駐車場から仰ぎ見る表妙義の眺めは絶景で、まさに日本三奇勝と呼ばれるにふさわしい。表妙義は一度は歩いてみたい景勝地である。
(2006年4月22日歩く)



の太木があるはずであったが、台風で倒れたのか、今は老杉の「跡」となっていた。神社の脇から歩き始めると、広葉樹の明るい林内に落ち葉を分け、すくっと立ち上がるテンナンショウ(マムシグサ)の仲間たちがあつた。「仏炎苞」と呼ばれる大型の苞の両側(口辺部)が他のテンナンショウに比べて明らかに大きく、耳たぶのように張り出している。ミミガタテンナンショウだ。

テンナンショウ属の中ではもっとも開花の早いもの一つで、他の野草たちがまだ林床を埋め尽くしていないせいか、独りで春を演出しているかのような趣があり、マムシグサにありがちな不気味さは無い。むしろ涼とした雰囲気が高い、わがパーティーの女性陣にも人気を博した。落ち葉の林床にはもう一つ、いち早く春を告げようとする小さな花があった。アケボノスマレだ。スマレの中のプリンセスとも形容され、もっとも華やかなもののひとつだが、スマレサイシン系の「血筋」のため、まだ葉が開いていないのだ。中には花だけ咲いて、葉が地表に現れていない株さえ見られるくらいで、そんな花姿にわがパーティーの面々は心ひかれた。中間道から少し外れて奥の院への道を進む。大の字直前でクサリ場となった。妙義山特有の足場の悪さだ。クサリに身体をあずけ、腕力でよじのぼらなければならぬのは裏妙義と同様、女性陣が難渋する所だ。表妙義は、白雲山・金洞山・金鶏山から構成されるが、これらの岩峰に登るの

人気商品紹介
◆ウォーキングW◆
255型切替式超軽量モデル

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

イモック山道行くらぶ
8月、赤松山・うづろ谷沢のぼり
9月10日・北ア・熊岳
10月27日・28、戸隠高原・高梨山
詳細はお問い合わせ下さい。

イモック
IMOCK.
KOBÉ

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
※営業時間/10:00-20:00 ※日曜閉店

☆32/☆
●カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
●素材 1550g
●重量 ¥15,750

☆28/☆
●カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
●素材 1400g
●重量 ¥13,650

●両脇内ジッパー付き小ポケット
●P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変換することが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
●左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
●フロントポケットはメッシュとゴムコード付
●内部の仕切りフラップの開閉により1-2気室に切り替えて使い分けを可能に。
●立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。

静寂を求めて秋花巡り

那須岳

昨年は遠征登山が多かった。その一つ
の那須岳は登山者が少なく、静かな秋花
巡りとなった。台風によって出発日の変
更を余儀なくされたが、結果的に雨を避
けた山歩きができた、声をかけた者とし
てはありがたかった。

私の山歩きはお花巡りが主体で、どう
してもカメラタイムが必要になり、雨は
極力避けたい。そのため山行日が近づく
とネットで天気予報を繰り返し確認す
る。

今回は静寂のなかでゆっくりじっくり
とお花巡りをしたいと思い、平日山行に
した。そして、当日は期待どおりの静か
な山歩きができた。都会の喧騒はもうた

田中 明

那須連峰

くさん、大自然のなかを一步一步、山仲
間との信頼を築きながら時を過ごす、こ
の喜びは何ものにも変えがたい。

前夜発の電車で揺られるのは辛い
が、早朝に登山口へ到着し、すぐにスタート
する登山スタイルは、旅慣れた新ハイチ
ンナならではのものである。

ロープウェイ山麓駅で見上げると、雲
がやや流れているものの青空が広がり、
爽やかそうな気分が同行の人たちの笑顔
からもわかる。

元気な仲間にはロープウェイなど白もく
れず、登山道を進む。5分も行かないう
ちにお花を見て立ち止まっている。樹木

き誇っていた。

エゾリンドウを楽しみながら、蜂の茶
屋から1時間登ると、風の強いのが気に
なってきた。歩けば歩くほど強風が増し
てくる。ついには身体が倒れそうになり、
前進できないほどとなったが、何とか歩
くと前方に蜂の茶屋らしき小屋が見えて
きた。

そういえば、昭文社の地図にも「強風
で有名な蜂小屋は宿泊禁止」の表記があっ
たのを思い出した。

この蜂の茶屋避難小屋一帯は、茶臼岳・
剣ヶ峰・朝日岳のピークに挟まれた鞍部
に当たる。今日日本を通過している台風14
号の影響ではなく、ここではこのような
北西からの強風がいつも吹きつけている
ようだ。

小学生の一斉登山だろうか、250人
もの団体がこの小屋一帯を占拠しよう
としていたため、予定の茶臼岳は最後に廻
し、まずは北の朝日岳に向かって逃げ
た。

だが、狭い朝日岳頂上は人は少ないが
強風でゆっくりできない。風だけではな
く、ガラガラの大石の中ではじっとして
られない。

熊見曾根から茶臼岳を見る



の観察にも興味がつきない人たちである。
このお花は、あの樹木は、と右に左に忙
しいことこのうえない。

始めはイタドリ・テンニンソウ・ゴマ
ナなど地味なものが咲いていたが、高度
が上がるとウラボシやアザミが岩壁一面に広
がる。花はほとんど終わり、なかには黄
緑色からほんのり紅をさしているものも
ある。

早々に辞して清水平へ向かう。その前
の熊見曾根手前の登り途中の登山道沿い
で風を避けお昼にした。

あたりは一面ガス。食後、気温も下がっ
てカッパを着ける。思えばこの時間帯の
みが今回の山行でちょっぴりあわれな行
動を余儀なくさせられた。

シャクナゲの道をしばらく行くと、湿
地帯に木道のある清水平である。この時
季では草花は見当たらない。その後、今
回の最高峰である三本槍岳への道がえぐ
られ、ダケカンパ・ヤマハンノキ・ナ
カマドなどで日が当たらないため、泥ん
こになった悪路には閉口した。どうやら
この道は常に湿地状態のようである。朝
日岳付近で、よいお天気なのにスパッツ
を着けている人たちがすれ違ったが、原
因はこれだった。スパッツを着けていな
い我々は足元を気にしながらズボンをは
き替えて歩くが運気に失った感であった。

三本槍岳の山名からして尖鋭峰を連想
するが、実際には重量感豊かな山である。
戦国時代に会津・那須・黒羽三藩が国境
確認のためにそれぞれが槍を立てたこと
に由来する山名だとガイドブックが案内
している。



そばにはシラネニンジンが負けじと線
香花火のような白花を広げている。「わか
きれい」、大きな声に振り向くと、那
須の花、エゾリンドウだ。
那須観光協会のどのパンフにもこの
「那須の花」がPRされている。
北アルプスなどでよく目にするオヤマ
リンドウは花が茎頂に集まるが、それと
はやや種を異にするエゾリンドウは茎頂
とさらに葉の脇にも花を付けるのが特徴
である。

町が観光の目玉として、那須の花、に
力を入れているだけあって、今回の山行
では最初から最後までエゾリンドウが咲

大峯奥駈道七十五磨

新刊

森沢義信著 A5判上製 二九四〇円
吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道・「奥駈」を著者自らが探査して、摩・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

— 好評発売中 —

富山湾岸からの北アルプス

新刊

佐伯邦夫著 四六判上製 一九九五円
原始に遡った立山川通行、北アルプスの美しい谷・黒尾川北又谷、黒部も一つの秘境・赤太蔵谷……など旧編の登山紀行とエッセイで北アルプスの北面を語る。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111 〒606-8161



エゾリンドウ

今日は、そんな兵どもが夢の跡などとは微塵も感じられないほどのガスのなか、ホワイトアウトである。1等の栄誉を担う三角点に軽くタッチして山頂を辞し、熊見留根まで引き返す。1時間で熊見留根ピークに立つと何とここが本日の展望ではベストであった。先ほど踏んだ朝日岳がピークを東に傾けている。東側斜面の荒々しかったガレとは違い、北側はチ

シマザサなどが広がって青々としてい

る。その南西側には那須の名主、活火山の茶臼岳が白い噴煙を上げながら岩肌を見せて横たわっている。

東南にはこれから進む隠居倉が見え、ガレなど全く見せず樹林で緑一色だ。朝日岳・茶臼岳とは全く様相が異なる隠居倉の緑を見てはっとする。

南側の無限谷側はスパッと切れ落ちており、足元に注意しながらゆるい隠居倉への登りにかかった。コウメバチソウ・シラネアザミ・オヤマボクチ・ミヤマダイモンジソウ・ヤマトリカブト・ヤマハハコなど、もちろんエゾリンドウも咲くちよっとしたお花畑の登りであった。今回はエゾリンドウ以外はあまり期待

流れるままに大自然のなかをのんびりと草花を覗き込みながら行く。

ダケカンバやミズナラの樹林帯のなかを、いつになったら登りになるのかなと思うくらいに平坦な広い古道が続くのである。

小屋を後にしてから1時間の沼原の分岐からやっと登り道となった。咲き終わった山野草の若い実実を楽しみながら行き、前夜小屋の若者から薦められた小さなひょうたん池を覗くことにした。運よく茶臼岳がくっきりとその池に映り、逆さ茶臼が一幅の絵画を見るようであった。

近くの姥ヶ平にはガンコウランが黒い実を多く付け、シラネニンジン・エゾリンドウはもちろん、めずらしいネンバヤマハハコも咲き、ホツツジもあちこちに咲き残っていた。

火山腰のガラガラした道を登り切ると牛ヶ首手前で、稜線の牛ヶ首はカット。無限地獄で噴煙を上げる岩場の道を捲き、峰の茶屋跡分岐から最終の茶臼岳(那須岳)に取り付いた。

この登りは当然火山腰でガラガラだ。浮石に注意しながら30分程で4等三角点

その奥が最高峰の1915mの山頂である。

ここも池元の中学生の大群に占拠されていたが、彼らが引くのを待って記念撮影も滞りなく済ませた。

後はロープウェイ山頂駅までくればロープウェイが4分で山麓駅まで運んでくれた。

最後は何ともしない下山とはなかったが、4名無事に大丸温泉で汗を流し、夜行長乗の電車の人となった。

(平成17年9月8日〜9日歩く)

A参考タイムV

*花歩きとデジ亀でほとんど参考にはならない。

- (1日目) くもりのち晴れ) ロープウェイ山麓駅(1時間20分) 峰の茶屋(50分) 三本槍岳(1時間20分) 熊見留根(1時間50分) 三斗小屋温泉(泊)
- (2日目) (晴れ) 小屋(1時間) 沼原分岐(30分) ひょうたん池(55分) 牛ヶ首(30分) 峰の茶屋跡分岐(30分) 茶臼岳(50分) ロープウェイ山頂駅(ロープウェイ4分) 山麓駅

△地図▽昭文社「那須・塩原」



那須岳山頂の那須岳神社

子しているのだ。この秘境の地によくもこのような立派な建物が、麓から遠い山深い場所に宿をと考えた昔の人たちには敬服せずにはいられない。露天風呂で汗を流し、美味しい食事もうれしい。夜はランプの灯で静かにふけていった。今朝はそんなに急ぐこともない。時の

大峯奥駈道七十五靡

森沢義信著 A5判上製 二九四〇円

新刊 吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道・「奥駈」を著者自ら探査して、扉・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

富山湾岸からの北アルプス

佐伯邦夫著 四六判上製 一九九五円

新刊 佐伯邦夫著 四六判上製 一九九五円 原初に選った立山川通行、北アルプスの美しい谷・黒檜川北又谷、黒部もう一つの秘境・赤太蔵谷……など18編の登山紀行とエッセイで北アルプスの北面を語る。

★表示の価格は5%税込です
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111 〒606-8161



エゾリンドウ

今日は、そんな兵どもが夢の跡などとは微塵も感じられないほどのガスのなか、ホワイトアウトである。1等の栄誉を相う三角点に軽クタッチして山頂を辞し、熊見留根まで引き返す。1時間で熊見留根ピークに立つと何とここが本日の展望ではベストであった。先ほど踏んだ朝日岳がピークを東に傾けている。東側斜面の瓦々しかったガレとは違い、北側はチ

シマザサなどが広がって青々としている。

その南西側には那須の名主、活火山の茶臼岳が白い噴煙を上げながら岩肌を見せて横たわっている。

東南にはこれから進む隠居倉が見え、ガレなど全く見せず樹林で緑一色だ。朝日岳・茶臼岳とは全く様相が異なる隠居倉の緑を見てほっとする。

南側の無限谷側はスパッと切れ落ちており、足元に注意しながらゆるい隠居倉への登りにかかった。コウメバチソウ・シラネアザミ・オヤマボクチ・ミヤマダイモンジソウ・ヤマトリカブト・ヤマハハコなど、もちろんエゾリンドウも咲く。ちょっとしたお花畑の登りであった。今回はエゾリンドウ以外はあまり期待

していなかったが、この登りのお花畑では一同に笑顔が並んだ。

隠居倉ピークからは下り一辺倒である。エゾリンドウやヤマハハコなどを見ながら温泉神社横まで来ると、標高1450m付近にある三斗小屋温泉はすぐである。

一帯は鬱蒼とした自然林で大木のグケカンバも目立ち、この温泉で営業しているのは煙草屋とその左手一段低い位置の大黒屋の二軒である。我々は大黒屋に予約していた。

到着してびびり、昔の面影が随所に残るひなびた温泉宿で、まさにこの宿には昔の日本が残っているといっても過言ではなからう。

「山は命の母、森は動物のふるさと、自然は地球の宝」の言葉がこころをマツ。その奥が最高峰の1915mの山頂である。

ここも地元の中学生の大部に占拠されていたが、彼らが引くのを待って記念撮影も滞りなく済ませた。

後はロープウェイ山頂駅までくだればロープウェイが4分で山麓駅まで運んでくれた。

最後は何ともあっけない下山とはなったが、4名無事に大丸温泉で汗を流し、夜行長距離の電車の人となった。

(平成17年9月8日〜9日歩く)

参考タイム

- 花歩きとデジカメでほとんど参考にはならない。
 - (1日目) (くもりのち晴れ) ロープウェイ山麓駅 (1時間20分) 峰の茶屋 (50分) 三斗小屋 (1時間20分) 熊見留根 (1時間50分) 三斗小屋温泉 (泊)
 - (2日目) (晴れ) 小屋 (1時間) 沼原分岐 (30分) ひょうたん池 (55分) 牛ヶ首 (30分) 峰の茶屋跡分岐 (30分) 茶臼岳 (50分) ロープウェイ山頂駅 (ロープウェイ4分) 山麓駅
- △地図▽昭文社「那須・塩原」



那須岳山頂の那須岳神社

チしているのだ。

この秘境の地によくこのような立派な建物が、麓から遠い山深い場所に宿をと考えた昔の人たちには敬服せざるはられない。

露天風呂で汗を流し、美味しい食事もうれしい。夜はランプの灯で静かにふけていった。

今朝はそんなに急ぐこともない。時の

流れるままに大自然のなかをのんびりと草花を覗き込みながら行く。

ダケカンバやミスナラの樹林帯のなかを、いつになったら登りになるのかなと思うくらいに平坦な広い古道が続くのである。

小屋を後にしてから1時間の沼原の分岐からやっと登り道となった。咲き終わった山野草の若い果実を羨ししながら行き、前夜小屋の若者から聞かれた小さなひょうたん池を覗くことにした。運よく茶臼岳がくっきりとその池に映り、逆さ茶臼岳が一幅の絵画を見るようであった。

近くの麓ヶ平にはガンコウランが黒い実を多く付け、シラネニンジン・エゾリンドウはもちろん、めずらしいホンバヤマハハコも咲き、ホツツジもあちこちに咲き残っていた。

火山深のガラガラした道を登り切ると牛ヶ首手前で、稜線の牛ヶ首はカット。無限地獄で噴煙を上げる岩場の道を歩き、峰の茶屋跡分岐から最終の茶臼岳 (鳥頭岳) に取り付いた。

この登りは当然火山麓でガラガラだ。浮石に注意しながら30分程で4等三角点、

小さな村をとり巻く静かな六つの山

寒陽気山・無反山・手掛岩山・新栗山・尾城山・捨菴山

飛驒

山形 明

岐阜県東白川村は、飛驒川の支流白川沿いの人口2800人の小さな村で、村をとり巻くようにして、寒陽気山・無反山・手掛岩山・新栗山・尾城山・捨菴山の六つの1000メートル前後の山がそびえている。

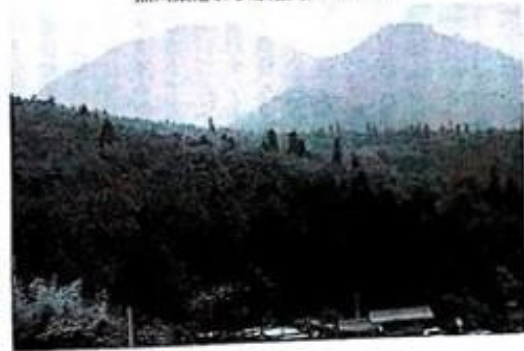
登山口までは地図に載っていない林道が多く、道標も無いので迷うばかりであった。土地の人に尋ねてもはっきりしない。登山口を探すのに手間どった。

① 寒陽気山(1108・2峰 △Ⅲ)
県道72号線が大多尾峠を越えて白川町黒川へ通じている。峠手前50メートルの所のやぶのなかに踏み跡があり、そこを入ると

放置された林道が200メートル程で途切れている。ササやぶを登って稜線に出ると道があった。道は村境杭の切り開きに沿って付けられており、樹林のなかを行く。途中、樹林が途切れている所から、黒川集落をとり巻く山々が見渡せた。展望は唯一ここからだけで、山頂は三角点標石を中心に小広く切り開かれた樹林のなかだった。

② 無反山(888・5峰 △Ⅲ)
大野峠へ行くとき登山口があった。稜線上を急登して高度を稼ぐと水平道になり、ピークを右に左に捲いて道が続く。四つ目のピークも右を捲く薄い踏み跡がある

黒川集落より寒陽気山(奥の山)



のでそれを行くと、右手から支尾根が上がってきていて、境杭もピークに向かっているのだから沿って登ると山頂だった。祠があり、中に石仏が鎮座している。たぐさんのギンリョウソウが咲き競っていた。

③ 手掛岩山(909・3峰 △Ⅲ)
高岩林道に登山口があり、沢沿いの道

だ。大岩からわずかで山頂に着いた。

④ 新栗山(973峰 △Ⅲ)
国指定ハナノキ自生地奥への林道を行くと、クレーン車が道をふさいで伐採した材木を積み込んでいる。避けてもらうのも気の毒なので越道峠へ行く。登山口に表示板が無いが、中津川市の境界看板横のササ原のなかに薄い踏み跡があるのでこれを登る。山頂まで稜線通しのササ道だった。

⑤ 尾城山(1132・9峰 △Ⅱ)
曲坂集落から林道を奥へ走り、最後の分岐点を右の砂利道に入ると、4・2メートルの所に登山口がある。幅2メートルのブル道が山へ向かっている。途中ショートカットがあるもの、このブル道は頂上まで達していた。

⑥ 捨菴山(983・2峰 △Ⅲ)
林道奥の二段の所で車通行止めの看板があるのでそこから歩く。途中、山の斜面がえぐられ、雪庇のように張り出した表土に大きな木が何本も立っている。もしこれが倒れ落ちたら道はふさがれてし

まうだろう。最奥の二段で左に行き、林道終点が登山口である。

斜面を急登すると稜線に出る。稜線上は広葉樹林のなかの歩きやすい道でルンルン気分が頂上に達した。

この六つの山は、どの山も1〜1時間30分で登れ、2日間登った。この間誰にも出会わない静かな山だったが、五度もカモシカに出会った。至近距離でお互い立ち止まって見つめ合っていると、こちらが気恥ずかしくなりモジモジしてくる。無反山ではふわふわの落ち葉の上で寝ていると、通りかかったカモシカがジーンとオレを見ていた。

この前日、新ハイ例会に参加し、飯綱山と黒姫山に登ったが、ブヨの大群にまわりつかれ、いやな思いをした。ここではどの山でもそんな虫は一匹もいなかった。

東白川村は山間に茶畑と棚田が広がっている。林業も盛んなようだが植林もよく手入れされ、木工所や製材所の橋を通ると、忙しく立ち動く人の姿が見えた。

(平成18年6月12日〜13日歩く)
△地形図V2万5千1付知・加子母



を行く。この道は途中で消えてしまう。沢をつめても稜線に出られるが、沢途中で左の急斜面を登る。道は無いがやぶは薄い。やがて稜線上に大岩が見えてくるので、そこをめぐって登る。

一人の坊さんが山頂の祠に参拝しようとしたが狼に追われ、この大岩に手を掛けて天に舞い上がって難を逃れたという。この伝説から手掛岩山の名が付いたそう

ハブニング続きで出発

釜山・金井山

韓国

高島伸浩

旅にハブニングは付きものとはいっても、今回ほど肝を冷やしたハブニングはなかった。

平成16年10月29日、12時13分の電車に乗るべくリュックを担いで12時前に自転車まで自宅を出た。駅手前でバスポートや貴重品の入ったポシェットを確かめようとして腹に手を当てた。アレっ、ない。ペシャコンコだ。エッ、アッ、エライコッチャ。来る時に落としたのか？ 自転車を反転、今来た道を脱兎の如くに引き返す。

時、ちょうど12時。家まで戻っても無かった。数軒で待っているTさん等に先に行ってほしい旨伝言する。次は警察

だ。110番を回している時にフト腹を見た。ポシェットの紐が見えた。何のことはない、ポシェットが背中へ回っていたのである。

さああと3分。車に乗り換えブイブイ。信号無視もあったかも？ 駅前に車を乗り捨てダグダグ。階段を駆け上がったところで電車が来てドアが開いた。昔とも出会えてどうにか間に合った。

ハブニングは続く。大阪駅で待ち合わせの1人がホームにいない。だいたい待つたが来ない。改札口からしれないと思つてホームを下りた。雑踏の中で向こうもこちらを探していた。どうにか一行7人が揃った。

う。16時出発、翌朝10時着。18時間の船旅だ。修学旅行の帰りか韓国の女学生がいっぱい。近くの部屋で夜中まで騒いでいた。我々も旅の期待にウキウキと杯を重ねた。

10月30日、韓国全土が高気圧に覆われ、安定した晴天に恵まれた。しかも暖かい。

釜山の観光名所は、定番の龍頭山公園・国際市場・チヤガルチ魚市場、龍頭山公園の釜山タワーは120mの高さ。360度の眼下には、東に釜山港、三方にびっしりとビルやアパート群が立ち並び人口420万の大都市である。定番とはいえず、石焼きビビンバの昼食はさすが本場の味。午後、釜山の近代的な繁華街「西面（ソミョン）ロータリー」にある、釜山一の高級ビル「ロッテ釜山」（43階建の総合レジャービル）にて自由行動。

ロータリーの地下広場でインディオの音楽グループがパフォーマンスをやっていた。立派の余地なく取り囲んでいる観客。外国で外国人のパフォーマンスを見て、世界旅行を楽しんでいる、という実感をもった。

釜山に着いてから予約をした「ロッテ釜山」のディナー付きの「韓国民族舞踊&中国雑技団ラスベガスショー」は7000円だが値打ちがあった。日本で予約をすると15000円だから要注意である。ショー終了後、「ロッテ釜山」周辺の屋台を見て回る。いわゆる一杯飲み屋、衣料、CD、その場で作るお菓子屋、雑貨など何でもあり、日本語も通じて見て回るだけで楽しい。

二台のタクシーに分乗して宿泊のホテルへ行く。6分走って2200ウォン、4人で乗って日本円1人55円。乗り物は韓国では何であれ安い。

10月31日、登山に備えてバイキング朝食をたっぷり取る。8時前、リュックを担いでホテルを出る。ところがリュックを担いでいるのは我々だけではない。続々とリュック軍団が行く。近くの市民ホールが観光バスの発着場だったのだ。見ると何十台とバスが待機している。皆が登山ではないだろうが、どこへ行くのだから。

我々は逆流するように地下鉄の駅へ向かう。ホテルから5分、梵魚寺まで80

ハブニングはまだまだ続く。釜山行きのフェリーターミナル大阪南港を目指す。地下鉄に乗ったつもりがJR環状線。それも環状線に乗るなら内回りに近いのに、外回りに乗ってしまった。天神橋で地下鉄に乗り換えコスモスクエア駅で降りた方がいいが、今度はフェリーターミナルと反対の方向へ歩いてしまふ、またもやロス。2時間前に着くはずが30分前だ。何度となくターミナルへ恩場所を電話してようやく滑り込みセーフ。

最初のでっかいハブニングが尾を引いた。

7月に同じツアーに女房と参加して釜山の金井山を楽しんできた。往復豪華船一等2泊、高級ホテル1泊、釜山半日観光付きの3泊4日で19800円。コース、料金共あまりにも手軽なので皆さんをお誘いしたわけだ。高島が案内しますと言ったものの、いきなりのつまずきで皆さんに心配と迷惑をかけてしまった。

ハブニングは船に乗ってようやく収まった。夕景色の瀬戸内海を一路釜山へ向か

0ウォン。日曜の朝とあまり込んでいないが、電車の中にはリュックを持ち登山靴を履いている登山者がいる。7月も金井山へハイキングをしたが、老若男女大勢の登山者とすれ違った。日本より韓国のほうが余程登山熱は盛んである。

この地下鉄は、1988年のオリンピック（バルボロオリンピック）の競技施設と共に完成したものである。その前年、息子と自転車、松島、彭島、梵魚寺、海雲台などへと走ったが、どこもかしこも工事中で、道も舗装されてなく砂ぼこりに悩まされた。

地下鉄「梵魚寺」を出ると、お誠え向きにタクシーがサーッと来た。山手の古刹「梵魚寺」へ10分。これも日本円で1人90円ほど。ところが入山料が10000ウォン必要。

梵魚寺は韓国神宗の總本山。山門や本堂はいうにおよばず数々の塔頭が境内に並ぶ。極彩色の飾りもくすんで歴史の古さを物語る。山に囲まれ紅葉の名所でもある。

穏やかな日相で、晩秋というのに暖かい。本堂の大雄殿を左に行くと境内を抜ける。前半は谷に沿って登る。大小の岩



金井山山頂の「姑堂峰」にて

が重なる。落ち葉の積もった石を右に左に選んで歩く。現在地を示す看板があり、自然観察の説明板やコースロープもあり、迷うことはない。バサバサと落ち葉が舞う。仰くと濃い青空だ。ピーピーと何の鳥かわからないが近くで鳴く。あゝ外国の山を歩いているんだなあ、と充実感を覚える。

北門に着くと頂上の岩峰が見えた。北門の回りは広い広場で、飲み物などの小

さな店、水場、トイレも完備。大休憩する。若者や家族連れがけっこういる。

北門から南尾根に東門、南門まで7分。余り、昔は中国の万里の長城のように石壁が続いていたが、今は一部を残すのみとなっている。

北門広場ではミツバツツが咲いていた。先行の家族について行くと頂上から離れて行く。その家族が間違ったよう、他の人に指摘され本コースに戻った。

頂上手前から巨岩が立ち並ぶ。しかし花崗岩の巨岩も、水滴、石をも穿つ。で大勢の人に踏まれ自然と足掛りが出来ている。もちろんロープで養生してある。

「姑堂峰」の看板がある頂上は標高801・5m。一番高い一枚岩の上に立つ。風が少々ある。この辺りでは一番高いから当然360度の眺め。西眼下に洛東江の流れ、霞んではいのが南に釜山市街、海雲台に続く水宮灣、近くは東門に続く石壁が帯状にうねる。次々と上がって行く登山客でごったがえしてきた。めいめに記念写真を撮り下山する。

我々はちょっと早かった。どうにか楽に登れたが、次々と登山客が上がってくる。狭い所では肩がぶつかるほどだ。

「早ようて、よかったなあ」とは皆の感想。

北門から往路を戻る。梵魚寺の境内の手前、谷川の大岩の上で昼食にする。まわりは真っ紅なモミジ。

梵魚寺から地下鉄の駅へ戻ろうと、タクシーを探すかなかない。そこへ巡回バスが到着した。聞くとも地下鉄の駅へ行くと言う。オーラッキ！ 地下鉄の駅へ着くと今度は電車がサーッと入ってきた。オーラッキ！ 釜山港に近い中央洞まで40分、800ウォン(80円)。何て便利で安いんだらう。釜山が好きになっちゃった。韓国語が出来たらなあ！

ポケットいっぱいのコインを使ってお土産の韓国海苔をいっぱい買った。

出がけに大ハブニングをしてしまったのに、釜山では何もかもびっくりするほどスムーズだった。

ちょっとおまげがあり。大阪駅の改札口で、電車の切符をいくら探しても見つからない彼。泣きの涙で出してもらった。帰りの電車でよく見たらカバンの中であついていた。みんなで大笑い。

(平成16年10月29日、31日歩く)

日本の東・西・南・北端

生駒 聳 峰

日本の東・西・南・北端を探してみる。日本地図を広げてみると、東は太平洋の真ん中の南鳥島、西は沖縄先島諸島の与那国島、南はこれも太平洋の沖の鳥島、北は北海道の宗谷岬になる。

現在、人が住んでいて行くことが可能な地点としては、宗谷岬と与那国島で、沖の鳥島と南鳥島は通常不可能である。そこで、行ける地点として探すと、東は北海道の根室岬、南は沖縄の波照間島と北端になった。

最東端の北方四島択捉島は、現状では行けない。

一方、私がテーマにしている1等三角点を調べてみると、東は南鳥島、西は沖

繩の久米島1(宇直城岬)、南はこれも沖の鳥島、北は宗谷山である。

これも行くことが可能な点としては、東は根室岬の野塚舞、南は沖縄の八重嶽となる。

さらに等級に係わらず三角点としての最端部は、東は南鳥島(1等)、西は与那国のアデス屋敷(4等)、南は沖の鳥島の北小島(3等)、北は宗谷の大岬(4等)となり、これも行ける所としては、東は根室岬の瑠璃環(2等)、南は波照間島の慶原西(4等)となった。整理してみると、

最端部 行ける所
東端 南鳥島 根室岬

最南端(波照間島)



西端 与那国島 与那国島
南端 沖ノ鳥島 波照間島
北端 宗谷岬 宗谷岬
1等三角点の最端 三角点の最端
東端 南鳥島 根室岬瑠璃環 (2等)
西端 久米島1 与那国アデス屋敷(4等)
南端 沖の鳥島 波照間島慶原西 (4等)
北端 宗谷山 宗谷岬の大岬 (4等)
右記のようになった。



最西端 (与那国島)

の三角点も、2万5千図に記載されていないので、正規のものではなかったようだ。

1等三角点は沖縄の久米島にあり、自衛隊基地の宇江城岳山頂に設置されている。

石垣島に戻り、波照間島に向かう。波照間島にも1日1便の航空機が飛んでいく。石垣港には各島に向かう船会社が何社もあつた。

島の中央の村まで民宿の車で送ってもらおう。波照間島は平坦な砂洲のような島で、山どころか丘ひとつ見当たらない。全島砂糖きび畑と牧場で、島の中央に人家が集まっている。

まず地形図に△マークのある所に行ってみる。4ヶばかり高く珊瑚岩が積み重ねられ、見張り台になっていて「コート感」とある。上に3等の標石が入っている。周囲には砂糖きび畑が広がる。村はずれの灯台のそばにも同じような石積みが見張り台があり、4等標石が入っている。島一番の高台で59・5呎。砂糖きび畑のなかを歩いて島の南端に向かう。しかし最南端の三角点は雑草のなかで見つからなかった。海岸に日本最南端の碑が立つ。そばの日の丸を付けた右翼団体の碑のほうが立派である。また各府県の石で造られた蛇のモニュメントも不細工な

もので、何か物足りない最南端である。砂浜にぽつんと建つ天文台にも人影は無かった。与那国島の碑は立派だったが、この南端は実に味気ない所であった。北海道の北端・東端は賑わっていたが、沖縄の西端・南端は観光客の姿も全く無く、国の果ての果てであった。

最果ての島は南十字星が見えるのが観光の目玉だが、曇天では星ひとつ眺められなかった。石垣島に戻る船もけっこうよく揺れた。民宿の女主人も「この航路は年中よく揺れますよ」と話していた。

その後、沖縄の最高峰になる石垣島の於茂登岳(526呎)に登り、西表島、小浜島、竹富島、黒島などを観光したが、どこも石垣港が起点になるので、行ったり来たりの旅であった。

最東端の南島には気象観測所や自衛隊の基地があるが、一般人は立ち入り禁止である。また最南端の沖の島は、東京都が漁業基地などをつくらうと運動している、根拠地などを派遣している。そのうちに行けるかも知れない。行けたとしても、太平洋の真ん中では、日数も費用もかかることだろう。

私のテーマにしていた1等三角点はすでに調査済みなので、今回は最端地点と最端の三角点を訪ねることとした。

北端と東端は北海道にある。先ず北端の宗谷岬は有名観光地で観光客の絶え間なく、問宮林蔵の銅像やモニュメントが並び、晴れた日にはほるかに樺太の島影が見え、意外と近いと実感する。みやげ物屋や食堂など、最果ての地という実感はない。背後の岡の上には灯台や大韓航空の碑等がある。

最北の三角点はこの高台の一番高い所で、500呎ばかり雑草をかき分けて行くと、草に埋もれたトーチカの廃墟がある。そのそばに設置されている。ここからの展望はさらに良く、宗谷海峡の果てにうっすらと樺太が望まれた。

この高原は広く南に広がって牧場団地として整備されているが、その中央あたりには最北の1等三角点宗谷山がある。

最東端は根室岬である。これも観光地でたくさん建物立ち並び、人影の絶えることがない。しかし、岬の断崖の上に立つと冷たい風が吹き抜け、黒くかすむ樹影の島影が地の果てを感じさせる。島に行けないという思いがいつそうち心を

重くさせるのだろう。

海峡の真ん中に目黒島が直立している。この目黒島までロシアに支配されているとは、残念のきわみである。

最東端の三角点瑠璃岬は、岬の背後の原野のなかで、「点の記」を頼りに突入した。特に高い所とてないので適当に探すはかはない。草原で見通しは良いが、高さがないので特に展望は得られない。道も無く人影も無い。

1等三角点の野塚岬は、さらに西よりの根室半島中央部の牧場の中にある。

西端と南端は沖縄の先島諸島にある。まず西端の与那国島に行く。大阪から石垣島に飛び、さらにプロペラ機に乗り継いで与那国島に渡る。石垣島からは船便もあるが、週二便で4時間程かかる。飛行機なら25分である。

出発した3月の大阪は気温5度だったが、ここは16度で、持参の上着が邪魔になる。もっとも北海道はマイナス5度で20度の温度差があり、日本列島は広い、いや長い。日本最果ての地に来たことが実感できた。

レンタカーを走らせ西端の岬西端に到着。岬の休憩舎の前に立つと、見渡す限

りの白波、どんよりと曇った空が水平線を覆う。近いはずの台湾の島影も無く、強い風が吹き抜け、地の果ての怪しさを告げる。

休憩舎の横にポールが立ち、コンクリート製の標石に沖の文字が刻まれている。5万図には記載が無いが、これが日本最西端の三角点ではないだろうか。

地形図によると比川村の背後の131・6呎が最西の三角点で、牧場台地の一隅の大岩に4等の図根点となっている。島の最高点の宇良部岳3等点、山名記載のある久部良岳・与那国岳、島の東端の東崎4等点など、さらに久部良の村に水準点2等を見つけた。結局島を6時間程かけて一周したが、沖縄の山はどこでも山頂に神々がまつられている。私達以外に観光客は見かけなかった。

訪れたのは1995年のことで、5万図持参で調査したのだが、その後2万5千図を見ると、5万図でコンタクトだった所が4等三角点に選定されていた。それによると、最西端の三角点は74・4呎「アヌ屋敷」となり、当時は見落としてしまったようだ。最西端と思った西崎

エリア別徹底研究

伊能ウオーカーINやまと②

長谷寺駅→伊勢本街道→桜井浄水場前→角柄→西峠→榎原図書館→追分→伊勢青越道→天満台東榎原ふれあい公園→濡地蔵→山辺三東バス停→室生口大野駅→三本松駅
上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月22日〔#1809・2・6〕

朝六ツ後〔7時頃〕(先手は七ツ半〔5時頃〕出立)後手我等・下河辺・青木・佐助初瀬村出立。無程大雪。同所より初〔メ〕、同村出屋敷与喜浦、吉隠村(藤堂和泉守領)、角柄村(織田左衛佐領分)、それより同国宇陀郡西峠村(織田数馬知行、字玉立)を経て萩原村(木村惣右衛門御代官所、駅場、初瀬より50町)迄測〔ル〕。先手の初に合測。先手坂部・柴山・文助・善八。萩原村より初〔メ〕、福知村(織田数馬陣屋)、長峯村(同知行)、山辺西村(同上)、山辺村(木村惣右衛門御代官所)、それより山辺郡大野村枝緑川村(藤堂和泉守領下向字勘定村、白坂村)、大野上村(同領)、大野村(同領)を過て、路無村出屋敷字三本松迄測〔ル〕。此日終日度々降雪。後手八ツ後〔15時頃〕、先手七ツ後〔17時〕三本松着(萩原より一里)。止宿屋文蔵、別宿三木屋清右衛門。此夜晴天測量。

〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達天編著より引用

●実施日 平成14年2月19日(火)
●参加人数 16名
くもり時々雪

近鉄長谷寺駅9時30分集合。寒波襲来で雪がチラチラして寒い。先生より「旧伊勢街道は国道165号線の整備により、だいぶ旧道が無くなっている。出来るだけ探して歩く。」との説明。9時35分出発、長谷寺参道を行く。長谷寺手前の「いせ道」の道標前を右へ、旧伊勢街道をすぐに伊勢辻橋を渡って左へ、舗装されていない急な坂道で身体が熱くなる。すぐに切り通しに出た。右に神社があり、10分程入ると、すばらしい景色に出会う。長谷寺の全景である。皆んな写真を撮る。街道に戻り、与喜浦を過ぎると舗装がなくなり、細い道になる。桜井浄水場の所で国道165号線に出る、10時15分。ひたすら国道165号線を一列で歩く。

途中、伊勢道あり。「大峯登山」の碑あり。ハリ・バリ・ハイと読む字のある地名は、昔開墾・開拓した所という意味、また「山辺三」は江戸時代は領主(年貢を納めた)が違い、山辺村(幕府領)山辺中村(織田豊次領)山辺西村(織田豊

敏守領)と呼ばれていたが、明治8年に合併して「山辺三村」と呼ばれるようになった、角柄集落も織田家領と、それぞれ説明が上田先生からあった。角柄より国道165号線へ出る。左上に春日宮天皇妃殿あり、西峠へ11時20分着。また旧伊勢街道へ入り、墨坂傳称地碑を見て榎原町立図書館へ11時45分着。ここで昼食。図書館にて水をもらいに行く職員が「外は寒いでしょう。」と館内の、おはなしの部屋を貸してくださいました。外は雪がちらつき寒かったが、館内の暖かい部屋でゆっくりと食事できた。

午後は明治の2万の1地形図をもらい、12時35分出発。追分分岐点の「右 伊勢本街道 左 青越道」道標、「あぶらや」宿前にて記念写真。青越道を歩く。左に額井岳を見、また国道165号線へ。天満台より旧街道に入り、榎原町立ふれあい広場にて小休止。恒例の紅茶をついていた。今日のように寒い日は温かい飲物ありがたい。ひと息つき、13時40分出発。

途中、濡地蔵(室生湖の増水で地蔵は水没して見えなかった)、そして近鉄線トンネルの手前より国道165号線へ上

がり、山辺東バス停より歩測する。約10分、先の、古道が無くなりかけた所の空地で終了。その後、舗装道を歩き、室生口大野駅へ13時40分着。駅で西木さんがリタイアして15名で三本松駅へ出発。すぐに急な坂道となり少し汗をかき、上に出たら、真下に室生口大野駅。展望良好。ここからは下り坂。三本松の町中を通り、「三本松村道標元標」を見て本日の終了点。

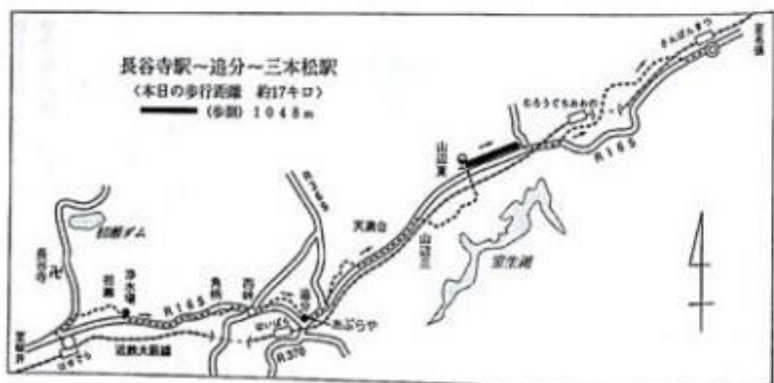
右に折れ、三本松除橋を渡って国道165号線へ(ここで、また雪がチラチラ降ってくる。寒さの厳しい一日であった)、三本松駅に16時30分到着、解散。

(記録・森田晃通)

△地形図√2万5千√初瀬・大野大野



伊勢本街道と青越道の分岐の「あぶらや」前にて



エリア別徹底研究

伊能ウオーカーNやまと②

室生口大野駅〜三本松(罷無)〜鹿高(鹿高神社)
 安部田〜井手〜結馬〜黒田〜黒田橋〜新町
 橋〜名張市・本町〜藤堂家屋敷〜近鉄名張駅
 上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月23日〔1809・2・7〕

午前晴。午後は雪。朝六ツ後罷無村内三本松出立。一手にて測(ル)、同村より初(メ)、上長瀬村(藤堂和泉守領、以下同)、中長瀬村、長瀬村、それより伊賀国名張郡安部田村、井手村、結馬村、黒田村を過、名張川(又栗瀬川)を渡て名張(古名栗瀬村、今は名張町、藤堂宮内卿屋、高(三万石)、新町、本町(三本松より二里八丁)迄測(ル)、止宿町年寄辻吉治郎、別宿角屋源三郎、大庄屋山下吉兵衛、東瀬彦太、山下文藏出。名張宿、阿保宿掛役人治右衛門、弥助、途中へ出る。伊賀国中差添案内の由、阿保宿(上町庄屋十左衛門、下町庄屋七右衛門)明日止宿詰に来る。此夜晴天測量。止宿辻吉次郎より朗書(以下名張藩重役録高につき省略)。

△伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫著書より引用

地図が掲げられているお堂があった。絵は相当古いもので値打ちのあるものだと先生から説明があった。しかし風雨にさらされて、所どころはがれていて、全体として絵が不鮮明になっていたのは残念であった。

12時出発。国道165号線を歩き、宇陀川のはとりの大和(奈良県)と伊賀(三重県)の国境で、記念写真をとった。ここから伊賀の国に入ることになる。30分ばかり歩いて鹿高の鹿高神社に到着。ここには、本居宣長が明和九年(1833)3月、松阪から吉野へ旅行した時の紀行文「萱笠日記」の1節が、石に彫られていた。宣長はこの道を通り、私たちが前回記念撮影をとった、榛原の「あぶこや」に宿をとったことも書かれている。

少し歩き「いこいの家」と農協の近くで休憩。広々とした田園風景の右前方に百合ヶ丘団地を見ながら、再び国道165号線を歩いて、黒田で地形図に印されている4等三角点を見つけた。しばらくして宇陀川を黒田橋で渡り、すぐに名張川を新町橋で渡り、名張市に入った。本町を通り、藤堂家屋敷の前を通り、3時頃目的地の近鉄名張駅に到着した。

今日は第六次大和路測量の最終の日に当たるので、名張シティホテルのレストランにてお祝いの席をもうけた。約2年間にわたり、無事に終了できたことを全員で乾杯した。(記録・金田雅一)

△地形図▽2万5千1大和大野・名張



大和・伊賀の国境にて

●実施日 平成14年3月19日(火) 晴れ
 ●参加人数 16名

今日は快晴に恵まれ、春を思わせる陽気でウオーキングには申し分ない。近鉄室生口大野駅に10時集合。伊勢街道を東へ近鉄のガード下をくぐり、急坂を登り三本松に向かう。途中、北向地蔵堂があり、上田先生から北向きの地蔵は珍しいとの説明があった。坂道が終わりに急に見え、境界が開け、室生口大野駅を下に見ながら、三本松(罷無)郵便局の跡地に着いた。ここでしばらく休憩。

先生からこの地名にちなんで、「ヒゲ」には漢字で書くと次の三種類があると教えていただいた。ヒゲ(クチヒゲ・シヒゲ(アゴヒゲ、シュ)、髭(ネヒゲ、ゼン)。今日の歩測はここから長瀬郵便局前まで、距離は今までで最長の約2.5km、めずらしく午前中に行った。近鉄大阪線と宇陀川に沿って伊勢街道を歩き、途中から国道165号線を歩測した。約30分で長瀬郵便局前に到着し、少し早目の昼食をとった。歩測の結果は、伊藤さんが優勝され、ビールと紅茶でささやかな乾杯を行った。近くに女人高野室生山の絵

連載

三角点を訪ねて ④ 中央分水嶺を歩いて 木地山峠から駒ヶ岳・池原山へ

湖西

磯部 純

中央分水嶺とは、太平洋へ注ぐ川と日本海へ注ぐ川の分水嶺を、日本列島の北から南へ結んで出来る一本の線のことである。滋賀県・京都府にも中央分水嶺が通っていて、大部分が道の無い尾根の連続である。

そんな中央分水嶺を歩く道が、滋賀県の園城愛発越から京都久多の三国岳までの間に、平成17年末に高島市の湖西ネット協議会により「湖西トレール」として整備された。

たまたまこの前年に、この区間の一部であるシチクレ峠から、熊ノ畑北にある分水嶺ピーク標高点744mまでを歩く山行をもったが、その時にはまだ道が開

かれておらず、道標などは全く無かった。稜線にはすばらしいブナ林が残っていて、その光景を楽しんだだけでなく、駒ヶ岳と池原山の三角点も訪ねることができた。

ただ、この山行は、歩く距離が長過ぎるので、全行程を歩く健脚組と途中の木地山峠から歩く組とに分け、健脚組は足の強い三角点病元祖のあの方がリーダーとなり、足に爆弾を抱えた私は木地山峠組のリーダーとなった。

8時30分、寝坊17名が中小屋を出発する。群生用に沿って30分ほど歩くと谷分岐。ここでシチクレ峠へ向かう健脚組は左の南谷へ、木地山峠へ向かう組は右

は山際の杉林のなかを谷奥へとひびいてる。やがて林道分岐に到着。左の林道は真新しく左上へと登っていくが、右の林道は谷を渡りニゲン谷へ入っていく。地



形図を見ると、木地山峠へ向かう道は谷に破線があるので、左の林道を登ろうかと迷っていると、「道標があった!」の声。谷を渡った所に「木地山峠」と書かれた道標が立っているの、それに従い林に入るが、すぐ道は消えてしまう。仕方なく引き返し、谷右岸にある古い道を進むと、谷脇に登山道とは思えないようなかすかな踏み跡が現れた。

地形図を見て谷に沿って歩き、杉林を過ぎると30分幅程の踏み跡が斜面を切るように登っていく。右下に堰堤を見下ろしながら進むと、何本もの巨木に出会う。左手から来る谷を渡り、右後方にサクラ谷を見ると、やがて道は谷へと降りる。その手前には朽ちた小屋の残骸と木地山峠への道標が立っている。それを見て疑心暗鬼だった皆は、やっと木地山峠への登山道を進んでいると安心した様子。

谷を渡った所でひと息入れる。谷左岸を進んで、右岸へ渡り返すとすぐ谷分岐。右の本谷には道標が無く、またここでウロウロ。踏み跡のある左のサンパス谷へ10分も入るとテープがあり、本谷右岸の踏み跡へ取り付けた。どうやら本谷にある滝を高橋く道のように、しばらく斜面

を横切って登るが、その道も谷へくだると、再び消えてしまった。

あたりを見渡すと、左岸の浅い谷の左斜面にテープを見つけた。そこを登ると踏み跡がしっかりしてきて、道は斜面を切るように本谷と並行に進んでいく。左下を流れる谷に連なる幾つもの滑滝を見ながらしばらく登ると、再び道は谷へくたってしまうが、そのまま谷脇の杉林を進むと炭焼き窯跡が残っていて、その先で道標が現れた。そこから道は谷を離れて斜面を登り、Uターンすると木地山峠に登り着く。10時30分の到着だった。時には、荒れた谷道に比べて立派過ぎるほど立派な道標が二本も立っており、峠の北側には、小さな祠の中に地蔵尊が祀られていた。

この峠で休憩していると、突然、「ガサゴン」という音。何だと思ってみると、西斜面のすぐ近く、距離にして10分程の所にある木の上から、黒い獣が降りているところ、よく見ると体長1m以上はあるような熊だった。それを見るなり「ヒア」と声を上げると、木の途中からドスンと大きな音を立てて落ち、そのまま斜面を下の方に消えて行ってしまっ

駒ヶ岳山頂の三角点



た。山で熊に遭い、熊を間近に見たのは初めてのことで、この時は怖いというより、あっけにとられたといったほうが当たっている。しばらくの間、この熊の話でもちきりとなる。

無縁を飛ばすが健脚組と連絡がとれず、10時40分に峠を出発する。右杉林、左雑木の二次林の県境尾根を登って行くと、次第に勾配がきつくなる。登るにつれ、左の雑木林にブナが目立つようになってくる。フクフク言いながら登り、尾根が斜面に変わると、やがて標高点825mのピーク。山頂は雑木疎林の平坦地で、東の端に立つと、この日初めてこれから歩く県境尾根を見る。目的の駒ヶ岳はまだはるか遠くに霞んで見える。

標高点825mから、リュウブの多い雑木の尾根を東へくだる。尾根は進むにつれ高木のブナが目立つようになってきた。低いピークを二つ越え、尾根は狭い二重山稜に変わり、その間にヌク場が幾つもあった。そこを登った所が標高点765mのピーク。山頂には苦むした木々がアチコチに立ち並び、古い庭園を思っているようだった。

このピークに来て、初めて健脚組と連

絡がとれた。驚いたことに、この時間にやっとう里ヶ岳へ登り着き、昼食にかかったところだとか。後で聞くと、シチクレ峠までの谷道が荒れていて尾根への取り付きがわからず、そのまま谷をつめたので時間がかかってしまったとか。それではくと、我々もこのピークで昼食をとることにした。

いつもなら1時間はかかる昼食も、女性が多いと食べ終わると手持ちぶさたなのかソゾと動きだして、ゆっくりさせてはもらえない。籠で待つ山行責任者に、「先行組はゆっくり歩き、途中で追いついてもらっていっしょに下ります」と言っていた手前、急ぐわけにもゆかず、ひたすら「ドウ、ドウ」と押さえるのに必死。それでも押さえ切れずに、12時25分の出発となった。

標高点765mのピークからの尾根にはすばらしいブナの林が続く。それに見とれながら歩いていると、突然「熊！」の声。我々が向かう尾根の前方を左から右へ熊が横切っている。そこまで行くと見ると、熊の足跡が生々しく残っており、それだけではなく、近くの木にはクリのイガがきれいに並べられている。こ

すぎない。その道跡を歩いて尾根をくだり、情緒あるブナの古木の生い茂る林を鑑賞しながら標高点682mまで来ると、後続から駒ヶ岳へ到着したとの連絡が入る。追いつかれるのは時間の問題で、こちらはあたる光景を楽しみながら、ゆっくりと尾根を標高点744mへと向かった。

低いピークを二つ越え、こんな高い尾根の間に、静かな林に囲まれた50×30m程の大きな池が広がっている。無名の池だが「明神池」とでも呼んでおこうか、霧でも出たら夢幻の池に見えるかも知れない。この東の尾根にはブナの木は少なくなってくる。登り下りを二回すると、明神谷道は左の斜面へと消えてしまふ。我々は道跡と離れ、槍の伐採斜面のなかを歩き、次のピークへ向かった。平坦なピークにはベニバナボゴクの子花が一面に咲いている。そんな標高点744mの広い山頂で休憩し、後続の健脚組を待つ。やがて、百里ヶ岳を登って木地山峠で中小屋へ下山した3人を除く、健脚組の7人が追いついて来た。

ここから14名はいっしょになって熊ノ畑へくだる。途中、林道が左へくだった

の山域には、餌を探して多くの熊がウロついてるようだ。

ここからゆるくくだった鞍部に、木地山から池内へ越える「池の河内越」の古い峠があったはずだが、探してみても道の跡などどこにも無い。名前だけが残って楽道と化したのだろう。尾根が北へ向くと、南斜面の様相がまったく変わる。それまでの美しい雑木の林の斜面から杉の植林に変わり、右下にはどこから来たのか尾根と並行に林道が走っている。一方、北側の雑木林の間からは、小浜の平地が見下ろせた。いったんくんだり登った所が二重山稜に近い自然林の尾根。その東の高みが標高点696mだった。

標高点696mから東へ、右杉林左ブナ林が広がる尾根を登る。すぐ間近にあった林道も、大きく南へびる尾根まで来ると、離れてしまった。しばらくは細い雑木の尾根を登るが、前方の木の間に駒ヶ岳の姿を見ると、ガスが北から山頂を覆っているのがわかり、自然に歩きが早くなる。尾根が北へ向くと、杉の木は無くなりブナの林に変わる。駒ヶ岳山頂は、東南へのびる尾根へのった所から、50m程北へ行った所だった。

いたが、そのまま尾根をまっすぐくだり、尾根分岐を右にくだってゆるく登ると池原山。山頂は東西に細長い山頂で、広場の中央に三角点を立てている。点名は「池原」で、標高605.4m。池原山からの下りルートは、ガイドブックには尾根をまっすぐくだるように書いてあるが、地形図を見ると、右の尾根をくだっても、下り着く場所はあまり変わらない。むしろこちらの尾根のほうがゆるいと説めたので、右手の尾根をくだった。

熊ノ畑へは16時35分に入山。山行責任者と木地山峠からくだった人が用意してくれたジュースで喉を潤した後、解散となる。(平成16年9月26日歩く)

△コースタイム▽

中小屋(2時間) 木地山峠(30分) 標高点825m(40分) 標高点765m(40分) 標高点696m(50分) 駒ヶ岳(1時間15分) 標高点744m(20分) 池原山(30分) 熊ノ畑
△地形図▽
2万5千1古原

山頂は広場になっていて、岩の上に三角点と設置されている。駒ヶ岳三角点、点名「等山」で、標高は780.1m。標石は正確に磁北を向いている。山頂からは東方が開けているが、ガスでも何も見えない。この山へは10年前に福井県側の自然公園から単独で登り、猪に追いつけられた思い出があるが、そのときの山頂はササに覆われ、三角点の姿も見えないほどだった。今ではササが消え、昔の面影は全く残っていない。何も見えない真っ白のスクリーンに、目の前に広がる山並を頭の中で描きながら、20分間程この山頂で休憩する。

14時5分、ゆっくりと駒ヶ岳をくだる。以前にササをかき分けてくだった道も、今ではササが消えて姿にくだれる。あたりにはすばらしいブナ林が広がっている。尾根を東南へ向かい、次のピークから自然公園への道と分かれて、明神谷道へくだる。この明神谷道は10年以上前、駒ヶ岳東山麓に自然公園が出来た時に、福井県が明神谷林道から駒ヶ岳への尾根へ遊歩道を作成したものであるが、ダムが出来た話が出てからは、歩く人が無くなったのか、かろうじて道跡が残っているに

琵琶湖に浮かぶ竹生島を訪ねて

松永恵一

船着場から宝厳寺を見る



竹生島

琵琶湖の湖北に浮かぶ周囲2.5kmの竹生島。緑に包まれた全島が花崗岩からなる面積0.14平方kmの小島は、二つの峰を持ち、北側の高い峰は標高194.7m。

『近江國風土記』は島の生成の話を伝える。昔、伊吹山に多々美比古命、姉の比佐志比女命が久惠峯に、姪の淺井比女命が淺井の岡にいた。あるとき伊吹山と淺井の岡が背くらべをし、淺井の岡が一夜のうちに高さを増したので、伊吹の神が怒り、刀剣を抜いて淺井比女命を斬った。頭が琵琶湖に転がり落ちて島となった。竹生島と名付けられた。

神を高く「ツ」と、古語で頭をさす「クブ」。都久夫須麻神社は淺井比女命をまつる。

南東部の船着場付近は琵琶湖でも最も深く、水深120mに達するという。深い緑に包まれ、紺碧の湖面に映える島影は琵琶湖を代表する風景の一つ。「竹生島の沈影」として琵琶湖八景に数えられ、国の史跡名勝に指定されている。

古くから神仏習合の霊場として厚い信仰を集め、船で近づいて行くと神仏に包み込まれていくような厳肅な気持ちが湧いてくる。神奈川縣江ノ島、広島縣厳島神社と共に日本三大弁才天、西国三十三所観音霊場として、多くの参詣者で賑わう。長浜城を居城としていた豊臣秀吉とのかかわりは深く、その威光を示す桃山時代の文化財が数多く残されている。

大正六年(1917)6月、第三高等

学校(東京大学)のポルト部のクルーの1人・小口太郎つくった調子が、今津湖畔の宿で披露された。やがて三高の寮歌となった「琵琶湖周航の歌」。四番は竹生島を歌う。

珊瑚の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に いだかれて

ねむれ乙女子 やすらげく

謡曲・竹生島

延喜の御代、醍醐天皇に仕える朝臣が、竹生島明神に参詣のため琵琶湖畔へ来る。翁が若い女を伴って舟を出しているのを見つけ、早速請い乗船する。頃は弥生の半ば、浦々の景色を賞でながら滑るように湖上を行く。「春なれや花はさながら白雪の。降るか残るか時知らぬ。山は都の富士なれや」と三上山の景観を叙し、「比良の嶺風吹くとても。沖漕ぐ船はよも巻さじ」と太平の春を謳歌する。緑の樹々が影を湖水に映す竹生島が姿を見せる。「魚木に登る氣色あり。月海上に浮かんでは鬼も波を弄るか面白の島の景色や」竹生島に着くと翁は神前へ朝臣を案内する。朝臣の女人禁制の問いを、九生如米の御再誕と弁才天は女神であるとかわし「我は人間にあらず」と若い女は御殿のうちに入り、翁も湖中深く消えた。

弁才天に仕える神職が宝物「弁天さまの数珠」「二股の竹」を見せ、神秘的技「岩とび」を披露し湖水に入る。御殿が鳴動し光輝き音響聞え、弁才天が出現し舞を舞う。ふと気がつくとも湖上が波立ち、龍神が水中から現れ金銀珠玉を揚げ、國土鎮護を約束して龍宮に飛んで入る。

平家物語「竹生嶋篇」

寿永二年(1183)4月、東山、北陸街道を討ち從え都へ攻め上がったとする木曾冠者義仲に対して、総勢十万余騎の義仲討伐軍が都を発した。清盛の甥経正も出陣した。経正は琵琶の名手、末の弟は青葉の笛の教範。

本隊に遅れた経正は、竹生島に戦跡祈願に向かった。新緑の梢にまだ春の名残があり、初音ゆかしいホトトギスが初夏の訪れを鳴き示していた。竹生島大明神の前にひざまずく。居待ち月(十八夜)が湖上に照り渡り、社殿が輝きを増す頃、請われるままに経正は琵琶を弾き始めた。

上弦、石上の秘曲を奏でる。その琵琶の音の美しいこと、この世のものとは思えないほどである。社のうちは葉の音に澄み渡り、経正の袖の上に白い龍が姿を現した。経正はあまりのかたじけなきにちはやふる神に祈りのかなへばやしるくも色のあはれにけり

と詠んだ。神の加護があって、怨敵を平らげ、兇徒を退けん事疑いなしと喜んで、竹生島を後にした。誰もか勝利は間違いなしと思つたが、平家は俱利伽羅谷で大敗を喫した。

老僧の水練

比叡山の僧侶が大勢連れだつて、兎達を連れて竹生島へお参りした。参拝が終わって帰ろうという時になって、兎達が「この島の僧達は水泳に熟達している」と聞いているので、何とかして見たい」と言う。「連者もおもしろい泳ぎぶりを披露できる若者たちは、皆裸と入れ違いに島を留守にしています。まことになんとも残念なことです」との返事。仕方なく島を離れた。

一、三町ほど舟を漕ぎ出したところ、びんとしたあざやかな僧衣の上に、真新しい五本の袈裟を肩にかけた七十歳ぐらゐの老僧が、僧衣の裾を腰の高さにかき上げて水面をすいすいと歩いてくる。不思議の事に目を凝らして見ていると、歩み寄って「若僧の水練をお見せできませんでした。残念この上もありません。お詫びを申しに来ました」と言つて帰った。

「これ以上水練の見物はあるだろうか」と、彼は目を輝かした。くるぶしあたりまでしか水に沈まないような立ち泳ぎをしながら、水面を歩く巧みな泳ぎぶりの話。「古今著聞集」巻第十六に残る。



都久夫須麻神社

コース概観

奥琵琶湖に浮かぶ竹生島は、古代から「神のいる島」「聖なる島」として絶大な信仰を集めてきた。樹木に覆われた島の切り立った崖に、宝蔵寺や都久夫須麻神社がへばりつくように建つ。平経正が琵琶を弾き、謡曲「竹生島」などの音曲、豪華絢爛な桃山文化の神、神秘とロマンを秘める霊験あらたかな竹生島の神々に詣でてみた。

JR長浜駅下車。織田信長は浅井との合戦で戦功著しい羽柴秀吉にこの地を与えた。秀吉は城を築き、長浜と改めた。豊公園の南側、北ビワコホテルグラウンド前の長浜港観光船乗り場まで徒歩15分。竹生島行き高速船に乗る。25分で到着。(飯浦、今津、彦根港からも船が出ている)竹生島は無人島。宮司さん等社寺関係者も売店の人も皆毎日船で通ってくる。

自動発券機で入島券を購入し、「折りの階段」という165段の急な石段を登る。登りつめた高台に竹生島最大の仏堂弁天堂が建つ。宝蔵寺本尊の大辨才天は秘仏。(60年に一回開帳、次回の開帳は西暦2037年になる)明治元年(1868)の「神仏分離令」は、本堂の建物を神社に引き渡させた。仮安置されている大辨才天を愛した一信者が本堂を寄進し、昭和十七年に落成した。

弁才天は七福神の一人。人の穢れを払い「富貴・名譽・福寿」「愛嬌縁結びの徳」「子孫」を恵む神。また「音楽・智恵・財物」の神として吉祥天とともに広く信仰された女神。弁才天はもともとインド古代信仰の水を司る神「サラスヴァティー神」。インドでは「水」には汚れ

を洗い流す力があるところから、人々の清き心を守る神として信仰を集め、修行者の守り神として祭られるようになった。聖武天皇の夢枕に立った天照大神は、「江州の湖中に小島がある。その島は弁才天の聖地であるから、寺院を建立せよ。すれば、国家泰平、五穀豊穰、万民豊楽となるであろう」と告げた。僧行基を遣わし、堂塔を間基させた。行基は大辨才天像を彫刻し、本尊として本堂に安置。翌年には観音堂を建立し、千手観音像を安置した。

重要文化財に指定された石塔がある。高さ24.7m。初重塔身には四仏が彫られている。滋賀郡の山中から採れる小松石でつくられた五層の仏塔は、鎌倉中期の石塔の特徴を示している。

永禄元年(1558)全島が火災に遭う。慶長七年(1602)、豊臣秀頼は太閤の遺命により片桐且元を普請奉行とし、秀吉を祀る豊国廟の建物を京都より移築し、島内の伽藍を復興した。片桐且元お手植えといわれる樹齢約四百年の見事なモチノキが、平成十二年に再建された三重塔の横に植えられている。三重塔は、古来の工法に基づいて建築されていて、

四本柱に三十二体の天部の神々を描き、四方の壁には真言宗の八人の高祖を配している。各柱や長押にはうんげん彩色や牡丹唐草紋様が描かれている。

本堂より石段を少し降りると、国宝に指定されている桃山様式の唐門が見えて来る。京都の豊国廟の正門に使用されていた極楽門を移築したもので、豪華な彫刻で飾られている。唐門に続いて千手観世音菩薩を納めたお御堂がある。西国三十三所観音霊場第三十番の礼所で、重要文化財に指定されている。



月も日も波間に浮かぶ竹生島

船に室をつむ心地して
観音堂から都久夫須麻神社に続く渡船・舟廊下は、朝鮮出兵の折に秀吉のご庇顧としてつくられた日本丸の廃材を利用してつくったことから、その名がついている。両側が堅連子窓、天井は疎重木木調裏、急な斜面にかけられたため足元は懸造となっている。重要文化財に指定されている。

都久夫須麻神社の本殿は国宝に指定されている。桃山城の勧使館を移築したもので、天井画は狩野永徳、光信筆。横絵などを始め、高台寺詩絵の施された柱・長押など建物全てが極彩色に飾られ、要所には精巧な金の金具が燦然と輝き、豪華絢爛な桃山文化の粋を見ることが出来る。

市杵島比売命(弁財天)
宇賀福神
浅井比売命(摩訶土神)
竹生島龍神

四柱の神様がお祀りされている。
琵琶湖が一望できる拜殿には、竜神が祀られている。しゃもじは、宮島の飯島神社が名高いが、ここでも願い事を記し

多くのしゃもじが奉納されている。竹生島一の絶景を誇る竜神拝所より竜神様に秘めたるお願い事を成就するようにと、土器投げを楽しむことができる。二枚の瓦にそれぞれ名前、祈願を書いて投げける。昔、祭りの後に食べ物などを土器に盛り、神々に折りに供養したのが始まりという。湖面に突き出た鳥居に向かって投げた。鳥居の下はかわらけの破片で埋め尽くされている。

秀吉が「日暮れ御殿」と呼んで一日を過ごしたという拝殿で、湖面を眺めていると、ちょっぴり秀吉の気持ちかわかるような気がした。

- ▲コースタイム
- 長浜駅(15分)長浜港観光船乗り場(高速船25分)竹生島
- ▲地形図
- 2万5千:竹生島
- ▲費用
- 長浜港<竹生島(往復)
- 大人2980円 小人1500円
- (問い合わせ先)
- 琵琶湖汽船予約センター
- 077(524)5000
- 宝蔵寺
- 0749(63)4410
- 竹生島神社
- 0749(72)2073

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑧

「アマゴセ山」

西尾 寿一

5万の地形図の今庄には個性的な山が多くみられる。まず敦賀の蝶螺岳・西方ヶ岳・鉢伏山・ホノケ山などがあるが、忘れてならないのは上谷山でこれが一番高く、残雪期に登る最遅の山といえる。そのなかで、とびきりユニークな「アマゴセ山」が敦賀湾に面した東岸を渡に洗わせて屹立している。

山名が仮名なのも奇妙で調査の折に漢字化に失敗したのか、隣のホノケ山同様の扱いで謎が深まる。

北陸の山のことなら、上杉喜寿氏の「山々のルーツ」である。それには「アマゴゼン」(尼御前)の略だろうとする見解がある。つまり尼御前なら他にも類形があるので別段めずらしいものではない。若狭には尼が多かった。立山の伝説にも登場する「トウロ」という勇敢な尼は別として、全国各地へ若狭の尼が旅に出た

ことは十分考えられることだ。若狭の東にも尼にちなむ「尼来峠」があるので、山名調査はこれで決まりになるころであった。

ところが大和の地名学者、池田末則氏は、アマゴセは天ヶ瀬で元は「S字状に曲がった飛鳥川の地形から生まれた」と言われる。そして有名な甘樫丘は神奈備の山と言われてきたが、実は川の曲がった地形によるものとされる。つまり「アマガシ」はアマガセで曲瀬であるらしい。さらにアマガセからアマゴセに転化するのには簡単なのだ。大和の小字ではアマガセが七例、アマゴセが六例あるという。

宇治の天ヶ瀬ダム付近には江戸期の地名として「甘樫浜」があつて、船着場と船問屋があつたらしい。甘樫とは一見植物名のように思われるが、アマガシという種の樫の木はないので他の原因によるものと考えるのが自然だ。

アマゴセ曲瀬は相当強力で説得力のある説に思える。

それでは北陸のアマゴセ山は飛鳥の曲瀬や宇治の天ヶ瀬(曲瀬)と同一の地形的要素があるのか調べてみるなくてはならない。

印象をもつが、これも他に例があるので平凡である。

小生が考えるのは、やはり尼は外せないものとして「尼越」をとりたいたのである。

先に「尼来峠」を出したが、若狭の尼が全国に旅立つには必ず峠越えをしなければならぬ。立山の伝説に登場する「トウロ」という尼もおそらくアマゴセ山を越えたに違いない。船で大谷あたりに着き、アマゴセ山から大良(おそろく平であろ)から北陸路へ抜けたものと思われる。尼が越える峠は大通りよりも裏のわびしい道が似合っている。アマゴセ山はいかにもそのような装いをもつ道であつただろう。

なおアマゴセを「尼賢女」とする説が考えられる。現に四国の徳島の南部に「後世山」があり、伝承では目の不自由な行者が居たといわれている。

四国は全国から行者が訪れる聖地であり、八十八ヶ所をたどる人々が大勢やってきた。今では差別用語として使用のはかれる「賢峠」(複数ある)の名も残っている。このことから見て賢女山の説もいくらかの可能性は残されている。

アマゴセ山は若狭湾に面して急崖をもつて対している飯盛形の山である。付近に顕著な川はないが、南麓の大良からこの山を半周するように河野川が幾多の折曲線を描いて北に回り込み河野から海に注いでいる。これを曲瀬であると見れば見れなくもない状況だ。

しかし、川の曲折は他にもたくさんあり、ここの曲瀬が特に顕著でめずらしいものとは言えないから苦しくなってしまう。

飛鳥の曲瀬が天ヶ瀬になったのは地名の芳(好)字化のせいであるらしい。

池田氏はさらに「曲瀬は曲ヶ瀬で、ワングセとなり、各地に輪貸伝説(輪ヶ瀬伝説)が起つた。なお、(輪廻り)はコマカク(小曲)で、小曲から(小和田)に転じた例もある。いずれも(曲)の用字を避けた」とおどろくべき展開をみせる。

地名の好字化とは、声・折・曲などを表現する際に「悪」に通ずる部分や印象の良くない字を良い方向の字に改めることなので、曲の字も実際の地形からくる率直なものであるにもかかわらず、これを嫌ったのだろう。それは、この時代に信じられていた「言霊」によるものであつた。

福井県は若狭という近畿に直結した嶺南地方という特徴な土地と合作となったが、海流と同じコースで文化の流入が幾重にも断わることなく受け入れる立場であつた。

近江からは北国街道をたどるのが常識とすると、若狭からだたアマゴセ越えか海路しかない。その意味で最も近いのは「尼越」であろうと考えるのが無難なように思える。

こんな小さな山に興味を示す人もいないが、こんな山だからこそ、古い日本文化が残されているのだから極めて貴重な山名として受け取りたいのである。

最近人気の槍ヶ岳や鍋岳といった名称は、山名研究の立場からは、あまり興味湧かない山名ということになる。

た。悪い意味をもつ言葉と同類、それに通ずる言葉を何度も口上に乗せているうちに自然に悪い方向に引き寄せられているというもので、これから逃れるためには好字・佳字に変えてしまうことが必要だつた。

その典形が声原を葦(吉)原とし、芦田を吉田としたことが知られる。

曲瀬が天ヶ瀬に変えられたのは曲の字が人の生活上で「凶」に当たると考えたからだろう。今日でも名前の一字一句にこだわるのもそうした信仰の残映と言つてよいだろう。

ところでアマゴセ山の件である。この山の付近には大きい村はなく、外部からこの山の存在を知る人は少ない。海を通る船乗りか若狭から北陸へ旅する人かどちからかである。

そうした環境にある山に対して、曲瀬説を適用させるには相当の無理があると

思う。この山名を考えた人々ほどのあたりに住むのかを考えると、おそらくそう遠くない敦賀と関係する一帯とみるのが自然だとすれば、曲瀬という地形説よりも、先述の「尼御前」説のほうが近いような

特選コースガイド①

湖北 龍南

(重山シリーズ35 高島市・今津・朽木)

静かなブナ林の尾根

行者山から駒ヶ岳へ

一般コース(★★★)

長宗 清司

JR近江今津駅から、小浜行ききのJRバスに乗り。若狭街道(国道367号線)と国道367号線が交差する保坂バス停で下車。西へ、国道367号線で保坂集落を南下して椋川道を右折する。800mほど先左側に椋川サンテラス別荘地への入口があり、ここがスタート地点となる。登山口は、この別荘地最初の建物北脇からいきなりアカマツ林に入る(とくに標識なし)。二つの鉄塔下を越えて378mに到着。ここから南西方向に416mを通過して副主尾根(今津町・朽木村境界)に到着するまでは、ゆるやかな散歩道といってよいほど快適で起伏の少ないコースである。左側はスギの植林帯が続き、右側はほと

んど自然のままだった。このあたり、季節によって足元にイワカガミが咲き、夏は、ツクツクボウシの鳴き声がうるさいほどだ。副主尾根に出て、風に出合う。蒸し暑い日はここでひと息入れられる。ミズナラ・コナラ、それにリョウブの木が目立つ尾根は少しづつ勾配を増して厳しくなるが、下草も無い落ち葉の道で心地よい。やがて行者山への分岐点に出る。三角点標石へは少しの距離を往復する。少し先を急いで536、532を通過し、横谷峠へいったんくだる。道路整備のために切り通しになった峠は、10mくらい谷を這い登る格好で、再び尾根に取り付き、693の県境主尾根まで急登する。さらに、県境尾根を西へ進むあたりはシダが生い茂っていて意外に歩きやすい。登り着いた744は植林帯のピークだった。ここから少しくだると、あたり一面静寂の世界。凹部の池からは二重山嶺が一つになり、小さな起伏を繰り返すなか、ブナの林が続く遊歩道。右へくだる明神谷への道標から北上する。少し平らな所

登山口の椋川サンテラス別荘地



に出て、登りつめた所に苔むした露岩があり、その上に駒ヶ岳3等三角点の標石が埋められている。帰路は、少しバックして道を左へとくだる。西側は切り払われて、はるから向こうには琵琶湖の北部、長浜あたりから伊吹山と金巻岳へと山並が連なっている。その奥にちよこつと頭を見せるのは、英濃の巖壁松山か。小谷山と山本山の手前



には箱館山が見え、建物が光っている。琵琶湖の北岸は三伏に見えた。少しくだつた所からはササの三十三間山と横谷山の尾根。その前には武神嶽・三重嶽も望め、ちよこつと若狭湾が見えた。尾根上のキャンプ場は割愛し、旧河内集落への林

道(茶谷郷)をくだる。建物もない廃村はうら寂しい。明神谷と河内谷の分岐点にあった茶屋跡を通過。以前はダム工事からむ造成工事でダンブも多かったが今は通らない。川筋をくだって、熊川壱に出る。バス停は、宿場通りの中間あたりを北に抜けた国道にある。

(平成11年11月3日歩く)
(平成16年8月22日歩く)



駒ヶ岳頂上付近から三十三間山を見る

●バス停から登山口まで国道を1時間も歩くのはどうかと思われる方は、今津駅からタクシーがある。

●車一台の場合は、横谷峠から北へ椋川集落へくだる。

▲コースタイム▼

JR湖西線近江今津駅(バス20分) 保坂バス停(10分) 保坂集落(45分) 椋川道(15分) 椋川サンテラス別荘地入口(10分) 登山口(15分) 378(1時間) 副主尾根(15分) 行者山分岐点(40分) 横谷峠(30分) 693(15分) 744(1時間) 駒ヶ岳(40分) 旧河内集落(20分) 明神谷河内谷分岐点(40分) 熊川宿(10分) バス停(バス28分) 近江今津駅(地形図)

2万5千 熊川・古屋・雙庭野(問い合わせ先)

高島市役所今津支局

0740 (22) 2551

西日本JRバス(今津西)

0740 (22) 2136

近江タクシー(今津)

0740 (22) 0106

旗信号を中継した山

金比羅山(のべぶり岩)と小牧山

初級コース(★)

柴田 昭彦

筆者は、本誌に「旗振り通信の研究」を連載し、HP「旗振り通信ものがたり」で情報発信を行うと共に、旗振り場情報の提供を呼びかけてきたが、情報提供はほとんど無いというのが実情であった。

拙著「旗振り山」(ナカニシヤ出版)の発行によって、新情報が集まることを期待していたところ、この本が書店に並ぶ直前、平成18年5月3日に、岐阜県各務原市の面手勝人氏からメールが届き、各務原市と関市の間に旗振りが行われたという伝承があり、現地に看板があるということを知らされた。「岐阜県中世城郭資料第2集」に記載があるという。

『岐阜県中世城郭跡総合調査報告書 第2集(岐阜地区・美濃地区)』(岐阜県教育委員会、2003年)を調べてみると、関市追間の「追間城跡」の解説には、次のように記載されていた(149頁)。

「追間山と谷を挟んで相対する兩の尾根には、『のべぶり岩』と言う岩があり、尾張から美濃へ通信のために旗を振ったという伝承がある。」

この報告書を、岐阜県歴史資料保存協会(岐阜県歴史資料館内)から購入したのは、平成17年2月で、稲葉山城の資料に相場山が載っていないことを確認しただけで、通覧しないままになっていたのは迂闊であった。

「のべぶり岩」をキーワードに、インターネット検索をすると、複数のサイトに、「金比羅山」の「のべぶり岩」の脇に看板があって、尾張の小牧山からの旗信号を美濃、飛騨地方へ中継していた岩であると紹介されていた。写真も掲載されている。旧国名の記載があることから、江戸時代のことと思われる。

これだけの情報がインターネットにあるのに、なぜ探せなかったのだろうか。「旗信号 米相場」というキーワード検

のべぶり岩



索を試みたが、のべぶり岩の情報は発見できなかった。この情報は、面手さんからの連絡が無ければ、筆者には確認不可能なのであった。

新情報を得た翌日(5月4日)、金比羅山と小牧山の現地調査に出かけてみた。

JR京都駅から、米原駅・岐阜駅で乗り継ぐと、高山本線の鶴沼駅まで片道2時間半ぐらいで行ける(運賃2210円)。

JR鶴沼駅と名鉄新鶴沼駅は徒歩3分で乗り換えでき、新鶴沼駅前からバスもあるが本数が少なく、追間不動までは入らないので、鶴沼駅前からタクシーを利用することにした。

運転手さんは気を利かしたのか、健脚の道の登山口も案内してくれたが、追間不動まで行ってもらった降りた(所要15

分、1730円)。ここには大駐車場があり、一帯は「ぶどうの森」と呼ばれている。この案内を見て、「ぶどうの森」はどこにあるのかと尋ねる人が多いそうである。

地元では「不動の森」と表記すると宗教的になるので、わざわざ「ひらがな書き」にしているという。それにしても、

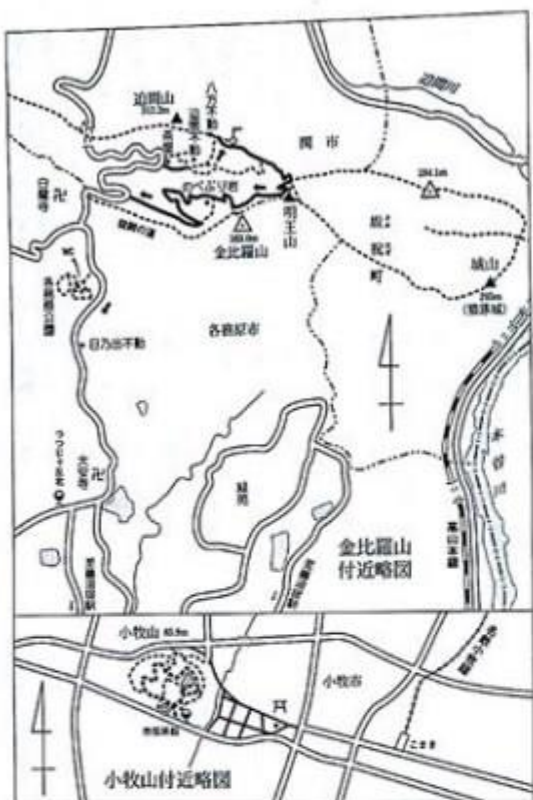
『三省堂日本山名事典』(2004年)の「はざまやま 追間山」の解説には「ぶどうの森」とあり、山名の読み方(はざまやま)が正しい」といい、不注意なミスが目立つのは残念である。

極楽茶屋の前から馬場をくぐって参道を行く。右手の階段を上ると、車道と合流して、追間不動に着く。信者さんが、登山袋で道に迷っているように見えたらしい私に案内の言葉をかけてきた。右手に登山口の表示があるが、そのまま奥に進む。滝行場があり、荘厳な信仰の場になっている。その少し手前の左側に八方不動(興ノ院)への登山口があった。

呼吸を整えながら階段をゆっくり登っていると、降りてきた人が「仕事で登っている人かと思った」と声をかけてきた。信仰の場らしく、きさくな人が多いなあと感じた。

尾根に出ると、常夜灯があり、正面に関市方面の展望が開け、左に行くと八方不動があり、向こう側にこんもりした追間山が見える。そこは追間城跡で、『調査報告書 第2集』によれば、標高は312・2mである。

三段の曲輪を重ねるが、明瞭な虎口遺



構は見られず、比較的古いタイプの城跡という。道は山腹を通り、山頂に通じていない。やぶ漕ぎして行っても追間山頂に展望は無いのでバスして、明王山・金比羅山の方へ向かう。

東へ尾根道を進む。前方の左の道の先に紅白のテレビ塔を見て、右のコンクリート道に行く。やがてアスファルト舗装になり、坂を上ると左手に坂祝町方面、正面に猿啄城(城山)への案内表示が出てくる。猿啄城は織田信長が美濃攻略の拠点とした城という。ここはバスして、すぐ先の「展望台から猿啄城」の案内表示に従って、左の急な山道を上る。再び車道と出合うが、そのまま上がると展望台(明王山見晴台)に着く。

見晴台では大展望が開けていて、爽快である。先客の人々が休んでいて、パノラマ展望の案内板も設置されている。休憩に最適な場所であろう。ここは関市・坂祝町・各務原市の境界である。見晴台を横切ると、左側に、「ニューローク10972km」「ソドニー7929km」の道標が立っている。建物の横を通り、右手に降りて林道を歩く。

右手に防火用水のドラム缶が見え、左

当たらないが、米相場との関連から、筆者は「延べ振り」の意味と考えている。米の延べ取引とは、概合米取引(先物取引)のことである。

岩の上からは、関市・各務原市の両側を展望でき、南側に小牧山もかすかに見える。旗信号通信には最適な地点である。江戸時代に行われた旗通信に思いを馳せながら、ベンチで昼食をとった。このこの標高は地形図の等高線を読むと335メートルくらいと思われる。

林道をそのままたどり、東屋を経てくだるのもよいが、岩の下側の道をたどるとそのまま谷道でくだることができ、再び林道に出合う。道標に「花木みち展望台方面」とあって、ヤブツバキが多かったことに思い当たった。

林道をくだり、登山口に着いた。左へ車道に出て、突き当たりで左折して東海自然歩道に入り、各務原公園のトイレを利用し、日乃出不動に向かう。運良く、ふれあいバスがあれば利用するとよい。無ければ、つつじヶ丘北バス停(11:20時間一本)から岐阜バスで名鉄新鶴沼駅に出る(所要10分、230円)。時間が合わなければ、バス停から名鉄各務原線

手に「こんびら山 健脚の道」の道標がある。この道に入り、途中で左手の山道を上る。すぐ左側に「各務原市へ」と示した道案内もあり、ここをくだる人達ともすれ違った。そのまま登ると金比羅神社の祠があり、幟もある。そこには「夕暮山 金刀比羅宮」とあった。

祠の少し先の小平地に2等三角点があり、ここが金比羅山の山頂(標高383.0m)である。残念ながら雑木のなかで展望は無い。先客が2名いる。途中で3名がやってきたが、見晴らしが無いためか、そそくさと去っていった。ここは各務原市鶴沼のエリアである。

林道に戻り、ヘアピンカーブを抜けると、正面の鞍部の左手に、今回の取材目的の「のべり岩」が現れた。高さ3層ほどの岩塊で、手前に横幅1層弱の案内看板があって、「のべり岩」この岩は、尾張の小笠山よりの旗信号を中継して美濃・飛騨方面に伝達した所です」とあった(岩は旗の書き誤り)。

関市教育委員会文化課によれば、この看板は岐阜県が「不動の意」を庇備(昭和54・56年)した時に設置したもので、伝承内容は、地元で口承により伝わって

る。船沼密駅まで歩いて25分くらいである。

名鉄大山線で大山駅に出て、名鉄小牧線に乗り換え、小牧駅で降りる(新鶴沼駅から小牧駅まで所要約30分、340円)。小牧駅から徒歩25分、あるいは、こまき巡回バスまたは名鉄バスの「市役所前」で降りて、山頂の小牧市歴史館(入場料100円)に入り、小牧城天守閣からのパノラマ展望を楽しむ。北側には金比羅山を含む各務原アルプス連峰の山々が連なり、小牧山からのべり岩への通信が立地上、可能であったことを裏付ける。ただし、小牧市教育委員会文化振興課文化財係によれば、「小牧山において、旗信号を中継したという伝承・記録等は一切ありません」と言う。江戸時代に徳川家康ゆかりの地として幕府に禁足地とされて手厚い保護を受けてきた小牧山では、庶民の入山が禁じられたはずで、旗振りが許可されたかどうかを含めて不明の点も残されている。

金比羅山のガイドはインターネットに良いものがいくつもあるが、ガイドブックは少ないようである。吉川孝一編著「こんなに楽しい岐阜の山旅1000こ

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2種 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0071 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

いるだけで、文献史料には残されていないという。

看板の地点は関市追間に属しており、関市のホームページ(関エリアの観光・文化)にも「のべり岩」が紹介されている。

のべり岩には、看板の右手からよじ登ることもできるが、実は、看板の左手、岩の下側に道があったり簡単に上に出られる。上にはベンチもある。一見、険しい岩なので、この道に気づかない人もいるようだ。

「のべり」の語源によれた資料は見

ス 美濃「下」(福栄社、2003年)にガイドがあるが、「のべり岩」は紹介されていない。

小牧山については、ファミリーハイキングコースが整備されていて、ガイドも不要なくらいだが、あつた勤労者山岳会編「新・こんなに楽しい愛知の1300山」(風媒社、2003年)が参考になるだろう。(平成18年5月4日歩く)

△コースタイム▽

- 極楽茶屋(10分) 追間不動の行場(15分)
- 八方不動(20分) 明王山見晴台(15分)
- 金比羅山(10分) のべり岩(20分) 登山口(20分) 各務原公園(35分) つつじヶ丘北バス停
- 名鉄小牧駅(25分) 市役所前(15分) 小牧山

△地形図▽
2万5千1:1 美濃関・犬山・小牧

奥美濃の入門の山

飯盛山から外津汲山

一般コース(★★)

金谷 昭

揖斐川に沿って国道303号線を北上し、旧久瀬村乙原を過ぎると対岸に、そう高くはないお椀を伏せたような可愛いピークの飯盛山が望める。

揖斐川上流の名にしよう奥美濃の高山に閉まれて見落とされがちである。以前は中腹に石灰石鉱山があったが、操業が中止され、その後は一部のやぶ山好きにしか登られなかった。

近年、地元久瀬村によって、飯盛山山腹の巨大木「月の株」を始めとする豊かな自然林が「天狗の森公園」として開発された。林道がのび、さらに頂上まで遊歩道が付けられ、奥美濃の入門の山として一般登山者にも容易に登れるように

なった。

飯盛山から南に続く外津汲山も併せて紹介する。

旧久瀬村役場のある東津汲バス停より揖斐川を渡って西津汲集落に入る。突き当たりを右に折れて進む、旅館の角を西に入ると三差路に突き当たる。ここを右に集落の中をゆるやかに登る。集落を過ぎる頃に墓地と「月の株天狗大明神」の小さな社を見る。

山にかかると石燈籠のある四つ辻に出る。ここで左をとるとアンテナや簡易水道の裏側を行く舗装林道になるので、右に登って行くと、再び林道三差路に出る。

右からの林道は、役場よりさらに国道を北上してトンネルを抜けた所の名倉大橋手前から日坂に向かう道路から来たもので、マイカーならこの道からのほうが走りやすい。狭い林道入口には地藏尊と西津汲林道の表示板がある。

林道はすぐ砂利道となって飯盛山の北尾根の東山腹を歩いて南へ天狗公園へと向かっている。林道は雨で洗われて岩盤が出ていて、車高のある車でなければ走行はやや困難である。

クラ等の巨木があり、自然林を前にして展望は良い。振り返ると天狗山と小津植現山が眼前に大きく立ちほだかる。少し行くと(頂上迄1220m・駐車場迄577m)の白杭が出てきてゆるやかに登って行く。

さらに行くと案内板に危険注意とあった三田倉谷側の大きなガケ(嶺山ガケ)が出てくる。北側のみならず西側の展望も良くなり、谷底に三田倉谷のアマゴの里への道路が望める。コンクリート製の擬似木手摺が設けられていて特に問題なく通過する。

ここを越えた所に(頂上迄860m・駐車場迄630m)の白杭が出て来てゆるやかな登りもいったん平坦となり、再び登りとなって分岐する。左の道は「月の株」の前になる。

「嶺山の天狗の木」とも呼ばれ、久瀬村指定天然記念物である、高さ30m以上周囲6・



飯盛山・外津汲山村近略図

やがて三差路となり、直進すれば150分程度で石灰石鉱山のトンネル入口で行き止まりとなっている。公園への林道が無かった頃はトンネル手前のコンクリート擁壁の端からやぶを潜いで登ったが、当時の踏み跡はすっかり消えている。

三差路を右に折れ、北に向かって登って行く。飯盛山の北尾根を左に抱きながら越え、三田倉谷側の道を登って行くと、



乙原より飯盛山

12材の樹齢数百年の樺の巨木がある。平地のすんなりした樺と違って、風雪に耐えたごつごつしたもので、この木に月がかかると一瞬木が浮かんで見えるところから「月の株」と呼ばれたという。村の神木として飯の西津汲には、先ほど集落で見た「月の株天狗大明神」がある。

分岐した道は(頂上迄550m・駐車場迄950m)の白杭の少し先で合流し、傾斜は急となる。石段となってジグザグを切りながら登って行く。ミズナラ・シデ・ヤマボウシ等の巨木と石灰カルストの苦むした岩が出てくると、西に廻り込んで球形の頂上台地に達し、その中央広場が頂上である。

広場には三角点が無く、(742.4m)の白杭以外に山名板も無い静かな頂上で、久瀬村中学校の記念植樹が点在している。展望はあまりよくなく、東南方面が開かれて左に瀧尾平野、右にムネ山が望める程度である。

この飯盛山までは一般向きであるが、これから行く外津汲山は中級向きとなる。木の間越しに反射板のある頂上がすぐそこに見えるが、その間の吊尾根は大きく上下し、一部にはやぶが濃きまたやせ尾根

稜線近くで林道は終わる。

林道終点には車5〜6台の駐車スペースがあり、旧久瀬村の手による「天狗の森公園」の説明案内板が設置されている。その前から階段を登り稜線に出ると、左に「天狗木の公園」がある。右へは幅広い山頂への遊歩道が登っている。

遊歩道はコンクリート製の擬似木の手摺と階段が設けられた立派なものだ。登山者が少ないのか生え込みが激しい。時々村で刈り払っているらしい。

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/日6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/日6判336頁/定価1631円 一等三角点100座の紀行・案内文集
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/日6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
日6判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の随想
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/橋山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第23巻 多摩100山** 守屋龍男 著
日6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 山岳巡礼** 佐藤光雄 著
日6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 第25巻 東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・ペンクラブ 著
A5判232頁/定価1680円 武蔵野/多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 花と山** エーデルワイス・クラブ 編
A5判219頁/定価1680円 山と花を愛する100人が撮った100山
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
日6判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと蝶々雑記をまとめた、珠玉の随想

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話/Fax 03-3915-8110 振替00130-9-146915
●送料は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担



飯盛山と外津波山の鞍部(シロモジの株立ちの群落)

があり、かすかな踏み跡をたどることになる。
頂上から少し戻った地点から南に向かって行くが、最初は明確な尾根状ではなく、雑木林の山腹を礎石を頼りに急斜面を駆け落ちるようにくだる。尾根にのれば踏み跡と赤テープが出てくる。ここは注意箇所である。
やがて踏み跡はやせ尾根の右(三田倉

谷側)すぐ下の斜面をくだって行くが、下生えも少なく歩きやすい。そのまま谷に下りすぎないように常に稜線を意識して行くことが肝要である。
下り立った最低鞍部から外津波山にかけては下生えの無い幅の広い斜面を行く。シロモジの株立ちの群落が出現し、春の新緑、秋の紅葉時にはすばらしい景色を演出してくれるだろう。最低鞍部から外津波山への登り返しは飯盛山からの下り斜面ほど急ではなく、シロモジの株立ちの間の数かな踏み跡をぬって行く。頂上近くになって反射板が二ヶ所出てくる。いずれも左側のササやぶの踏み跡を行くと、ゆるやかな林の台地の頂上に達する。
頂上は三等三角点(点名 西津波)を中心にした明るい小広場で山名板は一枚しかない。訪れる者も少なく静寂そのものである。展望は東面が開かれて、頂上に特徴のある二重山稜の花房山を中心に、左に小津権現山右に雷倉・タンボが望めるのみである。頂上より少し西に行くくと、三田倉谷からの旧袖道が登って来ている所があり、南面が開けて濃尾平野、ムネ山が望め、その右肩に伊吹山が顔を

出している。
下山は往路を忠実にたどればよい。飯盛山への登り返しのやせ尾根の急登は苦しいが、ともかく上を目指せばよい。
飯盛山からの下山は、季節によってカタリ・ヤマブキ・ドウダンツツジ等の山野草が楽しめる。
(平成17年10月16日歩く)

Aコースタイム
東津波バス停(1時間10分) 林道終点「天狗の森公園」入口(30分) 月の株(30分) 飯盛山(1時間) 外津波山(1時間) 飯盛山(45分) 林道終点(1時間) 東津波バス停
△地形図V2万5千II谷汲・横山
*飯盛山往復は一般向き、道標あり。
外津波山往復は中級向き、テープあり。
(問い合わせ先)
指斐川町久瀬総合支庁会
☎0585(52)2111
名阪近鉄バス ☎0585(22)1207

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄
▽奈良交通所長お薦めハイキング「原始の大樹海・大台ヶ原(大)」9月9日(休)雨天中止(集合)大和上市駅8時45分〜9時15分(コース)大和上市駅(バス)大台ヶ原バス停(ナゴヤ谷)屋敷台(ワサビ谷)大台ヶ原バス停(バス)大和上市駅(約8、健脚回)参加自由・参加費300円(バス代往復4000円は各自払い、吉野営業所0747(52)4101)
▽駅長お薦めフリーハイキング「河内から嵯峨を越えて大和へ」9月15日(休)雨天大台ヶ原(集合)枚岡駅9時30分〜11時(コース)枚岡駅(芭蕉句碑)豊浦橋(笠塔婆(弘法の水)暗峠)石仏寺(南生駒駅(約7、健脚回)係員は同行しません)参加自由・無料(拝観料等は別途、大和山駅0729(81)2144、2144)
▽近鉄万歩ハイキング「吉野・宮津を訪ねて」9月12日(休)雨天中止(集合)吉野駅9時30分〜10時(コース)吉野駅(金峯山寺)藤室(稚児林)地蔵(坂本神社)吉野歴史資料館(宮津バス停(バス)大和上市駅(約8、一般回)参加自由・無料(バス代360円は各自払い、拝観料等は別途)、近鉄大阪イベント係06(6775)3566)
▽陸奥ふれあいハイキング「室生の里の彼岸花と塔をたずねて」9月16日(休)雨天中止(集合)橿原駅9時30分〜10時(コース)橿原駅(バス)高井バス停(仏隆寺)室生寺(門森峠)大野寺(室生口)大野駅(約13、健脚回)参加自由・無料(バス代300円は各自払い、拝観料等は別途)、近鉄大阪イベント係06(6775)3566)
▽近鉄・南海・朝日合同企画「ダイヤモンドトレイル漫歩、中葛城山から紀見峠へ」9月17日(休)雨天中止(集合)12月10日(休)に延期(集合)河内長野駅8時30分〜10時(コース)河内長野駅(バス)金剛山ロープウェイ前バス停(受付)伏見峠(中葛城山)久留野峠(高谷山)千早峠(神福山)行者杉峠(杉尾峠)タンポ山(西ノ行者山)山ノ神(紀見峠)南海紀見峠駅(約16、健脚回)参加自由・無料(バス代520円は各自払い、拝観料等は別途)、南海テレホンセンター106(66643)1005)
▽近鉄万歩ハイキング「山の辺の道から伊勢本街道を歩く」9月24日(休)雨天中止(集合)近鉄大津駅9時30分〜10時(コース)大津駅(石上神宮)夜都伎神社(大津市トレイセンター)大津市黒塚古墳展示館(大和神社)天理駅(約13、一般回)参加自由・無料

(拝観料等は別途)、近鉄大阪イベント係06(6775)3566
*10月の行事はパンフを)ご覧ください。

京阪電車

▽ソポニチファミリアハイク「アソガボ・花背峠」9月10日(休)小雨決行(集合)叡電貴船口駅9時30分〜10時(コース)貴船口駅(貴船神社)奥貴船橋(アソガボ)旧花背峠(扶桑橋)嵯峨温泉(叡電藤原駅(約12、中級回)参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(6947)3702)
▽ソポニチファミリアハイク「石仏の道からくろんど園地」10月15日(休)小雨決行(集合)郡津駅9時30分〜10時(コース)郡津駅(倉治(移道)一機物神社)石仏の道(おおさか環状自然歩道)交野野外活動センター(くろんど園地(ハッ橋)こたの路)みはらしの路(すいれん池)一月輪の滝(私市駅前公園(約12、中級回)参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(6947)3702)

9月2日(出)・9日(出)小雨決行(集合)京阪出町柳駅コンコース8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)足尾谷橋(足尾谷林道終点)皆子山(大岩)寺谷橋(平(バス)出町柳駅(約8、健脚回)参加定員各200名(申込制)1ヶ月前から(申込先)京都バス運輸部営業課075(871)752112
▽三角点トレック「朽木駒ヶ巻」10月7日(出)・14日(出)小雨決行(集合)京阪出町柳駅コンコース8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)木地山前(焼尾谷)東谷(駒ヶ巻(河内越)駒ヶ岳(西谷)焼尾谷(木地山前(バス)出町柳駅(約10、健脚回)参加定員各200名(申込制)1ヶ月前から(無料(バス代別途)(申込先)京都バス運輸部営業課075(871)752112)
江若交通
▽こらじやくMtハイキング「秋のサケヒ峠越え・正産降」9月28日(休)雨天中止(集合)JR安曇川駅9時5分(コース)安曇川駅(バス)上杉登山口(布の滝分岐)駒もち谷(サケヒ峠)正産降

サケヒ峠(山梨谷)南原原(バス)聖田駅(約7、5、健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費4000円(バス代含む)(申込先)江若交通本社077(573)2701
▽こらじやくMtハイキング「秋の近江坂・大御影山」10月12日(休)雨天中止(集合)JR安曇川駅9時5分(コース)安曇川駅(バス)登山口(流谷山分岐)大御影山(近江坂)林道出合(バス)近江津駅(約9、5、健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費4000円(バス代含む)(申込先)江若交通本社077(573)2701
▽こらじやくMtハイキング「餅街道を歩く紅葉の首里ヶ岳」10月26日(休)雨天中止(集合)JR安曇川駅9時5分(コース)安曇川駅(バス)小入谷峠(百早新道)シテケ峠(百早谷)岳(根来鞍峠)焼尾地蔵(小入谷(バス)安曇川駅(約10、5、健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費4000円(バス代含む)(申込先)江若交通本社077(573)2701

叡山電車

▽叡電ハイク「夜泣峠・向山・賀茂川堤出町柳街道起点」9月20日(休)・23日(休)小雨決行(集合)二ノ瀬駅9時30分〜10時(コース)二ノ瀬駅(夜泣峠)向山(高橋(賀茂川堤)一山町商店街)餅街道起点(約11、一般回)参加自由・無料、叡山電車営業課075(702)8111
▽叡電フラウウオーク「箕裏ヶ岳・静原」10月11日(休)・14日(休)小雨決行(集合)岩倉駅9時30分〜10時(コース)岩倉駅(箕裏ヶ岳)箕裏ヶ岳(静原(コスモス露園)一葉土坂)鞍馬駅(約10、中級回)参加自由・無料、叡山電車営業課075(702)8111

神戸電鉄

▽火塚ハイク「地獄谷・旧摩耶道コース」9月5日(休)雨天中止(集合)大池駅下車、地獄谷入口10時(コース)大池駅(地獄谷)ノースロード(摩耶山)御座台(旧摩耶道)雷鳴寺(地下鉄新神戸駅(約13、健脚回)参加自由・無料、神戸グループ総合案内所078(592)4611
▽木塚ハイク「有馬六甲街道」

クを開始し、頂上までは「十高
鉢山登山道」の標識に導かれ、
谷沿いの細い山道を登ったり
登山道を繰り返しながら、NT
T高鉢山反射板の背後の頂上に
到着した。

山頂は自然林に囲まれた広場
で、一段高所に三角点があり、
その近くでゆっくりできた。資
料のいずれにも展望は良くない
とされていたが、広場橋手の端
に出ると七日市方面を展望でき、
予想外の収獲だった。

今年の5月は雨の日が多かっ
たのに、二山とも終日晴天に恵
まれ、五ヶ所富士は五カ所川か
ら、香取富士は小尻川から、い
ずれも川縁や橋から全容を撮っ
た。

五ヶ所富士・香取富士でも平
日なのか、登山中はもちろん、
頂上で誰にも出会わなかった。
(枚方市 東谷 忠)

6月8日、先炊に登山口がわ
からず登頂できなかった藤無山
に、木村リーダーの例会で登頂
しました。

6月9日、毎日登山に参加し、
白嶺岳に登頂。鳥渡谷林道から
白鳥川は「よし道ロード」と
して整備され板並木が続き、散
歩やジョギング等市民の憩いの
場となっていて、四季を通して
いろいろな草花が咲く。また水
鳥も多く、アオサギ・シロサギ・
カイツブリ・カモ・ヨシキリ等
を見る。

この川の支流に清流とはいえ
ない藤開川があり、我家の近く
を流れている。この川はあまり
整備されず、やぶの中にカラス
ウリ・アケビ・ヤマブドウ・ノ
イバラ等が茂っている。
水鳥の中に近年「飛ぶ宝石」
といわれるカワセミが見られる
ようになった。カワセミは土手
が崖になった所に巣を作るとい
うので、八幡堀の川筋、白鳥川
の源流、日野川等を探し廻って
いるがまだ発見できない。

清流をコバルトブルー
矢のように飛ぶ宝石は
夢のカワセミ
(近江八幡市 岩野 明)
山行短歌
5月1日 湖北天吉寺山
古き良き時代の故郷のように
イカリソウ咲いた春の山です

登ったので少しは楽だったが、
やはりきつい山でした。

6月10日、7人で養老山に登
頂。3月30日に登頂を試みたが、
時ならぬ積雪40cmに小倉山手前
でリタイアしたのでそのリベン
ジでした。正規の登山道が閉鎖
されていて長い林道歩きの往復
を余儀なくされ、7時間もかかっ
て17時にやっと下山できました。

近畿百名山も残り六山となり、
行きづらい山ばかり残りました。
高峰山・中八人山・仙千代ヶ峰
の三山をどなたか割合計画をお
願いします。

(尼崎市 植木敏子)
旧野洲町にある滋賀県立希望
ヶ丘文化公園の南の山系は20
00〜3000mの低い山が続き、
登山者に知られた山は無い。し
かし、尾根には南極見晴しコー
スと南極天山見晴しコースが整
備されていて、青年の城で研修
する子供達がよく歩いている。
城の西の林道が取り付きで、
丘のような山を越えて谷にくだ
り、橋の下を通過して登り返すと
希望の橋のたもとに着く。ここ

5月4日 三重修験堂山
遠き日の初恋のときめきに似て
白花カタクリにめぐり逢う
5月6日 北摂小和田山
僕の王国を君に見せてあげたい
ミンパツツの明るい森を
5月9日 天流〜大屋水色菫園
星のない夜空の如くただ暗く
ミスバショウ散りばてむ蘭生
5月17日 加賀富士写ヶ岳
樹林の中で君といた日を想う
甘き香りのシャクナゲの雨に
5月22日 久松山〜鳥取砂丘
風紋を踏んで馬の背に立てば
夕光のなかごき母の声聞こゆ
5月25日 湖北横山岳
ブナ林床をイワウチワ埋め尽し
光の国のオペラの劇場に
5月31日 湖西赤坂山
季節おくれのオオバキスミレ
花のそば花の囁き聴きたくて
6月4日 台高池木屋山
はるかなる池木屋山へ辿り着き
霧の縦走路を降りゆく
6月8日 無形野藤無山
ぼけたちの無尽蔵な哀しみを
忘れ去す藤無山に立つ
(吹田市 木村太郎)

たまたまと言え、長年、社

から尾根を歩き、養老岳(25
2m)と南山(241m)を越
えて中央の駐車場にくだと、
次に天山西麓見晴しコースが終
る。

三ヶ所もろい岩山越えて登り
つめると天山西麓で、約300
mの尾根が南北にびていて、
南に約15分行く先端に天山
(2303m)に着き、大バノ
ラマが展開する。引き返して北
の端に行くとも見晴し岩があり、
ここでも大バノラマが展開する。
この岩の下の斜面をくだると
遊歩道があり、その下のあずま
屋でひと休みできる。左に廻り
込むと210mの尾根にも展望
の良い大きなあずま屋があり、
花緑公園に下りられるが、スト
リートに下りるとテニスコート
の上に着く。

この山系はほとんどが自然林
で、特に春芽吹き時期は山全
体が青色に輝き、ミンパツツ
が咲き乱れ、まさに登動き山突
う感じだ。4月末頃に登ると、
稜線はヤブツバキとミンパツツ
の花でいっぱい。紅紫色の花
と黄、散り始めたピンクの花び
らが道を染めていた。

天山山頂で休んでいると、マ
マガラが虫をくわえて飛んでき
た。まづいと思いつく離れて腰
を下ろして待っていると、山頂
の白い松の枯木の約1mの高さ
の朽ちた枝の洞に入った。しば
らくして出ていったので洞を覗
いて見たが、洞は小さく暗くて
何も見えなかった。

退職後は特にやることもなく、
家の周辺4〜5kmと里山、鈴鹿
ではセラピーの森を求めて気の
向くままに歩いている。近場で
も思わぬ発見があって驚いてい
る。

以前勤めていた石山のマンショ
ンの植込みの中にカラスビシヤ
ク(ハンゲ)が生えてきたが、
2年で消えた。近江八幡駅前
に西にびる大通りサンロードが
あり、雪野山を水源として市内
を流れる白鳥川を渡る橋近くの
歩道橋にシバツタラの植込みが
ある。そのなかにカラスビシヤ
クが群生している。
カラスビシヤクは畑地の強害
草と書かれているが、いつも人
が通る歩道の横にめずらしい野
草があった。

余的に不利な立場にある人た
ちと係り合いの深い仕事に従事し
てきた身には、昨今の社会的な
落差のびかりに暗然とするばか
りです。
堀割坂の掛け声のもと、あ
らゆるものが「儲け」の対象と
なり、手段をも選ばぬ競争の中
で「勝ち組」と「負け組」とに
選別され、弱者の生活は、それ
こそ踏みつぶされてしまいわ
な勢いなのです。
生来の不器用さからそんな時
流に乗り切れない私は、いつも
右往左往しているのですが、そ
ういう自分自身を冷静に眺める
ことができるのは、「山旅」を
するもう一人の自分がいるから
かもしれません。

「山旅」は確実に人生観を変
え、生活の糧を得るための仕事
も、非日常の趣味をも越えて、
自分という存在のアイデンティ
ティとなつていようような気がし
てならないのです。自然と向き
合い、地方に生きる人々の暮ら
しにふれる「山旅」は、まさに
私の人生の応援団なのです。


これからは豊かな自然と清ら

4月29日 雲ヶ岳、5月14日 御
前岳、6月3日 毛勝山と、五週
間の間に、行きたくともなかな
か行けない三山に登ってきました。
雲ヶ岳15人、御前岳9人、
毛勝山7人で行きました。
御前岳は3月19日に散退した
再挑戦で、帰りに少し雨が来た
が、他は快晴。いずれも五、七
合目からは雪に覆われていて
歩きやすかった。

ただ、毛勝山の頂上からモ
アセ山にかけての雪渓は素人の
私達には未経験の大冒険で、斜
度40度標高差は400mあり、
極かた。毛勝谷からは20数名
が登って来ていたが、最上層の
傾度は50度程で私には絶壁と感
じられる角度です。毛勝山は最
初から最後まで雪で長さ4kmの
大雪渓でした。(白馬は2ヶ所、
見晴らしは最高に良く、朝から

かな暮らしにつながり、お互い
に互いを励まし合えるような
「山旅」を続けていきたいと願っ
ています。
9月と10月の「信越トレイル」
は、そんな「山旅」の一つです。
(各務原市 蟹見守康)

SHCサービスチェーン



どこへ行こうか
SHCサービス
チェーン

知床若尾別荘 ユースホステル
(知床国立公園内)
〒090-0403 知床町若尾
電話 0152-21-4231
http://www.shc-hokkaido.com

温泉ペンション 森のふくろう
〒090-0403 知床町若尾
電話 0152-21-4231
http://www.shc-hokkaido.com

ユースホステル
〒090-0403 知床町若尾
電話 0152-21-4231
http://www.shc-hokkaido.com

八甲田山荘
〒030-0111 青森市八甲田
電話 0177-28-1512
http://www.hachijodan.com

大雪山登山会 ユースホステル
〒078-1701 北海道上川町
電話 0165-81-5141

八幡平グリーンホテル
〒010-0144 秋田県鹿角市八幡平
電話 018-81-1111
http://www.hachihiragreen.com

帰るまで後立山山々が見えていました。鯉岳の東から鯉岳・鹿島槍・五竜・白鳥・雪倉・朝日岳・最も北に火ヶ岳。
夏ヶ岳・御前岳も360度の大展望ですが、毛勝山は別格です。2400以上の高さもそうですが、北アルプスの一角が見渡せ迫力が桁違いですから、秋にもぜひ行ってみたい。
私は地図は読めないが、体力は旦那に負けない自信があり、山は旦那にまかせて、これからどこへでも付いて行きます。

(海津市 山田妙子)
4月29日、夏ヶ岳に登った。ジライ谷からの春ルートは3年連続三度目で、今年は雪が多くて歩きやすかったが、国道のゲートが閉まっていた、往復8、9分に分歩かされた。
途中のカモウリ山の頂上は雪の「ナイフリッジ」状態、ピッケルで上を削って渡った。帰りはカモウリ草履で戻ったが、熊の足跡を初めて確認した。
新ハイ誌89号に書いた夏ヶ岳

山頂の山林局三角点は探したがよくわからなかった。雪が少しあったからだが、頂上の西端にあったたすればすでに谷に落ちたのかも？
清水谷からの秋ルートを今年も10月に行く予定なので、秋に探してみたい。
5月28日、新ハイ例会で、萩原の御前山に行った。
鈴鹿でも三ヶ所で見えていなかったワチガイソウが群生して見られた。ワチガイソウの数の多さにも驚いたが、初見が一

種、二度目が二種、花はとでも多かった。下島御前山には御陵三角点もあると聞いたので、また見に行く予定。
私は体力が無いので、リーダーのKさんやMさんのように重い荷物は担げない。かみさんのほうが体力は上でしよう。ゆえにきつくてふつうテント泊の山でも日帰りで歩いている。夏ヶ岳も御前岳も毛勝山も日帰りで行ってきた。(海津市 山田明男)

SHCサービスチェーン

花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ
夏は登山ハイキング
冬はスキー、雪中かんじき体験
田代温泉 温泉旅館

森吉山 こもつが山荘
〒020-0451 森吉山
電話 020-45-1111
http://www.shc-hokkaido.com

新ひばり温泉 温泉旅館
〒020-0403 新ひばり
電話 020-43-1111
http://www.shc-hokkaido.com

福島・二股温泉 日観連 大和館
〒967-0053 福島県南会津郡大和町
電話 0242-21-1111
http://www.shc-hokkaido.com

尾瀬小屋
〒996-0053 尾瀬ヶ原見晴
電話 0235-31-1111
http://www.shc-hokkaido.com

清四郎小屋
〒996-0053 尾瀬ヶ原見晴
電話 0235-31-1111
http://www.shc-hokkaido.com

ナカサキロッジ
〒996-0053 尾瀬ヶ原見晴
電話 0235-31-1111
http://www.shc-hokkaido.com

黒沢池ヒュッテ
〒996-0053 尾瀬ヶ原見晴
電話 0235-31-1111
http://www.shc-hokkaido.com

民宿ふれあい
〒996-0053 尾瀬ヶ原見晴
電話 0235-31-1111
http://www.shc-hokkaido.com

大霧沢ヒュッテ
〒996-0053 尾瀬ヶ原見晴
電話 0235-31-1111
http://www.shc-hokkaido.com

あみはじロッジ
〒020-0403 知床町若尾
電話 0152-21-4231
http://www.shc-hokkaido.com

彩の里 紅彩館
〒020-0403 知床町若尾
電話 0152-21-4231
http://www.shc-hokkaido.com

あみはじロッジ
〒020-0403 知床町若尾
電話 0152-21-4231
http://www.shc-hokkaido.com

山行計画
(9・10月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を種別の方へ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計1000円(山行日曜日の場合は2日になり2000円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 50000円
通院保険金 25000円

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷害登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 干

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からです。直前にならないと参加人数はつきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ滑きの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

期日	行先	定員	リーダー
8日	鈴鹿・鳳凰山・鏡子ヶ口	35	岩野
12日	越前・荒島岳・平家岳	24	木村
15日	比良・コメカイ道・地蔵山	15	秦
15日	芦生・京都大学研究林	15	山田
15日	鈴鹿・御池岳・池ノ平	10	岡井
16日	湖北・土倉谷・土蔵岳	10	田中賢
17日	京都北山・船塚山・真栗ヶ岳	22	仲谷
19日	湖西・三重岳	22	寺井
20日	大峰・大所山・琵琶の滝	30	西上
20日	奥美濃・大白木山	20	鷺見
21日	京都北山・青生地蔵峠・久多三園岳	40	金谷
21日	丹波・由良ヶ岳	22	狩野
21日	鳥羽・神鳥の灯明山	22	稲垣
21日	熊鷹大の路・東葉山・隠岐・市島峠	22	村田
22日	北摂・小和田山	30	木村
22日	山科・音羽山	30	塚元
22日	鈴鹿・コザト・豊仙山・谷山	30	岩野
25日	京都北山・愛宕道・八丁山	20	奥山
27日	大峰・大天井ヶ岳・小天井ヶ岳	20	田中明
27日	伊豆・黒雲山・鍋山・仏ヶ峰・黒岩山	50	西上
27日	若狭・大御影山	20	鷺見
28日	奥播磨・法道山	20	高島
29日	飛騨・川上岳	15	古賀
29日	高見山地・修験堂山・三峰山	22	山田
29日	台高・北股川源流・池木屋山	10	村田
30日	田中賢	10	田中賢

期日	行先	定員	リーダー
2日	奥美濃・母袋鳥帽子岳	20	鷺見
3日	比良・シンジ谷道・堂満岳	20	秦
6日	京都北山・葛瀨谷山	24	奥山
7日	美作・星山	24	山田
10日	芦生・京都大学研究林	15	木村
10日	鈴鹿・御在所岳・園見岳・青岳	15	岩野
10日	京都北山・小野村割岳	22	森脇
13日	大阪南部・金剛山	20	田中明
15日	室生・兜岳・鍾岳・清水山	50	西上
16日	尾鷲・天狗倉山・猪の鼻	40	稲垣
16日	湖北・夜叉ヶ峠池・カナ山	40	村田
17日	鈴鹿・鎌尾根・雲母峰	40	岡井
20日	播州・空山	20	木村
22日	信越・斑尾山・神岳・毛無山	24	鷺見
23日	湖西・龍鱗山	40	狩野
23日	湖南アルプス・太神山	30	塚元
24日	鈴鹿・アカイシ	30	岩野
25日	台高・霧降山西尾根・池木屋山	10	田中賢
26日	北摂・竜仙の滝・阿武山	20	仲谷
27日	京都北山・桃山・左大文字	20	奥山
30日	若狭・野坂岳	20	高島
30日	両白山地・初穂山・大豆山	20	山田
30日	熊鷹大の路・大所山・鏡子ヶ口・志保山	20	鷺見

自然観察山行
奥美濃・母屋島子岳

期日 9月2日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅9時15分
コース 岐阜駅(バス)母屋島子岳(往復)一ノ瀬(バス)
岐阜駅(解散)
費用 約5000円(岐阜駅からバス代)
地図 2万5千:徳水・郡留
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名

6月に中止しましたので、再計画しました。奥美濃の手頃な山です。小雨決行

比良を歩く52
シンジ谷道から堂満岳
期日 9月3日(日) 日帰り
集合 JR比良駅8時50分
コース 比良駅-旧リフト山麓駅-シンジ谷道-一ノ瀬-北比良峠-金栗

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・富仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ○山田 悠三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
御在所所係・園見岳から根ノ平峠に下りて、神崎川源流を武平峠に登ります。雨天中止

京都北山・小野村割岳 (一般向き)
期日 9月10日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース 京都駅(バス)佐々里峠-P840-P8622-P9111-小野村割岳-ワナ谷林道-広野原-ノ町(バス)京都駅(解散18時頃)
費用 約3000円(京都駅からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎森脇 直哉 ○藤野 重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

峠-宮野原-ノタノホリ上部-深谷道-出合-比良駅(解散17時30分頃)
*歩行6時間50分

費用 約13000円(京都から)
地図 2万5千:比良・北小松
昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
シンジ谷道は荒れ道です。時間の都合で堂満岳をカットし、金栗峠から正面谷をくだる場合もあります(本誌55号参照)。雨天中止

北山ちよつと歩き80
山越から葛原谷山三角点へ
期日 9月6日(日) 日帰り
集合 JR京都駅南市バスのりば8時30分
コース 京都駅(バス)山越-高瀬谷山-高瀬谷池-観空寺谷-釈迦堂前(解散14時30分)
費用 約5000円(京都駅から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎奥山 悠三
申込み 〒610-0121

新ハイキング関西まで
*定員22名
台杉の巨木が点在する尾根道を小野村割岳へ。尾根はワナ谷の林道歩きになります。雨天中止
花送り山行32
大阪南部・金剛山(一般向き)
期日 9月13日(日) 日帰り
集合 近鉄・南海河内長野駅前バス停8時50分
コース 河内長野駅(バス)金剛山-河内尾谷-金剛山-尾谷口-カトラ谷-金剛山-河内長野駅(解散17時頃)
費用 約3500円(京都から)
地図 2万5千:五條・藤所
係 ◎田中 明 ○西原 辰夫
申込み HPPからメールで受付
http://hana.04.jp.
info@hok.co.jp
*定員20名

ジャコソウ・カリガネソウ・ナガバノコウヤボウキなどの秋花を探して歩きましょう。雨天中止
宣言・兜岳と難所から清水山 (一般向き)
期日 9月15日(日) 日帰り

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
嵯峨野周辺のちよつとした山々を歩きます。歩行は10.5まで。雨天中止

ファミリーハイイク91
美作・鼻山(初級向き)
期日 9月7日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅正面口観光バス駐車場7時00分
コース 新大阪駅(バス)勝山美作-山崎山-天狗山分岐-星山-勝山美作-星山駐車場(バス)足置温泉(バス)新大阪駅(解散)

費用 約4500円(バス代)
地図 2万5千:橋本・勝山
係 ◎木村 太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで
*定員24名(会費に限り)
秋の草花に出会える重宝的山谷の1等三角点に登る。雨天中止
宮生堂定定院
京都大学学生研究会(中級向き)
期日 9月10日(日) 日帰り

集合 近鉄橿原駅宮前駅中央口8時00分
コース 橿原宮前駅(バス)メナシ-梅畑-聖徳-蜂坂-坊詰-清水山-新毛バス停(バス)橿原宮前駅(解散16時頃)
費用 約3720円(橿原野崎駅起点・バス代含む)
地図 2万5千:大和・俱利伽羅山
係 ◎西上 利和 ○東山 燈夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員50名

難所の縦走路から少し足をのばすと、樹林のなかに清水山があり山頂はわずかながら自然林が残っています。小雨決行
三重の山88
尾鷲・天狗倉山から捕の鼻 (中級向き)
期日 9月16日(日) 日帰り
集合 高徳神社駐車場8時15分 / 道の駅海山 9時30分
コース 道の駅海山-蟹下-尾越

集合 JR関ヶ原駅7時15分 / JR近江今津駅8時10分 / 道の駅朽木本陣9時00分
コース 各集合駅(車)生杉林道所-三國峠-野田畑-上谷-長須谷作茶所-下谷-地蔵峠-生杉林道所(車)各集合駅(解散)

費用 交通費各自(車代1500円・10000円)
地図 2万5千:古屋
申込み 〒503-0535
海津市南瀬町松山4の19 山田明男まで
*定員15名程度
*集合駅を明記ください
秋の花は咲き始めたか? 雨天決行

鈴鹿を歩く247
御在所岳・園見岳・青岳 (健脚向き)
期日 9月10日(日) 日帰り
集合 国道477号線武平峠止場8時30分
コース 武平峠-御在所岳-園見岳-青岳-根ノ平峠-神崎川源流-武平峠(解散)

費用 1500円
地図 2万5千:尾鷲
係 ◎植垣 孝夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065 植垣孝夫まで
*マイカー山行
尾鷲技術 雨天決行

やぶ漕ぎ山行の
湖北・夜叉ヶ峠池からカナ山
期日 9月16日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース 京都駅(バス)高山キヤンパ-高山東内森林道-林道終点-P843-町地尾根-夜叉ヶ峠池-カナ山(往復)-P843-尾相田-林道-高山キヤンパ(バス)京都駅(解散19時頃)

費用 約3000円(京都駅からバス代)
 地図 2万5千・近江川合・虎御山
 期日 9月17日(日) 日帰り
 集合 宮津駅前キャンプ場駐車場 8時00分(JR河内駅7時10分)
 コース キャンプ場→中ノ谷右岸尾根→水沢宿→傍時→サンノグー→西平→キャンプ場(解散)
 費用 参加費2000円
 地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
 係 ①筒井克治
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
 ・マイカー山行
 ・河内駅集合の方はその旨お聴きください
 水沢宿にグイレクトに登高する。岩場は高度感あり。雨天中止
 ファミリーハイイク92
 播州・空山(一般向き)
 期日 9月20日(日) 日帰り
 集合 JR新大阪駅正面口観光バス駐車場8時00分
 コース 新大阪駅(バス)魚町公園→山崎(バス)→山崎→西河内峠→空山→西河内公民館(バス)エーガイヤ千種の湯(バス)新大阪駅(解散)
 費用 約4000円(バス代)
 地図 2万5千・西河内
 係 ①木村太郎
 申込み 〒566-10854 吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで
 ・定員24名(各費に限り)
 橋州奥座敷の千種湯原と三喜高原に挟まれ、山頂に「平成之大馬鹿門」の大白柱が立つ空山へ。雨天中止

自然観察山行219
 信越トレイル①
 班尾山・袴岳・毛無山
 (一般向き)
 期日 9月22日(日) 24日(日) 前後発1泊2日
 集合 9月22日 JR岐阜駅22時00分
 コース 22日 岐阜駅(バス) 23日(バス) 戸狩温泉(飯飯・朝宮)(バス) 笠原野原登山口 班尾山→万葉峠→袴岳→赤池(バス) 戸狩温泉(泊) 24日 戸狩温泉(バス) 赤池→沼の原野原→希望湖→毛無山→蒲井新池→蒲井(バス) 岐阜駅(解散)
 費用 約4000円(岐阜駅からバス・宿泊代等)
 地図 2万5千・飯山・袴岳
 係 ①鷺見守康
 申込み 〒504-10828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
 ・定員20名
 ・8月21日現在
 関田山麓に開かれた全長50kmの信越トレイルを二回に分けて歩き

週末ハイイク75
 湖西・磯山(一般向き)
 期日 9月23日(日) 日帰り
 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば8時00分
 コース 京都駅(バス)天増川本所橋→天増川林道→磯山→本所橋(バス)京都駅(解散18時頃)
 費用 約3000円(京都駅からバス代)
 地図 2万5千・熊川
 係 ①野野東彦
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 ・定員40名
 昨秋は三三三開山からのアプローチでしたが、今回は本所橋から磯山へ取り付いた長い尾根を登ります。ヤマボウシの実は赤く色づいているでしょうか。雨天中止

地図 関み山行苑
 湖南アルプス・太神山
 (一般向き)
 期日 9月23日(日) 日帰り
 集合 JR石山駅前バス停9時15分
 コース 石山駅(バス)アルプス登山口→遊え不動→太神山→矢野ヶ岳→御仏河原→アルプス登山口(バス)石山駅(解散)
 費用 約2700円(大塚かき) 2万5千・瀬田・朝宮
 係 ①塚元一彦 ②中村 登
 申込み 〒536-10008 大阪市城東区園目4の14の9の901 塚元一彦まで
 ・定員30名
 新ハイキング関西支部と合同地形図が正しく読めると山歩きの楽しさは二倍、安全は三倍になります。シルバ型コンパスを持参ください。初心者歓迎。雨天中止
 鈴鹿を歩く248
 アカイシ(やや健脚向き)
 期日 9月24日(日) 日帰り
 集合 大下ダム下宮原バス停8時30分
 コース バス停(恵)深谷林道広

場→送電線遠視路→アカインP663→山比古地蔵東縁→深谷林道→広場(解散)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・空山・伊吹」
 係 ①岩野 明 ②山田良三
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 ・マイカー山行
 近年アカイシ山系の北斜面は伐採と植林が進み歩きやすくなった。この新ルートは根根を踏破して深谷の源流にくだります。雨天中止
 台湾
 霧降山西尾根から池木屋山
 (健脚向き)
 期日 9月25日(日) 26日(日) 前後発日帰り
 集合 25日 近鉄橋原駅21時10分/宮ノ谷駐車場23時
 コース 宮ノ谷駐車場(テント泊)霧降山西尾根→池木屋山→東尾根→水堀→滝見台尾根→宮ノ谷駐車場(解散)

費用 交通費各自
 地図 2万5千・七市市・宮川野水池
 係 ①田中澄治 ②原野くみ子
 申込み 〒118-0626 名都市高松が丘6の2の18 田中澄治まで
 ・定員10名
 ・マイカー山行(4名まで集合が可能です。希望者はその旨お聴きください)
 宮ノ谷めぐる尾根を固回する。かなりのハードコースになります。ヒルはおとなしくなっているでしょうか。小雨決行
 火曜ハイイク24
 北摂・雲仙の麓から阿武山
 (一般向き)
 期日 9月26日(日) 日帰り
 集合 阪急茨木市駅9時00分
 コース 阪急茨木市駅(バス)車作バス停→竜仙の滝→武士自然歩道→阿武山→藤原橋→安威バス停(解散15時頃)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「北摂・京都西山」
 係 ①津谷行司 ②沖 伸

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 竜仙の滝で涼み、その昔明智光秀が戦勝のためにつくったという「武士道(ものふの道)」を歩きます。「貴人の墓」にも寄ってみます。雨天中止
 北山ちよっと歩き①
 桃山から左大文字火床
 (一般向き)
 期日 9月27日(日) 日帰り
 集合 阪急西条大宮駅北西側バス停8時30分
 コース 西条大宮駅(バス)鷹峯源光庵前→桃山→原谷→大文字山→左大文字火床→金剛寺前(解散14時30分頃)
 費用 約500円(交通費)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ①奥山繁三
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 千束より桃山に登り、原谷に下山後、左大文字山に登って火床から京都市街を展望します。雨天中止

若狭 野坂岳(一般向き)
期日 9月30日(山) 日帰り
集合 J.R.敦賀駅9時50分
コース 敦賀駅(車) 山区→鉄塔
巡視路→南尾根合流→野
坂岳(往路)→山区
(車)敦賀駅(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千 敦賀・駄口
係 ③高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
あまり知られてない南尾根のフ
ナ林を歩く。雨天決行

展望の山21
両白山地・駒嶽山と大笠山
(健脚向き)

期日 9月30日(山)10月1日(回)
1泊2日

集合 (30日) J.R.西岐阜駅6
時50分
コース (30日) 西岐阜駅(車)
天生峠→初穂山(往復)
→天生峠(車) 白川村民
宿(泊)
(1日) 宿(車) 桂湖オ
トキャンプ場→フカバラ
ノオ→前髪岳→遊羅小屋

一大笠山(往復)→キ
ンブ場(車) 西岐阜駅
(解散) *車はマイク
ロバス使用
費用 約2000円(車・宿
泊代等)

地図 2万5千 平瀬・鳩ヶ谷・
中宮温泉
係 ③山田明男
申込み 〒503-0535
海津市南穂町松山624の19
山田明男まで
登山道のある山で最もきつか
た大笠山へ挑戦。往復ルートな
ので、きつい人は半分の前髪岳で引
き返してもよい。雨天決行

自然観察山行220
越前・三頭山から大師山と桂
ヶ岳から法恩寺山縦走
(中級向き)

期日 9月30日(山)10月1日(回)
1泊2日

集合 (30日) J.R.岐阜駅9時
15分
コース (30日) 岐阜駅(バス)
農道法恩寺線中ノ平→三
頭山→大師山→大仏前パ
ス停(バス) 六呂師高原

ホテル(泊)
(1日) ホテル(バス)
農道法恩寺線法恩寺休憩所
→保月山→約十岳→中岳
→桂ヶ岳→伏拝→法恩寺
山→農道法恩寺線中ノ平
(バス)岐阜駅(解散)
費用 約3000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)

地図 2万5千 越前山・願
教寺山
係 ③鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名
*8月27日まで

昨年の雨中山頂を惜しむアンコ
ルに込え再計画しました。桂ヶ岳
から法恩寺山へ廻り、法恩寺山か
ら三頭山を経て大師山に至るコー
スを2日に分けて縦走します。
雨天決行

ファミリアハイク93
北信・雨飾山(中級向き)

期日 10月3日(夜)5日(内)
前夜発1泊2日
集合 (3日) J.R.新大阪駅正
面

面口観光バス駐車場22時
00分
コース (3日) 新大阪駅(バス)
(4日) (バス) 小谷登
山口→荒宮沢→笹原→雨
飾山→笹原→荒宮沢→小
谷→村宮雨飾山(泊)
(5日) 村宮雨飾山(バ
ス) 農道山直下駐車場→
霧狩山→大町山岳博物館
(バス) 木崎湖温泉(バ
ス) 新大阪駅(解散)

費用 約2800円(バス・
宿泊・食代等)
地図 2万5千 雨飾山・越後
大野・日名・大町
係 ③木村太郎
申込み 〒565-10854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
*定員22名

品の良い美しさに深田久弥が絶
賛した名山に登る。北アルプスの
展望台にも立ち寄る。雨天決行

新湯の山
守門岳・八海山(中級向き)

期日 10月6日(夜)9日(回)
前夜発2泊3日
集合 (6日) J.R.京都駅八条

口団体バスのりば22時00
分

コース (6日) 京都駅(バス)
(7日) (バス) 入広瀬
五味沢温泉荘(朝食・バ
ス) 大臼川登山口→小鳥
帽子→守門岳→大岳→保
久社小屋(バス) 五味沢
(泊)

(8日) 五味沢(バス)
八海山スキー場山麓駅
(ロープウェイ) 山頂駅
→女人堂→薬師岳→大
岳 入道岳→女人堂→山
頂駅(ロープウェイ) 山
麓駅(バス) 湯之谷駒の
湯(泊)
(9日) 駒の湯(バス)
小出インター(バス) 京
都駅(解散)

費用 約45000円(バス・
宿泊代等)
地図 昭文社「越後三山」
係 ③狩野東彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名(会費に限る)
*9月22日まで

以前に計画し、台風等悪天候で

登れなかった一山を歩きます。泊
まりは中越地震や大雪に耐えた
思い出深い温泉宿を予約しました。
雨天決行

鈴鹿を歩く249
風越山・銚子ヶ口(健脚向き)

期日 10月8日(回) 日帰り
集合 国道421号線杉尾神社
崎橋広場8時30分
コース 広尾場(車) 神崎川林道終
点広尾場→瀬戸峠→風越山
→銚子ヶ口東峰→銚子ヶ
口→南峰→北峰→須谷川
源流→登山道→紅葉尾広
場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「健在所・雲仙・
伊吹」
係 ③岩野 明 ③山田室三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
瀬戸峠から風越山に登り、新ル
ートのシタ原峠からシャクナゲの岩
稜を銚子ヶ口に突き上げます。
雨天中止

越美・荒島岳と平家岳
(中級向き)

期日 10月8日(山)9日(回)
1泊2日

集合 (8日) J.R.京都駅八条
口団体バスのりば7時20
分
コース (8日) 京都駅(バス)
みずごう→林道終点→小
荒島岳→シヤクナゲ平
→荒島岳→シヤクナゲ平
→藤原スキー場(バス) 九
頭電温泉フレール和泉
(泊)
(9日) 宿(バス) 面谷
鉱山道終点→鉄塔尾根→
小平家→井岸山→平家岳
(往路)→面谷鉱山道
(バス) 京都駅(解散20
時頃)

費用 約18000円(宿泊・
バス代等)
地図 2万5千 荒島岳・平家
岳・越前朝日
係 ③村田智俊 ③安倉止勝
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員35名

百名山の荒島岳と紅葉の美しい
平家岳へ登ります。雨天決行

ファミリアハイク94
但馬・剣蛇岳(初級向き)

期日 10月12日(内) 日帰り
集合 J.R.新大阪駅正面口観光
バス駐車場7時30分

コース 新大阪駅→酒垂神
社→水鏡不動→こさづ峠
→剣蛇岳→五郎岳→酒垂
神社→コウノトリの郷公
園(バス) 出石温泉(バ
ス) 新大阪駅(解散)

費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千 豊岡・須田
係 ③木村太郎
申込み 〒565-10854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
*定員24名(会費に限る)
紀子様慶事を導いた御歌に詠ま
れたコウノトリの郷から、但馬山
地の展望峰に登る。雨天中止

比良を歩く53
コメカイ道から地蔵山
(中級向き)
期日 10月15日(回) 日帰り
集合 J.R.堅田駅バスのりば8

コース 時40分
聖田駅(バス)朽木橋生

費用 約3000円(京都から)
地図 2万5千北小松
申込み 昭文社「比良山系」
係 康夫

コース 各集合(重)生杉休憩所
所三國峠野田畑峠
費用 約3000円(京都から)
地図 2万5千北小松
申込み 昭文社「比良山系」
係 康夫

コース 新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*河曲駅集合の方はその
旨明記ください

費用 交通費各自(車代1500円)
地図 2万5千10000円
申込み 山田明男
係 山田明男

コース パーキング(重)コグル
ミ谷登山口一幻池一お花
池一池ノ平一鈴北岳一コ
グルミ谷登山口(解散)
費用 参加費2000円
地図 昭文社「現在所・雲畑・
伊吹」
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 八幡町駅一三宅八幡宮一
花園町登山口一玉松一
黒原山一箕原ヶ岳分岐
一坂原峠一箕原ヶ岳一紫
見峠一市原駅(解散16時
20分)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

費用 約3500円(京都駅か
らバス代)
地図 2万5千丹後由良・西
舞鶴
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

費用 約3000円(京都駅か
らバス代)
地図 2万5千熊川
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

費用 約3000円(京都駅か
らバス代)
地図 2万5千熊川
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

費用 約3000円(京都駅か
らバス代)
地図 2万5千熊川
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

費用 約3000円(京都駅か
らバス代)
地図 2万5千熊川
申込み 昭文社
係 昭文社

コース 丹後 由良ヶ岳(一般向き)
期日 10月21日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)丹後由良
一由良ヶ岳東峰一西峰一
丹後由良(バス)京都駅
(解散19時30分)

分

コース 鳥羽駅-佐田橋(船)
 費用 船 神島津一八代
 地図 神島津台-神明山
 係 船の鳴-ニワの浜-神島津(船) 鳥羽(船) 佐田橋津-鳥羽(船) 解散16時40分頃

費用 約150円
 地図 2万5千: 志志
 係 船運
 申込み 〒519-0311 船運市大久保町2065 船運池夫まで
 願望 雨天決行。*船が欠航の場合は日和山と鳥羽見物

紀伊山地の参詣道を歩く10大辺路3 (一般向き)
 ①紀伊半島から重畳山・虫喰岩
 ②紀伊半島から三郎峠・市屋峠
 ③紀伊半島から三郎峠・市屋峠
 期日 10月21日(日) 22日(月) 泊2日

集合 (21日) 近鉄上本町駅8時00分
 コース (21日) 上本町駅(バス) 姫の延命地蔵-拾町石-重畳山-古座川河内橋(バス) 虫喰岩(バス) 国民宿舎「あらふね」

(22日) 宿(バス) 上田 原正法寺(八郎峠)弘法 大御地蔵尊 市屋峠-手根河部-湯川温泉-鶴田峠-天徳神社-浜の宮王子(バス) 舞鶴駅(解散20時頃)

費用 約18000円(上本町駅からバス・宿泊代等)
 地図 詳細図を当日配布
 係 村田智俊 ○安倉正勝 ○長比裕美
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
 *定員22名(食費は別)

大辺路も今回で浜の宮王子へ。紀伊大島・熊野灘を見ながら重畳山・八郎山を越えて歩きます。雨天決行

ファミリーハイク95
 北摂・小和田山(一般向き)
 期日 10月22日(日) 日帰り
 集合 能勢電鉄妙見口駅9時50分

コース 妙見口駅(バス) 七面口-七宝寺-電神池-釈迦ヶ岳-鉄塔-小和田山-

林道出合-愛の郷キャンブ場-七面口(バス) 妙見口駅(解散)

費用 約11000円(バス代)
 地図 2万5千: 妙見山・増生
 係 木村太郎
 申込み 〒565-0854 吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで
 程子様の旧姓にあやかり人気の出た能勢のやぶ山。巨大仏像の寺院から雑木林を歩く。雨天中止

地図 築山山行
 山科・豊羽山(一般向き)
 期日 10月22日(日) 日帰り
 集合 京阪大谷駅10時00分
 コース 大谷駅-遠坂園-豊羽山-パノラマ展望台-牛尾観音-高塚山分岐-上醍醐寺-醍醐三寶院前(解散)

費用 約2000円(大阪から)
 地図 2万5千: 京都東南部
 係 坂元一彦 ○中村登
 申込み 〒536-0008 大阪市東区東山4の14の9の301 坂元一彦まで
 *定員30名

新ハイキング関西支部と合同

このシリーズの受講者はこれまでに500人を超えました。山歩きの楽しみと安全を増す地図読み山行です。シルバースタンプコンパスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

鈴鹿を歩く2250
 コザト・雲仙山・谷山 (詳細向き)
 期日 10月22日(日) 日帰り
 集合 河内橋奥橋手前広場8時00分

コース (車) 梅原谷-白谷広場-コザト-岩ノ峰-雲仙山-谷山-白谷林道-広場(解散)

費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
 係 ①岩野 明 ○山田 登三 ○後藤 康幸
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 白谷林道からコザト・雲仙山・谷山と三つの三角点の山を歩きます。雨天中止

北山ちよと歩き記

愛宕道から八丁山(一般向き)
 期日 10月25日(日) 日帰り
 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば8時00分

コース 京都駅(バス) 愛宕道-ウツクジ峠-八丁山-小泉橋-観音寺峠-大覚寺(解散15時頃)

費用 約1500円(交通費)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ①長山 聖三
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

愛宕道から愛宕山を見上げながら八丁山へ歩きます。初秋の北山ちよとは見晴らしが良い。雨天中止

花道山行33
 京都北山・小野村割盛 (一般向き)
 期日 10月25日(日) 日帰り
 集合 京阪出町柳駅京阪バス停7時50分発/地下鉄北大路駅前バス停8時03分発 広野原行きに乗車

コース 集合駅(バス) 広河原-佐々里峠-大杉-小野村

割盛-ワサ谷-下ノ町(バス) 北大路駅(解散19時頃)

費用 約2000円(バス代等)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ①田中 明 ○西園 辰夫
 申込み HPからメール受付 http://hana.04.jp. infoseek.co.jp *定員20名

*集合駅を明記ください
 ほのかに秋めいた山肌を眺めながら、静かな北山で一日を過ごしましょう。雨天中止

大峰
 大穴井ヶ岳から小穴井ヶ岳
 期日 10月27日(日) 日帰り
 集合 近鉄橋本駅中央口8時00分

コース 橋本駅(解散) 五番 香取-大穴井ヶ岳-小穴井ヶ岳-高山-小南峠-川戸(バス) 橋本駅 前駅(解散16時頃)

費用 約3720円(阿部野橋駅起点・バス代含む)
 地図 昭文社「大峰山脈」
 係 ①西上 利和 ○東山 澄夫

○前川和博子
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 *定員50名

秋深まる大峰の中を縦走します。縦走路からは奥街道の大峰山脈や大所山が望めます。小雨決行

自然観察山行222
 信越トレイルの 黒倉山・鏡倉山・仏ヶ峰・黒岩山
 期日 10月27日(日) 29日(月) 前夜発1泊2日
 集合 (27日) JR岐阜駅22時00分

コース (27日) 岐阜駅(バス) (28日) (バス) 戸持温泉(飯盛・朝倉(バス) 関田峠-黒倉山-鏡倉山-仏ヶ峰-仏ヶ峰登山口(バス) 戸持温泉(泊) (29日) 戸持温泉(バス) 仏ヶ峰登山口-中古池-黒岩山-涌井(バス) 岐阜駅(解散)

費用 約4000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代

等)
 地図 2万5千: 飯山・特産
 係 ①齋藤 康康
 申込み 〒504-0828 各務原市高原村雨町1の19の5 齋藤康康まで
 *定員20名
 *8月21日まで 信越トレイルの二回目。関田峠からわが国でも有数のブナ林の広がる鏡倉山、山全体が天然記念物に指定されている黒岩山を歩きます。雨天決行

若狭・大御影山(一般向き)
 期日 10月28日(日) 日帰り
 集合 美浜町牧場9時00分

コース 牧場(車) 深流の里-ハゲノ谷-大御影山-白谷-深流の里(解散)

費用 交通費各自
 地図 2万5千: 三方・熊川
 係 ①高島 伸浩
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 最近に整備された素晴らしいブナ林の新コースを歩く。雨天決行

山行報告
(5・6月号)

新ハイキングクラブ

声生・京都大学研究林・三園岳
(定五回観察3・展望の山16)
5月5日(祝)6日(日) 晴れ
<5日> 晴れ(集合) JR丸ヶ
原駅7・15/JR近江今津駅8・
15/道の駅朽木本陣9・00(車)
生形休憩所9・45-三園峠10・30
-野田畑峠11・30-野田畑谷12・
00(展望)12・30-シンコゴ往復
尾根分岐13・00-杉尾坂13・55-
上谷・地蔵峠分岐14・55-地蔵峠
15・20-生形休憩所15・50(車)
朽木温泉でんくう17・00(泊)
<6日> 晴れ(集合) 道の
駅朽木本陣8・30(車) 桑原橋
9・00-久多橋10・05-経ヶ岳10・
25-久多橋10・50-二園峠11・40
(展望)12・10-下道登山口13・
05-桑原橋13・20(車) 朽木温泉
でんくう14・05(入浴)14・50
(車) 近江今津駅15・20(車) 関
ヶ原駅16・45(解散)
先回4月23日に cancell した上谷の

多量の残雪はすっかり消え、登り
の途中では多くのイワカガミがき
れいに咲いていた。三園岳へは初
めて行ったがシャクナゲが咲き、
トクワカンゾウも咲き残っていた。
(参加者)
(5日のみ) 北村 隼 三上伸夫
北村つねみ
(両日共) 馬場雄子 林 正義
竹田豊美 朝倉雄雄 長坂佐知子
狩野東彦 吉本博輔 吉本巴代子
蓮井洋子 徳田浩美 徳田昌子
小林 修 山田妙子 (計17名)
台高・迷岳と明神岳周辺の山
(鈴鹿山21・テント泊)
5月5日(祝)7日(日) 2泊3日
<5日> 晴れ(集合) 運ダム管
理棟8・00-布引山10・30-迷岳
手前11・20(昼食)12・40-迷岳
13・10-やつとこせ尾根登山口14・
30-洞窟美砂峠17・00(泊)
<6日> 晴れ(集合) 運ダム管
理棟8・00(車) 千石林道ゲート前7・50
-地蔵橋入口9・30-岩場上10・
30-メタ原11・30(展望)12・30
-奥橋梁12・40-林道14・00-駐
車地15・00(解散)
<7日> 悪雨のため中止した

2日間は良いお天気になった。
前日に情報収集して登りを布引谷
にとどめ、ブナの芽吹きには早かっ
たがツツシ・コブシは花盛り。奥
檜原へは、ヌタハラ谷右岸尾根を
登る。涼しいが道が、火事跡の
尾根は目撃ししが良く、ワラビが
明えているが危ないやせ尾根で、
立ちふさがる岩壁にはフィックス
ロープで確保、安全に通過した。
(参加者)
(5日のみ) 伊東弘隆 中井昭二
南 智恵子
(6日のみ) 山崎 勉
(両日共) 真島 和 喜屋知恵
高原秀彦 伊丹野子 坂川取治
奥村繁樹 (計11名)
北嶺・電王山から横津峡
(地図読み山行75)
5月6日(日) 晴れ
(集合) 飯倉沢木駅8・45-55
(バス) 忍頂寺バス停9・45-10・
05-電王山10・45-11・00-六仏
11・25-30-龍内道線12・20-電
仙滝13・00(昼食)13・50-秩谷
14・30-40-運動公園15・10-横
津峡15・35-上ノロバス停15・50
(解散)
忍頂寺へ向かうバスは「ブルー

ブのハイカーで満員。下車後、コ
ンパスワークのレッスンをして歩
き始める。新緑が美しいコースを
楽しみながら地形図の読み方を学
習。ほぼ予定の時間上ノロバス
停で解散した。
(参加者) 君塚郁子 宮下淳一
大林 進 本家俊子 前田栄三
林 信男 前田初雄 橋本賢一 藤
川上久登 若林文夫 堀見剛也
高橋雅子 井上彰美 井上由紀晴
中岡昌子 橋原良彦 宮路ちへ子
本間 隆 本間勇子 佐々木幸子
米山昌子 中谷孝子 田中三恵子
前田幸子 梅田久子 吉野美子
○中村 登 (計20名)
美濃・伊吹山北麓
5月7日(日) (観察) 守康
*雨天のため中止しました。
御原平・ベンケイ
(鈴鹿を歩く239)
5月7日(日) (観察) 明
*雨天のため中止しました。
愛宕山シリーズ12
明智越・愛宕巡礼道・ツツジ
尾根 (少健ハイキング)

奥座敷・法蓮山(中級向き)
期日 10月29日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅8時05分
コース 西明石駅(バス) 岩屋原
普一橋線・法蓮山分岐-
法蓮山-銀山湖(バス)
西明石駅(解散16時頃)
費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千-但馬新井
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之上684
の33・17A403
古賀慶一まで
*定員20名
山頂へは少し急登がありますが、
心細く自然林が随所に見られます。
雨天中止

◎山田明男
申込み 〒503-0535
海津市南条町松山64の19
山田明男まで
*定員15名程度
一等三角点の山、紅葉はどうか?
雨天中止
やぶ漕ぎ山行③
高見山地・修験業山から三峰山
(中級向き)
期日 10月29日(日) 日帰り
集合 近鉄橋原駅8時10分
コース 橋原駅(バス) 川上八幡
神社-修験業谷飯塚-支
尾根-橋原-修験業山-
黒岩山-瀬谷山-平倉峠
-三峰山-不動滝登山口
(バス) 橋原駅(解散18
時30分頃)
費用 約3000円(橋原駅か
らバス代)
地図 2万5千-宮前・豊野
係 ◎村田智俊 ○安達止勝
○坂比呂美 ○安達止勝
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員22名
修験業山から紅葉の尾根をたどる

三峰山へ歩きます。雨天中止
台高・北股川源流から池木屋山
(健脚向き)
期日 10月30日(明後) 31日(祝)
前夜発日帰り
集合 (30日) 近鉄橋原駅前21
時10分/明神出合駐車場
23時00分
コース (30日) 橋原駅(車) 明
神出合(東屋泊)
(31日) 明神出合(車)
北股林道起点-ホウキガ
峰西北尾根-池木屋山-
千里峰南西尾根-北股林
道起点(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千-大和柏木
係 ◎田中賢治 ○西原くさ子
申込み 〒518-0626
名張市植根が丘6の2の
18 田中賢治まで
*定員10名
*マイカー山行(4名ま
で集合)可能ですが、希望
者はその旨明記ください
北股川から池木屋山への難コー
ス。林道の状況により、山ノ沖か
ら馬ノ鞍峰線に変更の場合あり。
小雨決行

第7回 京都山の会写真展
-山 その偉大な自然の中で-

とき 平成18年10月14日(出)-19日(休)
9時30分-18時30分
会場 エイエムエス A'BOX ギャラリー
京都市中京区御前通御池上ル
(JR・地下鉄二条駅西へ徒歩10分 P50台可)
TEL. 075 (841) 1470
主催 京都山の会写真クラブ
TEL. 075 (641) 9291 (事務局)



5月9日(祝) 晴れ

(集合) JR保津駅 9:00-13
角点10・00-05 明智尾根越境分
岐10・30-40 神明峠11・15-25
1 愛宕越境道-林道出合12・25
(集合) 13・10-1 社務所13・45-
14・00-1 フジの根柢-保津越境16・
05 (解散)

明智尾根を保津越境から登り、愛
宕越境道に抜ける昔の愛宕参りの
道を行く。やや長いコースだった
が、背空の下、新緑を愛でながら
の楽しい山行であった。

(参加者) 船越利明 加納由紀子
木村 豊 長沢佑美 小坂さゆり
田口寿一 田口真子 森 つる子
大林 進 木家洋子 南 ミヤ子
志水明美 加藤元彦 川上久堅
岩本彰子 前田初雄 猪狩美枝子
渡部和美 徳藤静子 郡築由美子
宮西和子 武村千鶴 中岡昌子
山原勝雄 杉村雅子 和田直樹
小松志信 中村英雄 大園加代子
柳野欽也 青木一雄 船本裕巳子
児島愛子 石原君子 林 弘毅
谷 守 ○山縣勝美
○村井寿和 ○松谷社司 (計17名)

奥野野・清水ヶ峰
(ファミリーハイキング)

5月11日(祝) ◎木村太郎

・雨天のため中止しました。

美濃・飯盛山から西津波

(自然観察山行209)
5月13日(祝) ◎繁見守康
・雨天のため中止しました。

奥野野・燗櫃子嶺

5月13日(祝) ◎金谷 昭
・燗櫃子嶺が残雪のため、急きょ
岩岳に変更したが、結局雨天のため
中止しました。

加越・富士写ヶ岳と丈殿山
5月13日(祝) 1泊2日
(集合) JR京都駅
8・20-27 (バス) 大内峠登山口
11・45-55 休地地12・28-40
富士写ヶ岳13・27 (集合) 13・50
大内峠15・05 (バス) たけくら
べ温泉15・20 (泊)
(14日) 晴れ 宿? 50 (バス)
龍ヶ森登山口8・00-1 じょんこ
広場分岐8・40 大谷伊場9・12
休地地9・26-35 北丈殿山10・
15-21 南丈殿山10・57 浄法寺
山11・27 南丈殿山11・51 (集合)
12・40 北丈殿山13・00-10 大
岩広場13・48-1 じょんこ広場分

岐14・07-1 じょんこ広場14・42
(バス) たけくらべ温泉15・15
(入浴) 15・53 (バス) 京都駅18・
00 (解散)

雨のなかを富士写ヶ岳に登った
が、展望も無いので早々に引き返
した。大蔵山は良い天気にもまれ
た。シャクナゲは咲いているのは
少なかつた。展望はすばらしく、
浄法寺まで足をのばし、残雪を踏
んで頂上に着いた。途中、カタク
リやシウジョウバカマが美しく
咲いていた。

(参加者) 上田久子 安田文美江
平田輝美 岩本彰子 砂原恵美子
首藤育子 金森節子 船本裕巳子
宮野裕子 松尾節子 加納由紀子
松村雅子 長沢佑美 武部美美子
小松志信 内田康夫 村田はる江
栗崎善吉 栗崎君子 野末あや子
松谷社司 中川節子 大須賀 博
高松雅子 岩越健司 中澤與司博
岩田哲士 藤野暢子 宮路ちへ子
山縣勝美 川島勝美 ○磯野重治
◎森島貞良 (計33名)

瑞州・トンガリ山(往々廻)
5月14日(祝) ◎古賀隆一
・雨天のため中止しました。

湖北・土蔵岳

5月15日(祝) 16日(祝)
前後夜日帰り

(15日) (集合) 近鉄桔梗が丘駅
20・00 / JR貴生川駅21・00 / JR
米原駅22・25 (車) 金園原レス
トスベス23・35 (テント泊)
(16日) くもりのち雨 テント場
(車) 土蔵谷 7・00-1 土蔵環
堤7・10-1 小字利谷出合7・45-
杉谷出合8・25-奥の二 俣(引き
返し点) 8・45-1 土蔵谷 一俣11・
20 (車) 己高庵12・20 (山菜パ
ーティー) 14・20 (現地解散・車)
米原駅15・40 (車) 貴生川駅16・
35 (車) 桔梗が丘駅17・15
出口土倉近く、ローマ時代のコ
ロセウムを思わせる土倉城山遺跡
所跡を見学。二俣まで車を乗り入
れ土倉谷へ。旧土倉の城山遺跡を
見ながら奥へ行くとき、あたりが雨
れるように新緑はすべて、たぶらの
材料に見える。杉谷出合からは谷
の中に残雪が目立ち始め、谷道は
荒れに荒れている。雨も降り始め
たので、標高600付近で打ち
切り、山道探りに切り替え、己高
山山麓の己高庵の東屋での天ぷら
パーティーで盛り上がった。
(参加者) 大村優子 佐古田文子

山縣勝美 梶原泰彦 池田繁美
小林 修 高原彰彦 南 智恵子
筒井克治 井沢重正 澤崎 実
○岡早くみ子 ○田中賢治 (計13名)

加賀・富士写ヶ岳
(ファミリーハイキング)

5月17日(祝) 雨
(集合) JR新大阪駅7・00 (バス)
福井北インター10・00 (バス)
車中昼食 桂登山口11・00-10
1 前山13・40-50 富士写ヶ岳14・
00-10 我谷登山口16・30-40
(バス) 新大阪駅20・50 (解散)
*大蔵山が林道の通行止めで、富士
写ヶ岳に変更した。
群生するシャクナゲに噴霧をあ
げ、ブナの新鮮な気持ちに洗われ
た。一等三角点の山頂から白山や
荒島岳を眺めた。
(参加者) 山縣 隆 道早きわみ
妹尾正一 松井明忠 中澤ちず子
村 真子 本間明恵 砂原恵美子
富田節子 前田一代 石井恵美子
松村雅子 西岡辰夫 田中三重子
奥田剛夫 植本敏子 河本美千子
米山尊子 阪上泰次 三下須美重
堅田 弘 若林文夫 本田久美子
大東 哲 沖 伸 紀子

栗崎君子 岩越豊子 菅キヤウ
須藤節子 崎山悦子 大谷章子
兼田孝子 眞田久子 安田文美江
中谷孝子 松尾節子 浪本美和恵
渡部和美 本家孝子 小田朝子
中村豊香 川上久堅 小山 輝
○西藤良彦 ○秋盛止人
◎木村太郎 (計17名)

台湾・木蔵山から伊勢辻山
5月19日(祝) ◎西上利和
・雨天のため中止しました。

鈴鹿・冷川岳(三重の山岳)
5月20日(祝) くもり時々雨のち晴
れ
(集合) 国道306号磯簡別パー
キング(ふじわら) 9・30 (車)
タクシ) コグルミ谷入口10・20
1 長命水-鞍馬御池分岐11・30
1 冷川岳12・25-30 白粉峠12・
35 (集合) 13・15 山口分岐(坂
本谷通行止) 13・45 国道15・20
1 簡別パーキング15・30 (解散)
風が強かったが、雨後の新緑が
すばらしかった。ヤマブキソウ、
イチランソウも少しは咲いていた
が、旺盛は緑のイワガミだった。
(参加者) 大石裕美 石田真由美

平 龍一 中森義信 宮路ちへ子
川村政和 大西節郎 岡本美千子
陳 榮 柳川孝子 (計11名)
◎稲取孝夫

美濃・湧谷山
(自然観察山行210)
5月20日(祝) ◎繁見守康
・雨天のため中止しました。

運来山から権現山
(比良を歩く49)
5月21日(祝) 晴れ
(集合) JR志賀駅8・50-9・
02 (バス) びわ湖パレイ前9・17
1 (バス) (コンドラ) 打見山9・40-
50 運来山10・10-17 小女郎ヶ
池10・45-55 小ヶヶ山11・15-
25 水分神社分岐11・40 (昼食)
12・10 権現山12・15-1 スゴバン
12・38-45 雲山13・05-10
N T T 電波塔13・45-50 雲山山
口13・57-14・00 栗原バス停14・
40 (解散) 1 和興駅15・25
運来山と雲山山への登りの計約
45分以外は、ほぼ下りばかり。久
しぶりの好天に恵まれて快適な後
継歩きを楽しんだ。栗原ではバス
待ちが30分あったので落っここ
ろ、全員和興駅まで歩くとのこと。

約4、45分ほどを余分に歩いた。
新ハイのメンバーはみんな元気
だ。

(参加者) 崎山悦子 金森節子
本間 隆 本間和子 宮路ちへ子
須藤節子 平田和子 北村つねみ
竹本 勲 竹本照子 川北恵美子
岡本典子 岡本春美 森 つる子
長尾一命 渡部和美 武部美美子
青木一雄 松谷社司 久保田瑠子
前田初雄 志水明美 ○大森進行
◎桑 康夫 (計24名)

日本コバ・衣掛山
(鈴鹿を歩く240)
5月21日(祝) 晴れ
(集合) 如來堂8・20 P 8 3 8
10・30 日本コバ11・10 (昼食)
12・25 衣掛山13・40 政所15・
20 1 如來堂15・50 (解散)
爽やかな五月晴れに輝やく新緑
のなか、急登の尾根から長大な秘
境の山頂展望は深い樹林、エビネ、
ヤマシヤクヤク、フデリンドウ、
ヤマフツジ、フクバネウツギ等の
花々を愛でながらの楽しい山行と
なった。
(参加者) 岩本彰子 小川富士雄
池田繁美 服部 亮 伊藤孝久男
武村千鶴 磯部 純 石田真由美

村田紀生 白木貞弘 白木やす子
栗本敏夫 一芝美知子 一芝美知子
赤戸鉄治 高橋啓治 網木美恵子
多賀久子 宮城啓江
高橋秀彦 守 茂田明美
○後藤康幸 ○山田景三
◎岩野 明 (計26名)

湖北 横山岳
(ファミリーハイクル)

5月25日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7:20(バス)
白谷登山口10:05(バス) 太鼓
橋11:00(バス) 滝ノ池11:25(バス)
滝ノ池11:50(バス) 12:00(バス) 横山岳
西峰13:30(昼食) 14:40(バス) 東峰
15:05(バス) 東尾根口16:35(バス)
白谷登山口17:15(バス) 35(バス)
新大阪駅20:40(解散)
白谷コースは厳しい急坂が続い
たが、多くの草花に恵まれた。
雪が少し残る稜線を歩き奥美濃の
山々を眺めた。ブナの新緑が瑞々
しい東尾根コースをくだった。
(参加者) 小栗大直 妹尾一正
荻田 晃 岩本彩子 村上嘉子
本間昭重 栗橋有子 山根弘美
渡部和美 川原高子 山本千鶴子
中川光郎 堀内預智 若林文夫
東中次夫 森本幹雄 加藤浩一

竹田勝英 西原辰夫 池田美恵子
平田輝美 上西博子 久保田玲子
多田明子 畑沼徳雄 昔キヤウ
大東 哲 小松志信 井上恭子
川原春子 中江清剛 澤田高治
辻 陽子 細野秋也 ○西條昌彦
○松井明忠 ○木村太郎(計27名)

山梨・王岳から三方分山
(自然観察山行2-1)

5月25日(日) 雨
前後発1泊2日
(26日) (集合) JR岐阜駅23:
00(バス)
(27日) 雨のちくもり(バス)
精進湖レストラン5:30(朝食)
6:15(バス) 西湖堰場6:30(バス)
40(バス) 王岳7:20(バス) 8:50
55(バス) 王岳10:20(バス) 10:
13(バス) 14:05(バス) 精進湖温泉
車場14:50(バス) 15:00(バス) 休取
村富士15:50(バス)
(28日) 雨 宿6:00(バス) 西
湖鳥島の森公園7:00(バス) 10:
20(バス) 朝霧高原グリーンパー
ク10:40(入浴・昼食) 13:30
(バス) 岐阜駅17:30(解散)
両日とも雨で期待の高十山は見

えなかった。それでも一日目の王
岳から五湖山の縦走は、太平洋側
ブナ林の新緑と花の道で充実度は
高かった。二日目は本降り雨の
ため、青木ヶ原の樹海を散策し
た。
(参加者) 石川 敏 萩野美紀恵
上田裕子 金森節子 加納由紀子
熊木秀雄 栗橋幸吉 栗橋若子
田中善雄 仲谷礼司 夏山春子
萩野暢子 堀田輝子 三井基一
森本淳子 森脇昌義 安田文美江
佐々木三三子 ○菅野東彦
◎登見守康 (計20名)

湖北・奥山

5月27日(日) くもり
(集合) 高山キャンプ場9:00(バス)
05(バス) 滝谷ノ頭10:40(奥山) 11:25
(昼食) 12:40(滝谷ノ頭) 13:05
高山キャンプ場14:50(解散)
前日に鹿見鳥巣が梅雨入り。雨
模様を心配したがどうにか一日も
晴れも続いた。静かな奥山
であった。家族的な団円で楽しく
登った。
(参加者) 尾江清盛 湯田 純
岩本彩子 谷 守 石原君子
◎高島伸浩 (計6名)

奥美濃・御前山(飯野町)
(飯野の山行)
5月28日(日) 小雨のち晴れ
(集合) JR西岐阜駅6:50(バス)
御前山登山口四合目9:10(バス)
五合目9:40(バス) 屏風岩10:35(御
前山) 11:40(昼食) 12:20(屏風
岩) 13:15(登山口) 14:40(三合目
東原) 15:10(バス) 西岐阜駅17:
45(解散)
思ったより花が多く、初見が一
つに二回目の花が二つ。そしてワ
チガイソウの多さには驚いた。
(参加者) 小林一世 長坂佐知子
朝倉松雄 佐藤文枝 伊藤恵美子
山田妙子 生藤恵恵子
◎山田明男 (計8名)

台高 赤ソレ山から木椋山

5月30日(日) 晴れ
(集合) 近鉄榛原駅8:10(高見
トンネル東出口駐車場) 8:50(高見
木椋林道支線分岐付近(鹿野) 9:
30(赤ソレ北尾根取付(地蔵谷出
合) 10:10(赤ソレ山) 11:30(昼
食) 12:10(木椋山) 13:40(木椋
林道) 14:40(東原) 15:30(現
地解散・車) 近鉄榛原駅16:35
緑の海になった木椋林道を歩き
地蔵谷台で木椋川を徒渉して赤

ソレ山北尾根に取り付く。11:7
6(高見) 高見までは我々の登りだが、
尾根がなだらかならなるとブナの美
しい林が展開する。赤ソレ山頂で
は、色とりどりの山草を羨しみな
がらランチタイム。やや霞がかっ
てはいるが、台高の景観も十分堪
能できた。あとにはなだらかなプロ
ムナードの尾根を木椋山へ。北西
尾根をもと来た木椋林道へくだ
つた。

(参加者) 榎方申子 佐古田文字
大村優子 鮫田 二郎 湯浅みゆ子
上西博子 池田美美 南 智恵子
上田久子 堀原彦彦 辻 陽子
大岡のり ○関平くみ子
◎田中賢治 (計14名)

妙・法火床から深沢池園辺麓東
(北山ちよっと歩き78)

5月31日(日) 晴れ
(集合) 地下鉄北山駅9:30(バス)
1(火床) 10:00(火床) 1法
11:00(東原) 12:10(昼食) 13:
20(深沢池) 13:50(小池) 14:40
神宮寺山15:20(太田神社) 15:40
(解散)
二つ三つの火床と三つの池を巡る。
その間の山々から見る比叡山や京
都市街の景観がすがすがしい。

た (参加者) 崎山悦子 河城豊子
小田夢子 須藤節子 岩内止治
木家淳子 栗橋若子 塚本中次
横江 進 井上敏英 井上由紀晴
本間 隆 本間節子 宮路ちへ子
川原高子 柳川常雄 藤原由美子
小林博子 青木一雄 原 ひとえ
中山光郎 木本敏子 宮崎正
小川 輝 山岸隆雄 磯部 純
尾崎孝子 後藤孝子 宮西和子
岩本彩子 兼田幸子 加納由紀子
志木明美 渡部和美 大岡加代子
中尾博子 上田裕子 猪野美穂子
松本中雄 中村英雄 湯浅みゆ子
細野秋也 小谷和子 山本千鶴子
◎金谷 昭 ○石原君子
◎谷 守 ◎奥山景三(計27名)

朽木・百里ヶ岳
(週末ハイクル)

6月3日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅7:50(バス)
(バス) 小入谷登山口9:50(バス)
10:00(小入谷) 10:15(バス) 8
5:11(バス) シチケル峠11:10(バス)
1(根来坂) 11:30(百里ヶ岳)
11:50(昼食) 12:50(根来坂) 13:
13(バス) 10:15(バス) 1(根来台)
13:45(バス) 根来坂13:55(バス) 14:

10(尾根) 14:40(小入谷登山
口) 15:05(バス) 京都駅17:
10(解散)

天気には恵まれ爽やかな風のみか
を快調に歩いた。登山道はよく整
備されていて30分以上も早く山頂
に到着し、ゆっくりと昼食がとれ
た。登山口からシチケル峠にかけ
ての稜線はオオイワカガミの花が
終わった後で、代替はギンリョウ
ソウの群舞。百里四方の景観らし
は残念ながら霞んでいた。
(参加者) 山藤豊美 山藤 隆
松尾麗子 宮下淳一 船越みよ子
堀江房彦 岩佐 修 馬籠忠男
山根弘美 中川節子 岩崎隆司
太石吉彦 西原辰夫 濱本美和恵
林 正義 中島 隆 船木裕子
中川光郎 三下伸夫 ○小林 桂
◎菅野東彦 (計21名)

芦川谷南尾根
(鈴鹿を歩く24)

6月4日(日) 晴れ
(集合) 向之倉入口手前広場8:
20(向之倉) 9:00(杉峠)
10:05(バス) 6:57(新池) 10:50(バス)
P630(バス) 11:20(昼食) 12:15(バス)
P592(バス) 12:50(杉峠) 14:
00(向山) 14:10(橋原) 14:50(

橋原) 15:35(広場) 16:50(解散)

全熟知られていない秘境セラービ
の森は、苦しいカレンフェルト
と高木の深い樹林がどこまでも続
き、新しい池も発見。タナミン
ク・シライトソウ・エビネ・キン
ランの花々。「のぼりおの並木の
尾根にただひとり金ランの花燃然
と咲いて」
(参加者) 池田美美 奥野太一郎
磯部 純 白木貞弘 白木やす子
高野芳彦 栗本敏夫 湯浅みゆ子
水戸鉄治 一芝美知子 一芝美知子
友田明美 武村千鶴 石田真由美
大西備郎 友田 毅 友田美保子
西村文男 小林 修 岩本彩子
吉岡 仁 金谷 昭 ○山田景三
◎後藤康幸 ◎岩野 明(計27名)

養老・窪ヶ岳
(養老・窪ヶ岳)

6月4日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅7:40(バス)
養老大(備) 駐車場9:40(バス) 養老
の海10:05(海上駐車場) 10:10(バス)
神社10:25(旧道) 栗ノ木11:00(バス)
00(林道) 旧道取付11:10(旧道)
1(もろじ峠) 11:30(バス) 40(大
須賀) 11:50(バス) 12:
40(昼食) 13:20(もろじ峠) 14:
14(バス) 10:30(養老) 15:15(バス) 25

一三方山15・35一養老山登山口川原16・10一養老公園駐車場16・50
17・10(バス)京鹿駅19・00
(解散)

始めは林道を歩いたが、神社からまっすぐに旧道の荒れた登山道をもみじりまで直登して時間短縮した。奥深い笹ヶ岳山頂はもやがかかって遠望はなかった。養老山への登山道で先日「緊急死」事故があり、笹原峠からの下山道には、直検のため通行止のロープが張ってあった。進行突破して、くだったものの、特に問題はなかった。
(参加者) 福原章 中嶋日出男 和田直樹 山崎義治 山崎多恵子 渡部和美 榊 野末あや子 沖 磯野直治 野末あや子 川原孝子 宮下淳一 河原美代子 林尾一正 堀虎香織 伊東ナナ子 本家ゆき 小谷和子 荒谷祐子 和田孝子 高橋知子 久保田陽子 佐野信子 岡崎知子 森 つる子 宮野直樹 宮野裕子 藤井むつみ 竹内まゆ 阪上義次 西谷真実子 榎庭 栄 榎庭和子 岡本まゆ子 井上夢子 湯瀬 幸 藤瀬井 豊 小池一郎 山形 明 川俣 融 古山善男 ○山形比呂美
○安倉正勝 ○村田智俊(計43名)

京都西山
川久保尾根からボンボン山
6月6日(祝) 晴れ
(火曜ハイキング)
(集合) JR高麗駅8・50(バス)
川久保9・30(45)尾根峠9・55
P62010・55(11)30(1)釈迦
11・40(昼食)12・30(1)ボン
ボン山13・00(1)10(1)本山寺14・00
15(1)神峯山寺裏道出口15・20(1)
30(解散)

川久保尾根は、十数年前までは展望がよく人気があったようだ。今は植林された木が大きく育ちその面影はないが、気持ちのいい踏まれた道が残っている。晴れ間に恵まれ、気持ちよく歩いた一日だった。
(参加者) 船橋利明 小川富士雄 塚本忠次 中山節子 橋本賢一郎 本間 隆 本間孝子 森 つる子 山岸陽子 尾花一介 船木裕子 松原健二 若林文夫 南まゆ子 夏山春子 山岸陽子 砂原直美子 中村英雄 後藤裕子 光川一恵子 武村千鶴 中西昌子 小坂さゆり 渡部和美 豊村雅子 岩本孝子 山根弘美 和田直樹 谷 守 村井孝和 石原孝子 小松志信 山根勝美 井上聡美 井上田記晴

下村修子 ○青木一雄
○沖 伸 ○佐倉打前(計43名)
奥尾根・藤瀬山
(ファミリーハイキング)
6月8日(祝) くもりのち雨
(集合) JR新大阪駅7・40(バス)
若杉大屋スキー場10・45(55)林道峠点検部11・35(4)前山12・10(1)藤瀬山12・30(1)前山12・50(昼食)13・30(1)若杉大屋スキー場14・40(若杉高原温泉入浴)15・50(バス)新大阪駅19・00(解散)

スキー場から後継鞍部までの林道が新設され、突々と市場尻尾根へのり、藤瀬山を目指した。山頂部はガスに包まれ霧雨模様なので、前山へ引き返し昼食をとる。下山の途中で雨が降り出した。
(参加者) 竹田英英 林尾一正 山根弘美 渡部和美 本家孝子 栗崎裕子 大谷昭恵 中澤ちず子 村上夢子 加藤浩一 松上美代子 西園英夫 竹田英英 砂原直美子 塚本忠次 沖 伸 成川みさお 栗中次夫 前田直樹 山本千鶴子 松尾孝子 中谷孝子 田中三恵子 岩瀬孝子 平田輝美 小河美奈子

前田一代 藤村勝彦 本田久美子
岩本孝子 澤田高治 濱本美和恵
植木敏子 朝倉信雄 光川一恵子
奥田昭夫 荒川義子 ○川上友登
○松井明忠 ○木村太郎(計43名)
奥美濃・母袋鳥帽子岳
(自然観察山行2)②
6月10日(出) ◎鷺見守康
*リーダーの都合により中止しました。

丹波・赤神山
6月10日(出) 晴れ
(集合) JR京都駅7・40(バス)
大文登山口9・40(10)00(1)於成
神社10・35(45)赤神山・金峯神社
11・15(25)改心の道 摩訶止
ス下山道分岐12・15(元権現橋
展望)12・35(昼食)13・20(1)日
谷分岐13・40(1)林道14・20(1)線部
市観光センター14・30(バス)線
部温泉14・45(入浴)16・00(バス)
京鹿駅18・00(解散)
最後は急登の標き道となり、金峯神社の山頂に着いた。参拜後、改心の道の尾根を行くと、広場のピークがあり、ここが元権現橋で展望が開けた。咲く前のサユエが多くあり、風も吹き抜けた。食

後は日置谷までよい道をつくった。
(参加者) 松井明忠 大園加代子
首藤孝子 渡部和美 中嶋日出男
志木明美 小栗大直 砂原直美子
松尾孝子 森野孝子 草野直樹
上庄直樹 仲尾一郎 村田はる江
後藤孝子 松尾信司 武部美奈子
岡崎知子 中川節子 伊東ナナ子
和田孝子 佐野信江 野末あや子
宮野直樹 宮野裕子 荒谷祐子
川田洋子 藤田広美 榎庭 栄
林 信男 村井孝和 湯瀬 幸
加藤浩一 中島 隆 森 つる子
吉野孝子 小林 桂 橋本孝子
上田孝子 織田知子 ○山形比呂美
○安倉正勝 ○村田智俊(計43名)

(参加者) 木村裕子 小山富士雄
大石哲美 林 正義 岡本美奈子
後藤康幸 永沼純治 石田真由美
池田隆一 丹羽泰彦 南 智恵子
真島 和 高島知重 池田美英
○井井克治 (計15名)

湖北・山本山から磯ヶ岳を走
6月10日(出) くもり
(集合) 奥尾根湖ドライブイン9・00
(山) 山本山登山口9・20(1)山
本山9・50(1)P32011・40(昼
食)13・05(昼食)14・15(15)
35(奥尾根湖ドライブイン)16・25
(解散)

石原孝子 山形 明 山田妙子
○山田明男 (計24名)
鳥取・鷲峰山
(中国自然歩道10)
6月11日(出) 晴れ
(集合) JR西明石駅7・30(バス)
河内登山口10・45(安藤峠)11・
45(1)P71212・06(鷲峰山)13・
05(昼食)13・40(小畑分岐)14・
20(古仏谷登山口)15・05(バス)
鹿野温泉15・15(入浴)16・05
(バス)西明石駅19・10(解散)
安藤峠は雲霧気のない自然林で
林道するのによい。山頂へは急な
丸太の階段を大汗をかきながら登っ
た。プナの自然林が広がり、山頂
からは日本海が望めた。お目当て
のヤマボウシの花は今年是不作で
少なかった。

鈴鹿・ブナ清水(前尾登山2)
6月10日(出) くもり
(集合) 近鉄船山山原駅8・40
(車) 伊勢谷9・10(ブナ清水)10・
00(コアラ岩)11・00(青岳)11・30
(昼食)12・30(1)桃ヶ丘。ん岩。お
化けの岩14・00(伊勢谷)15・40
(朝明)16・20(解散)
高橋りの涼しい日。緑濃いブナ
林をさまよい歩いた。点在する巨
岩奇岩を訪ね、パリエーションの
やぶ漕ぎを楽しんだ。

梅中入り前のおどやかな一日。
翌日に誕生日を迎える大兄の誕生
パーティを、昼食時と昼後で二
度、1時間20分ずつ行った。
(参加者) 白木良弘 白木やす子
磯部 純 若本孝子 光川一恵子
石原孝子 加藤浩一 神野孝丸
谷 守 岸田明美 ◎高島仲治
(計11名)
北信越・飯綱山と黒姫山
(展望の山行)
6月10日(出) 11日(回) 1泊2日
(10日)くもり(集合) 桑名市
長島町6・00(車) 飯綱山駅6・

40(車)長野インター10・00(車)
飯綱山登山口10・40(1)11・00(朝
霧の湯)12・00(昼食)12・30(尾
根分岐)13・00(飯綱山)13・25(40
一分岐)14・00(神宮寺温泉)15・30
(車)戸隠森林植物園・観池(車)
宿7・30(泊)
(11日)くもり(1時間)宿7・15
(車)大滝7・30(登山道入口)8・
00(1)したまふ9・40(黒姫山)10・
25(40)黒姫温泉11・35(1)見台
11・50(昼食)12・05(黒姫山)12・
40(黒姫スキー場)14・00(車)入
浴 勝川駅19・00(車)長島町19・
45(解散)
希望者が多くマイクロバスで23
名、急な現地参加の1名を含め24
名で登った。飯綱は開演であった
が黒姫は全く視界が悪く、表道分
岐の残雪が多くて道がわからず、
小袋道で黒姫スキー場にくだった。
下りでオサバグサに会えてよかつた。

(参加者) 馬場裕子 長坂佐知子
小林一正 島田信治 佐古田文字
朝倉信雄 北村 稔 北村つねみ
竹内正子 吉田孝子 久米孝子
春見直美 佐藤文枝 中神恵子
安藤ゆう 三井一 堀江房雄
松野孝子 川島輝美 中谷孝子

台高・木履谷川ワサビ谷から橋
燐黄輝・千秋峰
6月13日(日) 晴れ時々曇り

(集合) 近鉄橋原駅 8・10 / 青木
発着所駐車場 9・20 (車) 千秋林
道標橋村道 (置車) 9・50 / ワ
サビ谷出合 11・10 / 25 (車) ワサ
ビ谷出合 11・50 / 奥の滝上 12・20
(昼食) 13・00 / ワサビ谷終了点
(橋原駅下鞍部) 13・30 / 45 /
檜原山 13・50 / 檜原 14・10 / 千
秋峰 14・55 / 北尾根 千秋林道 16・
05 / 置車 16・15 (現地解散・車)
近鉄橋原駅 17・30

相屋橋手前の地滑り箇所には工
事事務所があり、林道は通行止め
とに閉鎖されても、奥山谷登
山口すぐの崩壊箇所は修復されて
丸太の橋がかかっている。難なく通
過。緑道いワサビ谷の古い仕事道
をたどり、涼風吹く檜原山へ。
千秋峰から北尾根をくぐった。
(参加者) 緒方由子 大村俊子
鮫田二郎 上西信子 湯浅みや子
池田繁美 松村雅子 佐古田文字
梶原泰彦 鶴岡真吉 南 智恵子
山崎勝美 中島 隆
◎園平くみ子 ◎田中賢治 (計15名)

大峰・大川口から行者道岳
6月16日(日) 晴れ
(集合) 檜原神宮駅 8・05 / 10
(バス) トンネル東口 10・25 / 45
1尾根出合 11・40 / 行者道岳小屋
12・44 / 行者道岳 13・30 (昼食)
14・00 / お花畑 14・45 / ノ多和
15・30 / トンネル東口 16・25 (バス)
16 橋原神宮駅 19・10 (解散)
久々の天候に恵まれ、クササチ
バナの開花にも出合え、新緑が鮮
やかで清々しい山行ができた。ト
ンネル東口から往復した。

(参加者) 栗橋野子 渡部和英
小栗大直 木村 豊 竹田美英
東中次夫 竹田勝英 久保田玲子
鮫田二郎 山根敦美 大須賀 寛
永橋律子 友田 毅 友田美保子
西村信子 岩村春子 宮路ちへ子
岩本彩子 塚本中次 渡辺勇美江
桜庭 栄 細野敦也 砂原重美子
岡田登治 栗岡寛子 ◎東山澄夫
◎前川和佳子 ◎西上和和 (計28名)

伊賀・旗山(三重の山) 87
6月17日(日) くもりのち小雨
(集合) J R 橋原駅 9・50 / 大日
如来石塔 熊鷹大神 10・20 / 30 /
旗山 A 10・50 / 11・00 / 旗山 11・
20 / 40 / 不動尊 14・20 / 地主 14・

20 旗塔 B 11・25 (昼食) 12・05
1 旗山 12・10 / 小半山分岐 12・30
1 旗の太木 12・35 / 小半山分岐 12・
45 / ノロ峠 13・25 / 奥余野森林公
園 14・00 / 杉橋 15・00 (解散)
14・50 / 1 旗塔 15・00 (解散)
終盤の約1時間小雨にやられた
が尾根からの眺望もよく、ウグイス
とホトトギスの喉自慢を聞きなが
らの快適な山行だった。花は山
側に群生するウツボグサの葉が特
に良かった。

(参加者) 上田裕子 森 美香子
栗田暢子 平 幸子 岡本美千子
中森義信 林崎 功 稲垣重美子
川村政和 藤 登 尚 明雄
古市和美 永谷 鉄治 ◎福地逸夫 (計14名)

大辺路 2
◎安座の渡し場跡から仏坂越
◎周遊見から長井坂越
(紀伊山道の参詣道を歩く 9)
6月17日(日) 1泊2日
(17日) くもりのち雨 (集合)
近鉄上本町駅 8・00 (バス) ロケ
谷橋奥の仏坂登山口 11・45 / 安座
の渡し場跡 12・15 / 仏坂登壇跡
12・50 / 定宿 仏坂 13・10 (昼食)
13・40 / 不動尊 14・20 / 地主 14・

40 (バス) 周遊見王子神社・歴史
民俗資料館 15・00 / 30 (バス) す
きみ温泉 (いこいの村わかやま)
16・00 (泊)
18日 雨のちくもり 宿 8・00
(バス) 大串の浜馬坂 8・10
1 枯木瀬屋敷 8・50 / タオの峠
9・30 / 和深川王子神社 10・00 /
10 丸山の眺望 10・20 / 長井坂取
付 10・40 / 長井坂 11・00 / 見老
津 12・10 (バス) いこいの村 12・
40 (入浴・昼食) 14・10 (バス)
南海なんば駅 17・30 (解散)

大辺路でも難所といわれた周遊
見から見老津までを、仏坂、馬
坂、長井坂を越えて歩いた。標田
の広がる和深川王子神社では地元
の人が説明してくれた。長井坂を
登り切ると、照葉樹林のなかに枯
木跡を見る快適な古道が続いた。
(参加者) 高橋勇治 中嶋日出男
中川節子 山高義治 山高重孝子
宮野信江 川田洋子 村田はる江
佐野健司 岡崎誠夫 武原美英子
岩崎健司 西原敬夫 河原美代子
大石吉彦 高松雅子 伊東ナナ子
和田純子 野末あや子
宮路ちへ子 ◎長比松美
◎安倉止勝 ◎村田智俊 (計28名)

6月23日(日) 雨のちくもり (集合)
前夜発 1泊2日
(23日) 雨のちくもり (集合)
J R 岐阜駅 22・00 (バス)
(24日) 晴れのちくもり (バス)
六合村 3・45 (飯前・朝寝) 7・
10 (バス) 白砂山登山口 7・50 /
8・00 / 地蔵峠 壹岐山手前水場
9・40 / 50 / 壹岐山 10・20 / 30 /
白砂山 11・35 (昼食) 12・30 / 八
間山 15・25 / 35 / 富士見 16・30
35 (バス) 六合村 17・15 (泊)
(25日) くもり 宿 6・35 (バス)
野反瀬 ロッジ 7・35 / エビ山 8・
35 / 45 / 高沢山 9・25 / 30 / 三壁
山登山口 10・05 / 白砂山登山口 11・
00 / 10 (バス) 六合村 11・35
(入浴・昼食) 13・00 (バス) 岐
泉駅 18・30 (解散)
野反瀬から白砂山までアップダ
ウンを繰り返して、夜行明けの20人
は8時間30分を歩いた。翌日は
時間の都合でエビ山から三壁山を
回避した。山容の美しい白砂山か
ら佐武派山や皇甲山、そして橋手
山・岩笠山を望んだ。
(参加者) 朝倉進雄 緒方由子
沖 伸 川島勝美 荻野美紀恵
栗橋崇吉 栗橋裕子 砂原重美子
上田久子 鳥居信吾 林 えい子

榎梅ノ滝からヤケオ山

6月18日(日) くもり (比良を歩く 50)
(集合) J R 小松駅 9・00 / 12
1 登山口 9・33 / 40 / 榎梅ノ滝
滝下 9・45 / 50 / 第一滝見台 10・
00 / 榎梅ノ滝 滝下 10・06 / 第二
滝見台 10・15 / 滝下 10・36 / 47 /
ヤケオ山 11・22 / 30 / 大石山 11・
42 (昼食) 12・20 / タンヤマノ頭
12・38 / 43 / ヤケオ山 13・05 / 20
1 登山口 14・00 / 大宮川堰下 14・
32 / 40 / 近江舞子駅 15・25 (解散)
終日雲が切れず、展望台からの
榎梅ノ滝は全容がモヤのなかだっ
た。滝道に下り、瀑風を浴びなが
ら見上げる水風豊かな榎梅の迫力
は圧倒的だった。
(参加者) 馬籠史男 小川富士雄
崎山悦子 須藤のり 塚本忠次
平田和子 大川直道 長尾一命
前田初雄 豊村孝子 森 つる子
本間 隆 本間孝子 北村つねみ
後藤孝子 平塚明美 船菜由美子
西原裕美 西原裕子 川北重美子
仲井洋司 渡部和美 多賀久子
蓮井洋子 枝原公代 岡本真美
◎青木一雄 ◎桑 康夫 (計28名)

釈迦ヶ岳・仙香山

鈴鹿を歩く 242

6月18日(日) くもりのち晴れ
(集合) 八風谷林道 8・20 /
林道 峠 8・40 / 仙香山北麓 大岩
9・55 / 仙香山 池 10・05 / 釈迦
ヶ岳 11・25 / 松尾根の頭 11・35
(昼食) 12・30 / 赤坂谷源流 13・
00 / 作業小屋 13・45 / 八風谷林道
15・00 (解散)
八風谷林道は尾根を越え仙香山
源流約730mまでのびていた。
ガスのなか、谷の右尾根ルート
を仙香山に突き上げた。池に着く
とガスのなかに薄日が差し、神秘
的で幽玄の池はヤマツツジと新緑
を映し、その雰囲気は仰天した。
松尾根の頭で昼食し、下山は赤
坂谷の深い樹林をくぐった。心に
残るセラビの樹林の山旅となっ
た。
(参加者) 池田繁美 奥野太一郎
服部 亮 倉谷 昭 的場たか子
岩本彩子 村田紀生 石田真由美
豊田壽利 谷 守 佐古田文字
今井武司 一芝良弘 一芝美知子
小林 修 白木直弘 白木やす子
西村文男 ◎山田隆三 (計20名)

六甲・再登山

フアミリーハイク 86

6月21日(日) 晴れ
(集合) J R 三ノ宮駅 8・00 (バス)
1 紫雲山公園 9・15 / 25 / 再
度池五郎 10・00 / 05 / 観ヶ池 10・
25 / 35 / 再度山口 05 / 10 / 大滝
寺 11・30 / 35 / 市ヶ原原 11・
50 (バス) 13・50 / 大滝
寺 14・10 / 15 / 蔵書地 14・
55 / 15・00 / 蔵書地の館前 15・30
40 (解散)
諏訪神社の森から、アジサイが
涼風を誘う谷筋の大陣道を登った。
再度山頂は展望がなかったが、重
徳山を通る下山道の休憩地で港景
色が一望できた。
(参加者) 兼田幸子 眞田久子
須藤のり 崎山悦子 伊東ナナ子
本間明恵 小田朋子 松井明忠
矢野 稔 本家孝子 中川節子
宮野裕子 松尾裕子 中村静香
小林 桂 小林博子 下村悦子
岩城豊子 若林文夫 砂原重美子
青木一雄 桂尾正一 加藤浩一
秋越正人 中澤ちず子
◎西條良彦 ◎木村太郎 (計28名)

上宿 白砂山から八間山 エ
ビ山から三壁山
(自然観察山行 213)

徳谷村司 長尾一合 森 美香子
松村穂子 森本淳子 安田文美江
山形 明 ○三井社
◎警備守衛 (計20名)

京都大学声生研究員

6月25日 くもり一時雨

(集合) J R関ヶ原7・15/J R
近江今津駅8・10/道の駅朽木本
陣9・00(車) 生杉休憩所9・40
45二国峠10・20 野田郷11・
20 野田畑11・40(昼食) 12・
05 上谷12・25 長沢谷小屋13・
00 下谷大カワラ13・20 地蔵峠
14・00 生杉休憩所14・35 50
(解散)

期待のオオバアサガラはすでに
終わり、花殻の確認のみだが珍し
いシヨウキランに二本山出えてよ
かった。

(参加者) 小林一世 北村つねみ
堀江房雄 萩野暢子 光川 美子
林 正義 竹田勝英 猪村茂子
西村文男 小林 修 渡辺芳英江
三下沖夫 山田妙子 ◎山田明男
(計14名)

芦生・杉尾から横倉谷
(北山ちよと歩き)

新ハイキングクラブ関西
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心にしたハイキン
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、健康な身体をつ
くり、自然のなかを歩く喜びをと
もに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に55年
間余、好評のうちに活動していま
す。関西は平成3年秋発足して16年
目に入りますが、すでに多数の会
員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて楽しい山歩きを、多くの仲
間たちと味わいませんか。
リーダー(係)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。

会員には「新ハイキング関西の
山」を毎月お届けします。
四季の自然に触れながら山を歩

6月28日(例) くもり一時雨
(集合) J R京都駅7・10 15
(バス) 生杉駐車場9・40 地蔵
峠10・10 杉尾林道11・50(昼
食) 13・10 中のツボ谷分岐14・
50 赤合橋15・40 須後16・20
(バス) 京都駅19・20(解散)

上敷線8日間
6月15日(内) 22日(外)
(集合) 関西国際空港8・00 10・
00 北宮駅12・10 19 23 30
00 北宮駅23・00 ホテル23・30
00 8・00 紅山公園8・30 1
9・00 天池11・30 15 00 1 民
族文化村15・30(池) 8・00 天
池橋8・30 40 天池南端9・
10 持津2 50 地点12・10
13 10 天池南端15・30 天池
北公園18・00 民族文化村18・30
(谷) 8・00 駐車場8・30 ウ
ルムチ博物館・バザール見学後ウ
ルムチ駅9・00 44(車中泊) 柳
園駅8・26 9・30 ホテル10・
30 11・30 葛城山13・00 15・
00 ホテル16・00(池) 5・00 1
鳴砂山5・30 6・30 ホテル7・
00 8・00 魔界城・玉川関・關
関を見学後ホテル16・00(池) 9・
00 博物館・白眉見学後後炊屋
港14・20 西宮空港16・30 1
00(池) 7・00 長谷川博物館8・
00 9・30 西宮空港10・30 12・
00 北宮駅13・40 16・20 関
西国際空港(池)

海外特別山行
中国・天山山脈水ゴダ峰展望

(参加者) 木村 豊 砂原忠美子
植木敏子 沖 伸 紀子
栗橋君子 林 正義 塚本忠次
本間 隆 平田和子 中島 隆
見島愛子 前田初雄 今村克美
岩本彩子 岩佐 修 藤村勝彦
妹尾一正 星野正弘 尾見瑞子
太田敏弥 太田忠子 渡部和美
小谷和子 塩見剛也 田中 明
角江朝子 須藤幸子 山盛加奈子
岩村春子 友田 毅 友田美保子
平田輝美 林 弘毅 松上美代子
山根弘美 今田恵子 井上聡美
◎藤原 純 ◎井上井記晴
◎中川光郎 ◎谷 守
◎藤 康夫 ◎真山三三(計14名)

き、若々しい心と健康をいつまで
も保持するのはすばらしいことだ
す。これから始めてみたい人、す
でにベテランの人みなさんへ人
会いたいです。

入会金 5000円(ワッペン共
年費費 3000円(送料共
入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用
ください。氏名(ふりがな)及び第
何号からの送本かを忘れずに記
入ください。

なお、定期購読を希望される
方も会員になっていただけますと
恒例の確実にお手元に届きますので
便利です。

切手530円分をお送りになれ
ば、「新ハイキング関西の山」最
新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集
リーダーは2ヶ月に1回程度
度の山行例会を計画・実施してい
たきます。

無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。マニュアル「リーダー
必携」をご参考に送ります。

根のため5時間着陸、帰りの炊屋
空港では軍事演習による空港閉鎖

で4時間待ちなどのハブニングが
あったが、天山山脈では雪を被っ
たボゴダ峰を眺めるトレッキング
を楽しみ、寝台列車・葛城山・砂
浜の中の古尺遺跡・二千二百年前
の兵馬俑などを体験した8日間だ
た。

(参加者) 磯 勇子 田中三恵子
藤原幸子 大西信郎 大西穂子
森澤元博 森澤敏子 関口恵子
坂倉茂美 白田忠子 前田幸子
◎塚元一彦 (計12名)

5・6月の参加 延918名

◎収入会員(定形購読者) 紹介
新しいお仲間をみなさんで。
会員番号5208番から5222番
番まで(敬称略)

【愛知】 村田知雄 森 元子
【三重】 村田芳雄
【滋賀】 橋 敏之 橋 優子
【京都】 有泉 登 土倉由布子
高橋里美 大山新一郎
西川京子
【大阪】 西倉直美子
加藤敏和 秋光哲也
【兵庫】 中尾友彦 (16名)

訂正とお詫び
89号(初夏)105ページ下段10行
「尾中館」は「尾布館」が正しい。
89号(盛夏)19ページ路頭中の
正確峰「7.5.2m」は「7.2.5m」
が正しい。同21ページ下段後ろか
ら「なかつ」は「なかつた」は
「なかつた」が正しい。
同22ページ下段3行目「飲んだ」
は「飲んだ」が正しい。
89号(盛夏)92ページ一段四行
目「表巻峰」は「表谷峰」が正し
い(88ページ予定表も同様)。
(編集室)

書店でお求めになりたい方へ
前もってほしいと「購読
予約」をさせていただきます。この書
店でもお買い求めいただけます。
「関西の山」は隔数月の20
日頃(隔月刊)の発売。

新ハイキング社
(東京本社) 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル301
TEL 03-3915-8110 (編集室) TEL 03-3915-8852
「新ハイキング」(月刊)・新ハイキング選書
(関西分社) 〒610-0121 京都府城陽市寺田大野10-10
TEL 0774-53-2754
「新ハイキング」関西「関西の山」(隔月刊)

「新ハイキング」ホームページ
インターネットで「新ハイキング」の全てがご覧になれます。
<http://shinhai.net/>